

ローズタウン遺跡群

富田下大日Ⅱ遺跡

ローズタウン住宅団地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋は古代より豊かな文化あふれる地であり、東日本でもきわだった内容を示しています。今から二万八千年前の旧石器をはじめとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城、明治からの近代化を示す群馬県庁昭和庁舎等の近代化遺産など多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内のほぼ全域に残されています。古代の人々の暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

ローズタウン住宅団地が建設されようとしている江木・富田町周辺は、赤城山南麓の自然に恵まれた地であり、周辺では縄文時代からの人々の生活の跡がこされています。

本年度調査のローズタウン遺跡群 富田下大日II遺跡では、事業実施に先立ち、地区全域の試掘調査を行い、その後、発掘調査を実施いたしました。

発掘調査により縄文時代の住居跡と奈良から平安時代の住居跡、掘立柱建物跡などを調査し、地区の歴史解明に貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました市工業課、前工団、地元関係者、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成13年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 阿部 明雄

例　　言

- 1 本報告書は、ローズタウン住宅団地造成事業に伴う富田下大日II遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地　群馬県前橋市江木町1821番地外。
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 阿部明雄）の指導のもと、業務委託を受けたスナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
　調査担当者 平野岳志（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
　高山 剛（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
　金子正人（スナガ環境測設株式会社）
　板垣 宏（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成12年12月28日～平成13年3月23日
- 5 整理期間 平成12年12月28日～平成13年3月23日
- 6 調査計画面積 7972m²
- 7 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 8 測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…金子正人・板垣 宏、測量…板垣 宏・樺田友寿・山口和宏・山本良政・貝瀬寿雄、写真撮影…板垣 宏、安全管理…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 9 本書は、調査団の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰ～Ⅳを平野岳志（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・それ以外を板垣 宏、編集…須永眞弘、校正…金子正人・荻野博巳、実測図作成・整理…小林健二・都丸 桂、遺物洗浄・注記・復元…栗原昭一郎・飯島勝亥・片貝美子・小暮幸子・田辺富士子・遺物実測…樺田友寿・猪熊正明・小見修一・佐々木智恵子・戸根浩美・田辺富士子・文章の清書…戸根浩美・内業事務…須永 畏・柴崎信江が担当した。
- 10 発掘調査に参加した方々（敬称略）
　飯島勝亥 飯島いし 飯塚輝彦 内山伍作 奥原勘次 貝瀬寿雄 柿沼仙一 鹿沼 信
　上村一視 関根時太 関根義雄 田辺富士子 中川住一 奈良武利 横沢伊勢次 伏島経男
　伏島みさを 真鍋隆男 水石信雄 山本良政

凡　　例

- 1 遺跡の略称は、12E47である。
- 2 遺構名の略称：繩文土器を伴う住居…J、土師器を伴う住居…H、掘立柱建物跡…B、竪穴状遺構…T、土坑…D、ピット…P、溝状遺構…X、風倒木痕…Oで表示した。
- 3 実測図の縮尺は、遺跡全体平面図1/400、住居跡1/60、カマド・炉1/30、掘立柱建物跡・竪穴状遺構・溝状遺構・土坑・ピット・風倒木痕1/60、遺物1/3を原則とし1/2、1/5を使用した。上記以外の縮尺を使用したときは、その都度表示した。
- 4 遺構の位置図は、国土地理院発行の5万分の1「前橋」を加筆して使用した。
- 5 遺跡の位置の基準は、国土地理院の三角点及び水準点と照合済。座標系番号は、IXである。A区 A 0グリッド地点
　X 44000m, Y -62200m、水準点 BM.1--116.00m, BM.2--118.00m
- 6 土層断面の土色名及び土器の色調は『新版標準土色図』（農林水産省農林水産技術会議事務局・監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修）2000年版による。
- 7 土層注記及び本文中にAs:浅間山、Hr:榛名山の略称を使用した。
- 8 石器実測図の表現方法は以下の通りである。
　自然面…[diagonal hatching]　敲打痕…[horizontal hatching]　磨耗痕…[cross-hatching]

目 次

序.....	i
例 言.....	ii
凡 例.....	ii
目 次.....	iii
I 調査に至る経緯.....	1
II 遺跡の位置と環境.....	1
1. 遺跡の立地.....	1
2. 歴史的環境.....	1
III 調査の経過.....	4
1. 調査方針.....	4
2. 調査経過.....	5
IV 層 序.....	5
V 検出された遺構と遺物.....	8
概 観.....	8
1. 綱文時代住居跡.....	8
2. 奈良・平安時代住居跡.....	15
3. 掘立柱建物跡.....	18
4. 壁穴状遺構.....	21
5. 土 坑.....	21
6. ピット.....	23
7. 方形溝状遺構.....	23
8. 風 倒 木 痕.....	23
9. その他の遺構.....	23
10. グリッド出土遺物.....	26
VI まとめ.....	28

図

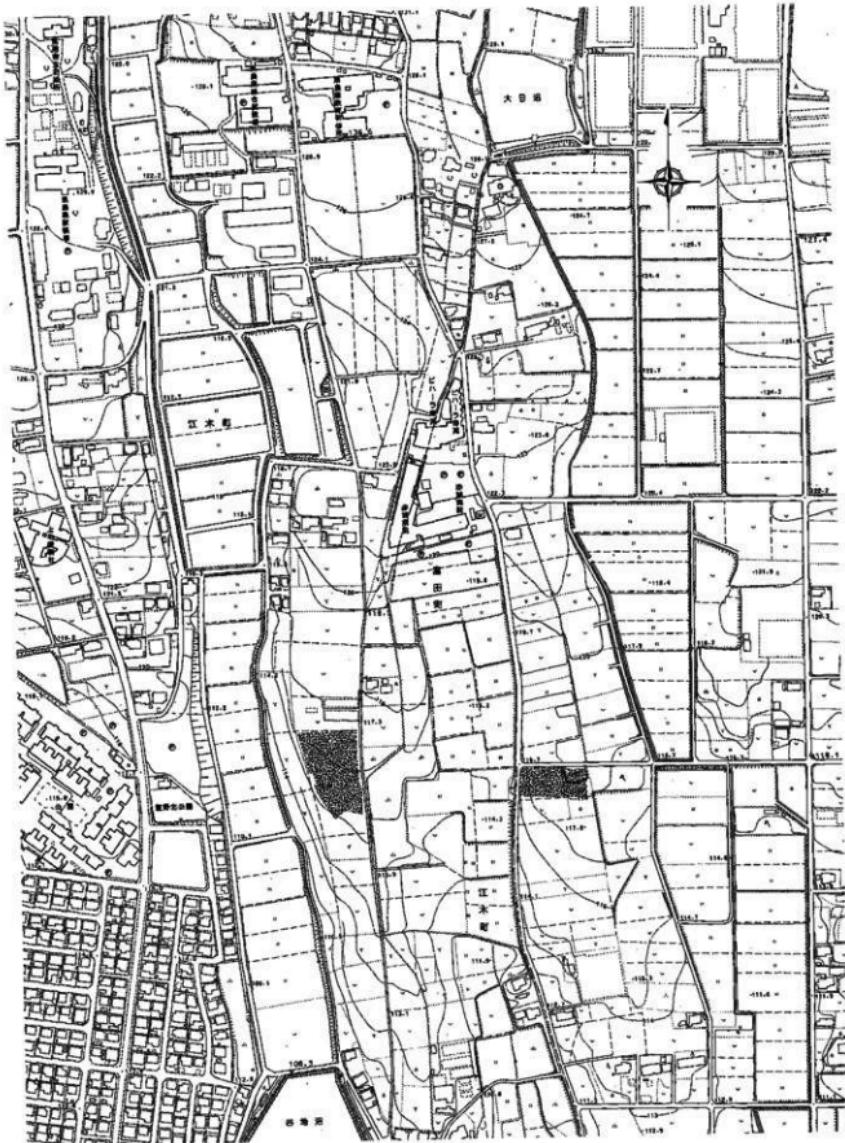
第1図 遺跡位置図.....	iv
第2図 周辺遺跡図.....	2
第3図 作業工程図.....	5
第4図 標準土層断面図.....	5
第5図 西側調査区平面図.....	6
第6図 東側調査区平面図.....	7
第7図 J-1号住居跡平面・断面図.....	9
第8図 J-1号住居跡遺物分布・断面図.....	10
第9図 J-2号住居跡平面・断面図.....	11
第10図 J-2号住居跡遺物分布図.....	13
第11図 J-3号住居跡平面・断面図.....	13
第12図 J-4号住居跡平面・断面図.....	14
第13図 H-1号住居跡、カマド平面・断面図.....	16
第14図 H-2号住居跡、カマド平面・断面図.....	17
第15図 H-3号住居跡カマド平面・断面図.....	17
第16図 H-3号住居跡平面・断面図.....	19
第17図 B-1号掘立柱建物跡平面・断面図.....	19
第18図 B-2・3号掘立柱建物跡平面・断面図.....	20
第19図 T-1号壁穴状遺構平面・断面図.....	22
第20図 D-14、O-5平面・断面図.....	22
第21図 D-15・16・19・21・22、O-10平面・断面図.....	24
第22図 X-1号方形溝状遺構平面・断面図.....	25
第23図 東西調査区深堀・壁断面図.....	25
第24図 グリッド別遺物分布図.....	27
第25図 グリッド別焼石分布図.....	36
第26~28図 J-1号住居跡遺物実測図.....	38~40
第29~30図 J-2号住居跡遺物実測図.....	41~42
第31図 J-2・3・4号住居跡遺物実測図.....	43
第32図 J-4号住居跡、D-2L、O-5遺物実測図.....	44
第33~45図 グリッド出土遺物実測図.....	45~57
第46図 H-1~3、B-2・3、グリッド出土遺物実測図.....	58

表

第1表 周辺遺跡一覧表.....	2
第2表 土坑計測表.....	23
第3表 出土遺物観察表.....	29
第4表 ピット計測表.....	37

写真図版

図版 1~7 調査現場撮影 図版 8~14 遺物写真撮影



第1図 遺跡位置図

I 調査に至る経緯

平成11年10月25日、前橋工業団地造成組合（前橋市商工部工業課、以下前工団）から同市教育委員会文化財保護課へ住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼が打診される。これを受け同年10月28・29日、同文化財保護課で試掘調査を実施。試掘を実施した箇所は住宅団地の調整池の部分であったが、遺構は確認できなかつた。平成12年4月17日、前工団より文化財保護課に住宅団地造成予定地の埋蔵文化財発掘調査の依頼が成される。そこで同年4月18日に前工団と文化財保護課の間で発掘調査についての協議を経て、5月18日前工団管理者 萩原 弥慈治と、前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部 明雄との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結の運びとなり、5月24日から現地での発掘調査を開始するに至った。調査依頼面積が45haと広大であり、さらに調査を依頼されている箇所が住宅団地造成により掘削されてしまう高台と、新たに住宅団地内に造成される道路予定地部分に限られており、調査開始についてはまず試掘調査から取りかからねばならなかつた。そのため7月中旬まで遺構分布状態を確認するために、トレーニングによる試掘調査を行つた。この結果、昭和30～40年代に実施された土地改良のため、調査対象区域の大部分で擾乱が認められた。このため調査面積に比して検出遺構並びに検出遺物は少なかったが、遺構の分布が調査対象区域南側に散在していることが判明した。このため平成12年度分の調査を、調査現場プレハブ小屋近辺の遺構が集中して検出された部分に限定し、7月17日より本調査を開始した（富田下大日I遺跡）。試掘調査の結果、それ以外の場所から検出された遺構については、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導・監督のもと、スナガ環境測設株式会社に発掘調査を委託することになった（富田下大日II遺跡）。なお、調査地に造成予定の「ローズタウン住宅団地」にちなんで、遺跡名称に「ローズタウン」を使用した。

II 遺跡の位置と環境

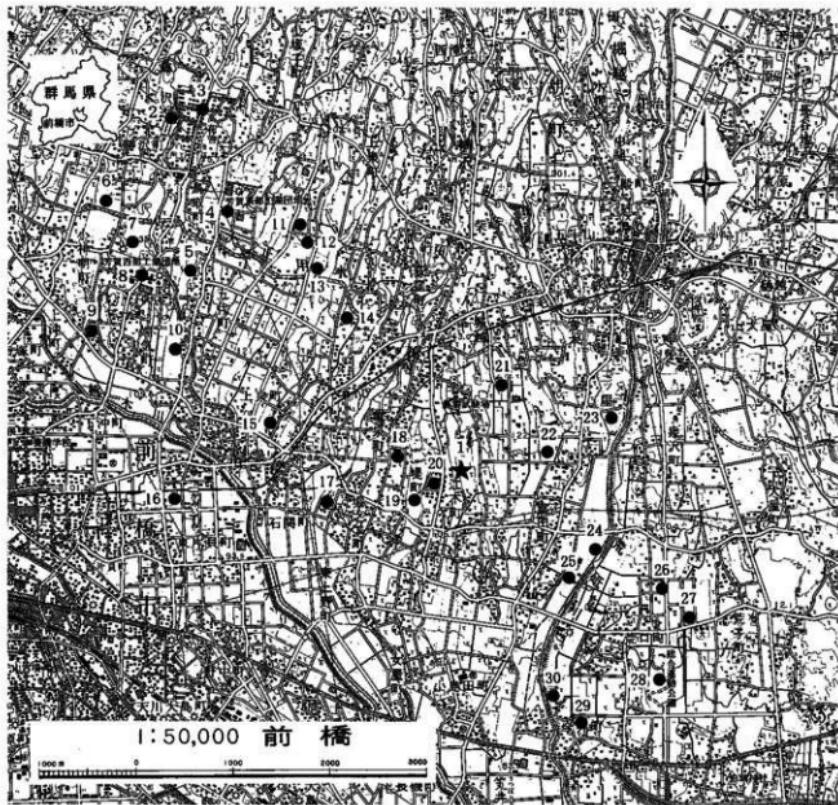
1. 遺跡の立地

本遺跡地は、前橋市街地から東方に約6kmほど離れた前橋市江木町・富田町に跨るように所在する。遺跡地の地番は江木町1821番地ほかである。本遺跡地は赤城山麓傾斜地の南端部に位置しており、中央部に幅約300mほどの谷地を挟むように南北方向に長く延びた台地上にある。その台地を囲むように住宅が建ち並び、西側は萱野団地に、北東部は大胡町に接する。また遺跡地の北側には前橋大間々桐生線、南側には前橋赤堀線といった主要幹線道が遺跡地を南北に挟みこむように走っている。赤城山麓傾斜地は宮城村三夜沢、標高にして約500m付近から山麓緩傾斜に移る。そこから約10kmほど下り、遺跡地の南側約1km近辺で沖積傾斜地にぶつかる。低地帯と山麓傾斜の接合部の標高はおよそ80m、本遺跡地の標高は約114～118mである。

遺跡のある赤城山南麓は関東ローム層を基盤とする洪積台地が発達し、広大な農作地帯が広がっている。また、この赤城山南麓傾斜地には山頂部の小沼から流れる柏川をはじめとして、荒砥川・白川等が放射線状に流れ出しており、その間に大小の河川が形成する谷地の沖積地はかなり広大な様相を呈しており、遺跡の分布は標高約350mから標高400m辺りの一帯を北限とし、山麓を環状に取り巻いている。さらに火山性泥流丘（流れ山）も數カ所で確認されており起伏に富んだ地形である。このような地形は原生から古代にかけ集落を形成する上でも適していたようで、県内でも遺跡分布が集中している地帯でもある。

また枝状に流下している河川によって複雑に絡み合う谷地が作り出され、そこには水田が多く開拓されている。谷地は比較的狭いものがほとんどであるが、谷底部は標高の高い場所でも水田になっている。本遺跡地にも中央部に幅約300mの谷地が南北に横たわり谷地水田面と台地部高低差は東側で約7m、西側萱野団地との高低差は約9mである。周辺部は土地改良に伴って大小様々な遺跡の発掘調査が長年にわたり行われ数多くの遺跡が発見されている。特に本遺跡地から東側に流れている荒砥川左岸の台地上は、昭和50年代に行われた県営荒砥北部地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査においてそのほとんどが遺跡地であるといつても差し支えがないほどの調査報告がなされている。

2. 歴史的環境



第2図 周辺遺跡図

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	富田下大日I・II遺跡	縄文住居跡 窯良・平安住居跡	16	木本田遺跡	窯良・平安住居跡
2	芳賀北古輪遺跡	縄文住居跡 磁石住跡 古墳	17	正円寺古墳	前方後円墳 全長70m
3	芳賀北御園地遺跡	縄文住居跡 窯良・平安住居跡	18	沼西I・II遺跡	I平安住居跡 II窯良・平安住居跡
4	芳賀東部御園地遺跡	縄文住居跡 古墳～平安住居跡 古墳	19	堤沼下遺跡	窯良住居跡 土坑 滝 風倒木底
5	鳥取福藏守遺跡	縄文住居跡 窯良・平安住居跡	20	寅町遺跡	縄文住居跡 古墳住居跡 方形周溝墓
6	小神明遺跡群	縄文住居跡 窯良・平安住居跡	21	今堀遺跡	窯良住居跡
7	小神明遺跡群II	縄文・弥生住居跡 古墳住居跡 古墳	22	御山古墳	円墳 昭和9年発査 紋1 刀1 帽1 金環1
8	芳賀西御園地遺跡	縄文前住居跡 古墳	23	櫛荷前遺跡	縄文堅穴状 古墳住居跡 古墳
9	瑞氣遺跡群I・II	縄文住居跡 古墳住居跡	24	おとうか山古墳	円墳径29m 昭和54年調査
10	大日塚古墳	円墳 径30m	25	富田東原遺跡	古墳住居跡 古墳 中世墓
11	五代塚I・II遺跡	古墳住居跡	26	額久保遺跡群	撒余文土器 古墳住居跡
12	検査遺跡	窯良・平安住居跡	27	頭無遺跡	細石刃核
13	検査古墳	円墳 現存径17.5m	28	鶴ヶ谷遺跡群	撒余文土器 沈修文・糞痕文土器 中世墓
14	新田塚古墳	円墳 径30m 7世紀	29	荒砥北三木堂遺跡	縄文住居跡 弥生～平安集落 中世墓
15	上泉木塚三前遺跡	縄文住居跡 平安住居跡	30	荒砥北原遺跡	撒余文土器 縄文住居址 窯良・平安集落

第1表 周辺遺跡一覧表

本遺跡地周辺の歴史的環境について概観してみたい。本遺跡地と幅約200mの谷地を挟んだすぐ西側に隣接している萱野団地は昭和60年・61年度にかけて発掘調査が行われ、横穴式古墳1基、縄文時代から古墳・奈良・平安時代にかけての集落跡が住宅団地面積5万m²にわたり竪穴住居跡30軒以上が検出された。遺跡地東方約6kmの地点には大室古墳群があり縄文時代・古墳から平安時代にかけての集落遺跡、及び古墳が集中的に分布している。また、本遺跡地の南東約1.7kmに流下する荒砥川東岸の地域では、荒砥北部・南部、西大室区域での大規模なほ場整備事業により土地開発が進められ、それに伴う発掘調査が昭和50年代から昭和60年代にかけて行われた。その結果、荒砥川流域は先史時代から近世までの遺跡が間断なく続いている事が判明した。以下は、荒砥川周辺地域も含め、時代ごとに歴史的環境を記してみたい。

赤城山南麓の台地は埋蔵文化財の宝庫である。まず縄文時代の遺跡は、標高550mより下の地域で、国道353号線付近に重点的に分布している。本遺跡地から検出された縄文時代の遺構は少なかったが、試掘調査の時点でトレンチ内から縄文時代中期の加曾利E式土器が出土している。この出土土器の大半は遺物包含層から出たものであり、遺構との明確な関連性は薄いと思われる。本遺跡地の北東約3kmの大胡町上大屋南部遺跡群にある西小路遺跡・上ノ山遺跡・諏訪東遺跡群からも同時期の加曾利E式土器と竪穴住居跡の調査報告がなされている。

本遺跡地の北西約5kmほど離れたところに位置する芳賀東部団地遺跡群では昭和48年から8年間発掘調査が行われ、縄文時代から中近世までの住居跡が数百軒検出されている。芳賀地区からは、縄文時代草創期・早期の土器が出土しており、縄文時代の前期の櫛町、鳥取町、勝沢町等の遺跡調査では竪穴住居が検出されている。

また、荒砥川左岸では荒砥北原遺跡・荒砥宮田遺跡でも、縄文時代前期から中期にかけての竪穴住居・土坑を検出している。

弥生時代になると周辺部の遺跡数は減少する。荒砥川左岸の荒口前原遺跡で弥生時代中期の住居跡が調査され、竜見町式土器が出土したり、荒砥大日塚遺跡・鶴が谷遺跡・諏訪遺跡・内堀遺跡群・荒砥上ノ坊遺跡などに數軒の竪穴住居を調査した例があるが、住居軒数自体は少ないものである。芳賀地区についても弥生時代の遺跡はあまりみられない。小神明II遺跡からは弥生時代中期から後期にかけての住居跡が2軒検出されたが、うち1軒は焼失住居であったことが分かっている。小神明IV遺跡からも竪穴住居跡1軒を検出している。隣接地区では、大胡町の金丸遺跡に弥生時代中期の岩屋山式の壺や甕を出土した調査報告がある。この時代の多くの遺跡は水田耕作に適した谷地地形の地域を中心に広まる傾向がある。弥生時代中期後半の集落遺跡としては前橋市荒島原遺跡・荒砥前原遺跡等で確認されている。

古墳時代に入ると、赤城山南麓一帯には急激に遺跡数が増えることになる。前橋市広瀬町の八幡山古墳・前橋天神山古墳等に代表されるように、古墳の大型化が進み、群馬町では三ツ寺居館が作られた時期である。また芳賀地区の鳥取町には古墳群が形成されたのもこの頃である。芳賀東部団地においては竪穴住居跡374軒、掘立柱建物跡206棟にも及ぶ集落遺跡が調査されているが、これは古墳時代から奈良・平安時代のものである。また隣接している芳賀西部団地遺跡においても古墳時代の古墳が30基、芳賀北部団地も竪穴住居跡227軒、掘立柱建物跡8軒、製鉄跡3基を検出している。この地区には奈良時代になると勝沢・小坂子・小神明・櫛町に集落が形成されるようになる。また、本遺跡地の東側荒砥川流域では、石田川式土器が検出された遺跡が数多く存在しており、古墳時代の集落を形成している。特に荒砥川流域の地域は他地域と交流する点で利便性があったようである。ここには石田川式土器を供伴する遺跡が多く、古墳時代の集落が継続的に存続していたと考えられる。荒砥川左岸の北原遺跡からは、古墳時代前・中・後期の竪穴住居が合わせて73軒、円形周溝墓2基が調査され、荒砥川の自然堤防上に位置する諏訪西遺跡からは竪穴住居跡11軒・古墳を2基（うち一つは竪穴式石室）が調査された。荒砥諏訪西遺跡からは古墳時代前期の竪穴住居跡49軒、古墳時代後期の竪穴住居跡10軒がいずれも荒砥川左岸の丘陵地帯に集中している。荒砥川東側の前橋市域だけでも古墳時代中期の集落遺跡は20遺跡以上、古墳時代後期の遺跡では36遺跡も確認されている。荒延左岸地域（泉沢町・荒口町・今井町・荒子町・西大室町）には、この時期に数多くの古墳も造られている。当時これらの集落の数が古墳の数多い分布にそのまま反映されているようである。荒砥川とその東側の赤堀町を南流する柏川流域は、県内では最も古墳の分布が集中している地域である。『上毛古墳総覧』にも旧荒砥村には365基、赤堀町域にも333基の古墳が存在していたと記述されている。

群馬県で初めて古墳が築造されたのは4世中頃から後半にかけてといわれている。その頃の古墳は高崎・藤岡方面の西毛地域と前橋から太田市にかけての東毛地域の平野部に点在している。こうした古墳や集落の分布状況

を見てみると、それぞれの地域ごとに生活圏が形作られ、首長と呼ばれる支配層が次第に頭角を現し、成長を遂げてゆくと当時の様子を想像することが出来そうである。本遺跡地周辺にも古墳群が多数在する。代表的なものとしては、前橋市西大室古墳群・富田古墳群・荒子古墳群・赤堀町多田山古墳群・伊勢崎市波志江古墳群等、枚挙にいとまがない。荒砥川左岸丘陵部の舞台西遺跡では古墳が4基、西大室丸山遺跡では、古墳を3基調査している。西大室丸山遺跡の古墳では石室の形態が、県内では6世紀から導入されたとされる横穴式石室である。副葬品からも判断し築造時期は6世紀後半から7世紀前半とみられる。この遺跡ではその他、多くの石製模造品と有孔円板・白玉・手掘土器、少量の須恵器が検出された。また、祭祀跡も見つかっている。祭祀跡は周辺に巨石が数個見つかっており、その巨石を対象にした祭祀跡であることが判明した。祭祀跡が見つかっている遺跡は西大室丸山遺跡以外にも群馬町の三ツ寺I遺跡（5世紀後半）、伊勢崎市の原之城遺跡（6世紀前半）がある。巨石を対象とした祭祀跡は宮城村の櫛石や高崎市の正觀寺遺跡が挙げられる。前橋市泉沢町にある丸山遺跡からは環濠柵列居館が検出され、そのすぐ南にある荒砥荒子遺跡からも同様の環濠居館が調査されている。泉沢・荒口地区からは和泉式土器を供伴する住居跡も多數検出されており、かなりの規模の集落がこのような環濠居館を囲むように存在しており、政経上の重要拠点となっていたようである。また本遺跡地の北西の五代町には7世紀前半の副葬品を出土した五代大日塚古墳、南西約3kmの堀之下町には後円部に横穴式石室を持つ正円寺古墳がある。

奈良・平安時代の遺構としては、本遺跡地の検出遺構からも数軒確認できた。本遺跡地の東側に位置する富田遺跡群からも57軒の奈良・平安時代の竪穴住居跡を検出している。周辺部の遺跡としては芳賀東部団地遺跡から竪穴住居跡374軒、掘立柱建物跡206棟と大量に発見されたのをはじめとして、芳賀北部団地遺跡からも奈良・平安時代竪穴住居跡が227軒、製鉄跡も3カ所で検出された。古墳時代から継続的に形成された生活圏が平安時代に入っても途絶えることなかったようである。平安時代中期に記された『和妙抄』にも勢多九郷の内の1郷として集落が発展していった様が見て取れる。上泉・五代町にある椿峯遺跡からは奈良三彩小壺が発見された。当時は貴重であった奈良三彩小壺がこの赤城南麓の一帯から出土したことは、周辺地域の文化的な水準が高かったことを示す重要な遺物である。

III 調査の経過

1. 調査方針

調査の実施にあたっては、依頼を受けた調査面積が約45haと広大であるため、まず対象面積全体に試掘トレーンを入れ、遺跡地を確認することから始めた。さらに本調査に関しては、依頼者より団地造成の際に切り崩すことになる高台部分と、団地造成により新たに設定される道路部分に当たる範囲についてのみ、調査を行うという条件があつたため、条件提示部分で検出された遺構を中心に調査範囲を広げて行った。その結果、調査範囲ほぼ中央部の高台東傾斜部を「富田下大日I遺跡」、同高台西傾斜部及び西側の高台西傾斜部を「富田下大日II遺跡」として、発掘調査対象地とした。

富田下大日II遺跡の調査実施に先駆け調査範囲全体をカバーする100×100mの大グリッドを設定し、西側調査区をA区・B区、東側調査区をC区・D区とした。その中を4m毎に東西ラインを算用数字で、南北ラインをアルファベットで呼称し区画した。グリッドの呼称は北西の交点の名称を使用した。また水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

ローズタウン遺跡群 富田下大日II遺跡のBA-15グリッド・DA-0グリッドの公共座標は、

第IX系 +43900.000m (X) -62140.000 (Y)

第IX系 +43900.000m (X) -61900.000 (Y)

調査方法については、表土掘削・遺構確認・杭打設・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行うこととした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、住居跡・掘立柱建物跡等の遺構は1/20、住居跡竪・戸は1/10、土坑・ピットは1/40の縮尺で作成した。遺構の遺物については、平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納したが、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行ない収納した。また、プラン確認の段階で1/400の現況図を作成し、その後の調査に活用した。

2. 調査経過

平成12年12月28日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレの設置を行った。市調査団の指導のもと、重機による表土掘削と並行して遺構確認面の精査を開始した。その結果、多くの繩文土器片、竪穴式住居跡、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑、ピット等の遺構を確認し調査を実施した。

1月 西側調査区より重機による表土掘削を開始する。ジョレン精査によるプラン確認により竪穴式住居跡、掘立柱建物跡等を検出し、調査に入る。下旬には、東側調査区の表土掘削作業を開始する。

2月 引き続き西側調査区の調査を行い、下旬には、ほぼ完了する。東側調査区も表土掘削完了後のジョレン精査により、竪穴式住居跡、土坑、ピット、溝状遺構等を検出し、調査に入る。

3月 西側調査区は、写真撮影を行い、上旬に調査を完了する。また東側調査区も測量・写真撮影を行い作業を終了した。

期間	西側	東側	整理
平成12年 12月			
平成13年 1月	■		
2月	■	■	
3月	■	■	■

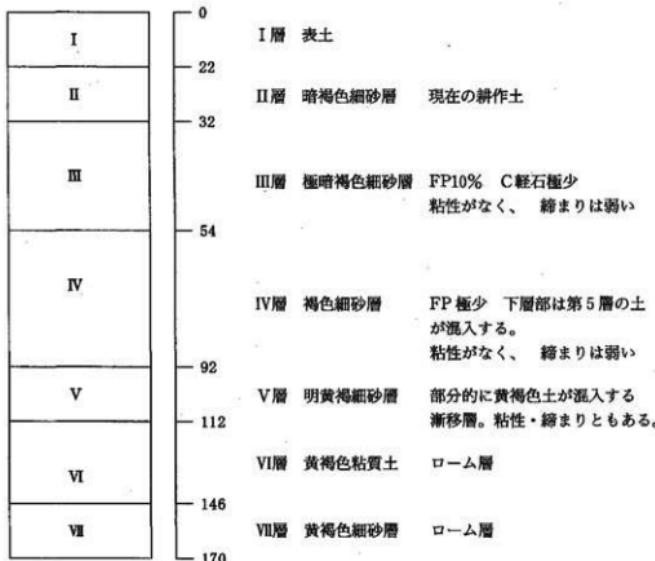
■ 表土掘削、プラン確認
■ 漢機掘り下げ、測量
■ 仕上げ、全体写真撮影
■ 整理作業

第3図 作業工程図

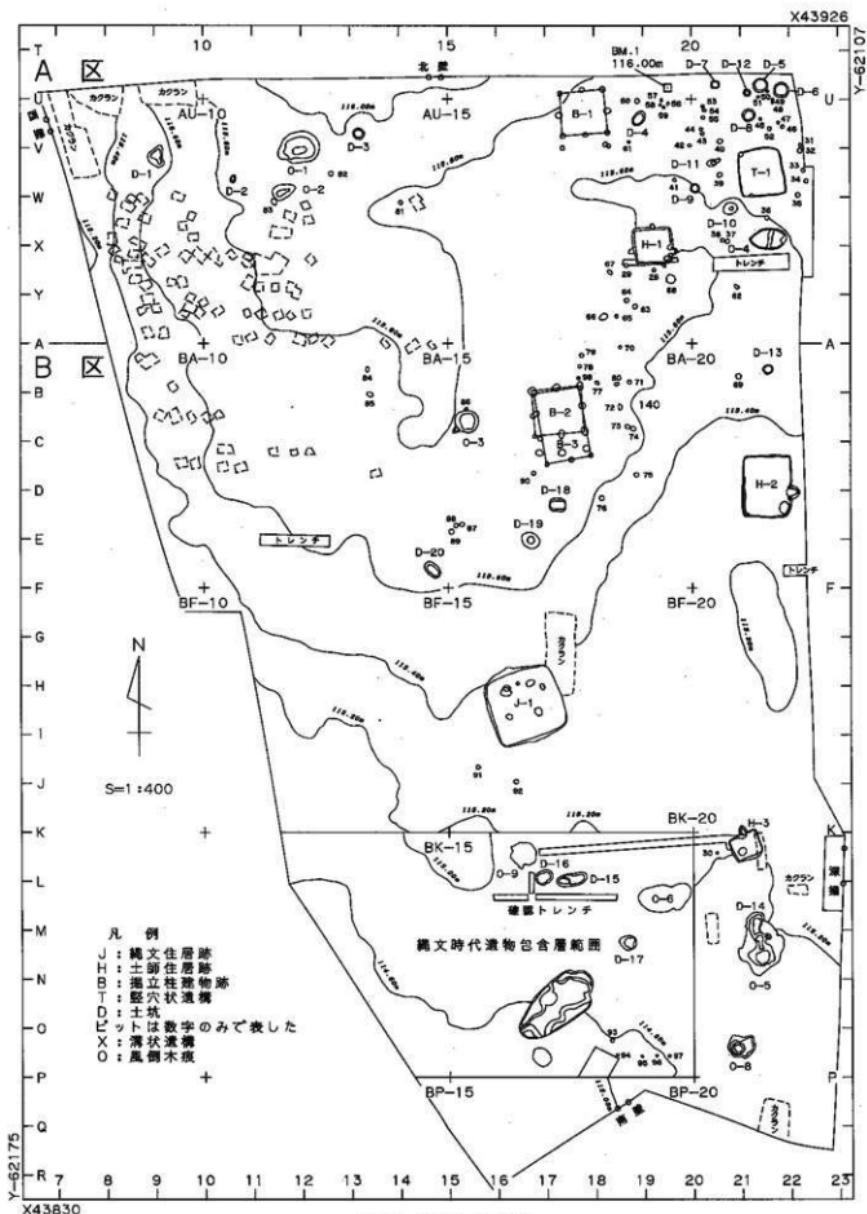
IV 層序

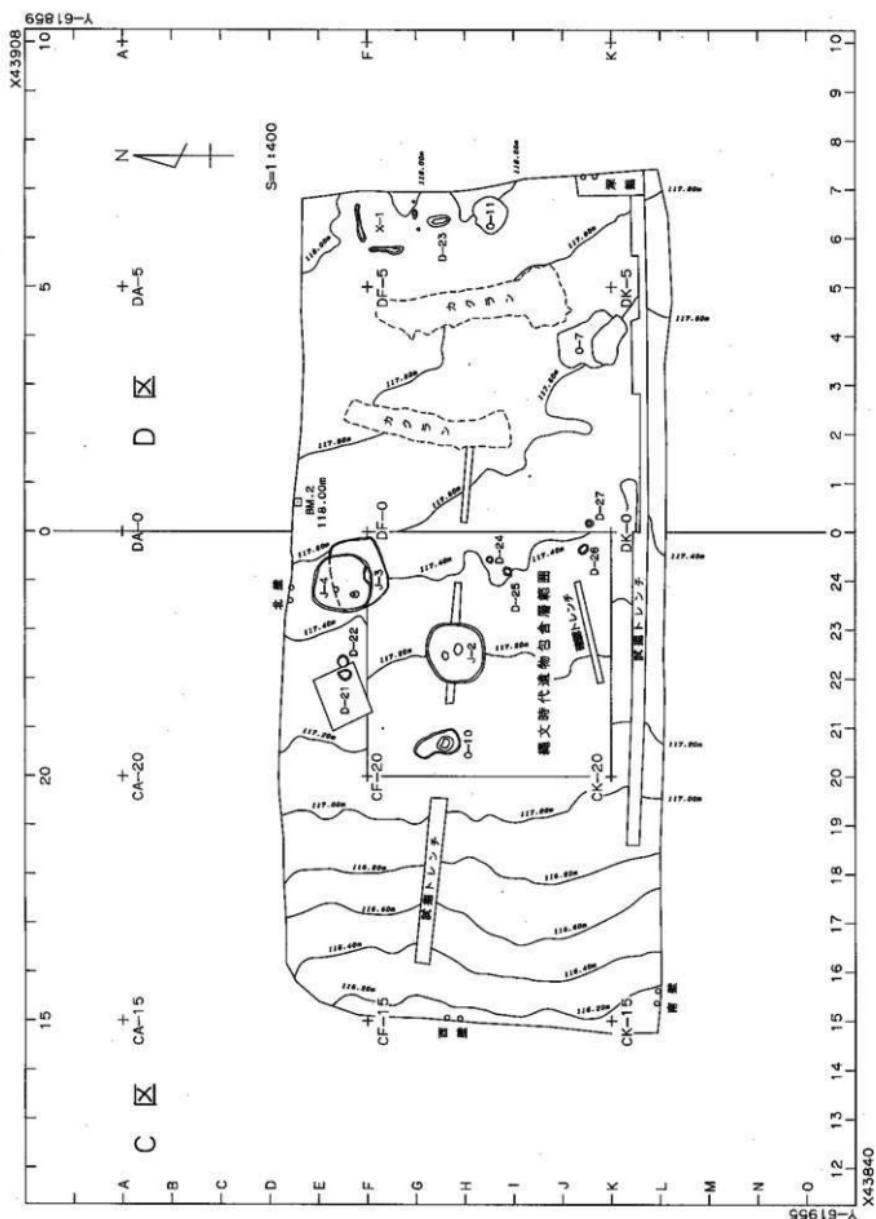
層序は、富田下大日I遺跡と基本的には同じであるため、それを採用している。表土層とソフトローム層の間に、厚さ6cm程のFP(様名ニツ岳伊香保テフラ:6世紀中頃)を多量に含む層と厚さ16cmのAs-C(浅間C軽石:4世紀中頃)を僅かに含む層が認められる。その下にソフトローム層が横たわる。

基本となる層序は上記の通りであるが、埋土の様子はさまざまであり、いくつかの土層の混土であったり、1つの層がさらに細かく分かれたりしている。そのため、別途に富田下大日II遺跡の断面図を載せた(第23図)。



第4図 標準土層断面図





第6図 東側調査区平面図

V 検出された遺構と遺物

概観

西側調査区では、縄文時代の住居1軒と奈良・平安時代の住居3軒と掘立柱建物跡3棟、竪穴状造構1軒が確認された。更に、西側調査区では土坑20基とピット98基を検出した。東側調査区では縄文時代の住居3軒と土坑7基を確認した。4軒の縄文時代の住居は前期後半諸磯式期の隅丸方形を呈するものであった。風倒木痕は西側で8基を確認し6基について発掘調査した。東側では3基を確認し1基について発掘調査した。

1. 縄文時代住居跡

J-1号住居跡 [第7・8・26・27・28図、図版2・8]

位置 BG-16・17、BH-16・17グリッドにかけて位置する。

形状 隅丸方形を呈する。

規模 東西6.10m、南北6.10m。壁高は70~80cmを測る。

面積 30.1m²。

方位 主軸方向はN-19°-W。

床面 締まりが良く堅い床を検出。主柱穴の内側は、回りに比べ8~9cm低く、あまり締まりがない。

ピット 11基検出した。P-1は径70×48cm、深さ42cmの楕円形、P-2は径56×45cm、深さ52cmの楕円形、P-3は径52×40cm、深さ33cmの楕円形、P-4は径70×56cm、深さ47cmの楕円形を呈し、主柱穴である。柱穴間は、P-1~2が1.85m、P-2~3が2.36m、P-3~4が2.46m、P-4~1が2.58mを測る。P-5~11は、径11~19cm、深さ5~10cmの小ピットである。

炉 P-1とP-2の中央部に位置する。規模は、径60×60cm、深さ15cmの浅い皿状の掘り込みで、その中に埋設土器(№1・2)を重ねて設置する。土器内部には焼土が含まれており、掘り方壁面の一部も焼けた痕跡が認められた。また、P-5の南に地床炉が検出された。規模は径71×43cm、深さ7cmの不整形を呈する。

土坑 P-2に一部かかる状態で検出された。規模は、径80×80cm、深さ7cmを測る。埋土中に焼土・炭化物を僅かに含んでいた。

遺物 土器は、2つの埋設土器の他、波状文の深鉢(№3)が床面から出土している。その他は、埋土中から出土したものである。石器は、石鎌(№19)、石錐(№16)、磨石(№37)、石皿(№38)、環型の石匙(№24)が床面から出土し、石鎌(№17・18・20・21)、打製石斧(№26~29)、棒状石器(№31)等が埋土中から出土している。

J-2号住居跡 [第9・10・29・30・31図、図版3・8・9]

位置 CG-21・23、CH-21・23グリッドに位置する。

形状 円形を呈する。

規模 東西4.85m、南北4.80m。壁高は42~55cmを測る。

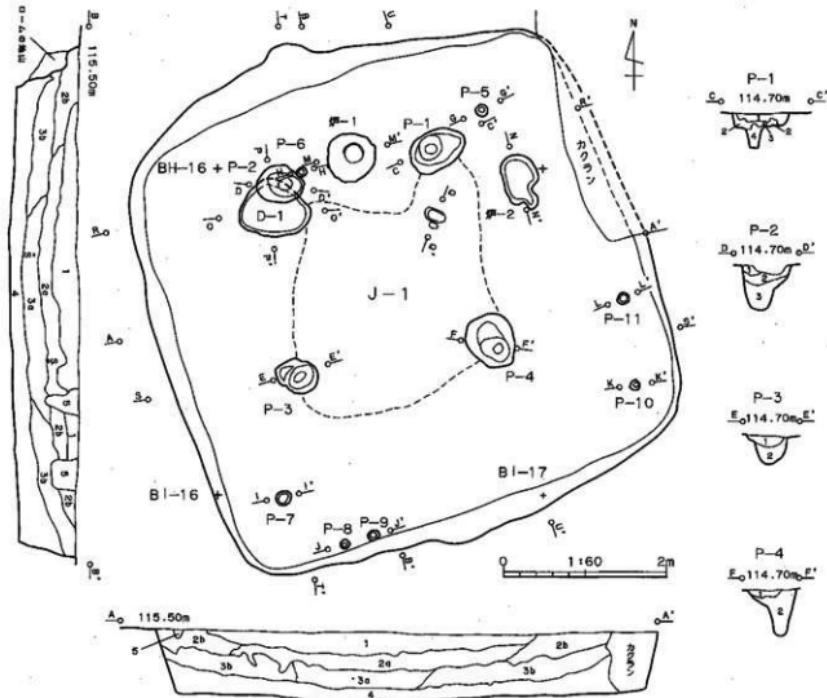
面積 18.1m²。

方位 主軸方向はN-89°-E。

床面 坎く平坦だが、東側は西側に比べ10cm高い。

ピット 7基検出している。P-1は径23×18cm、深さ27cmの楕円形、P-2は径26×22cm、深さ26cmの楕円形、P-3は径25×25cm、深さ26cmの円形、P-4は径27×21cm、深さ21cmの楕円形、P-5は径27×23cm、深さ8cmの円形、P-6は径26×23cm、深さ12cmの円形、P-7は径25×22cm、深さ21cmの円形、P-8は径22×22cm、深さ9cmの円形を呈する。P-5、6、8に比べてP-1~4、7は、埋土が類似し、深さがある。

炉 住居中央に、径90×66cm、深さ12cmの楕円形を呈する炉を検出した。埋土中には、焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒が認められた。また、この炉とP-3、P-4の中間に径72×51cm、深さ6cmの楕円形を呈す炉を検出している。



J-1 土層注記

- 1 暗褐色土層 細かな白色軽石を少量含む やや縮まりあり
- 2 a 黒色土層 細かい白色軽石をやや多く、炭化物粒を僅か含む やや縮まりあり
- 2 b 黒褐色土層 細かい白色軽石をやや多く、炭化物粒を僅か含む やや縮まりあり
- 3 a 黑褐色土層 斜状の黄褐色土塊と細かい白色軽石をやや多く、燒土粒、炭化物粒を僅か含む 縮まり良く硬い 粘性あり
- 3 b 黑褐色土層 斜状の黄褐色土塊と細かい白色軽石をやや多く、燒土粒、炭化物粒を僅か含む 縮まり良く硬い 粘性あり
- 4 棕褐色土層 斜状の黄褐色土塊と白色軽石をやや多く、燒土粒、炭化物粒を僅か含む 縮まり良く硬い 粘性ややあり
- 5 暗褐色土層 白色軽石、ローム粒を僅か含む

P-5
114.70m^o

P-6
114.70m^o

P-7
114.70m^o

J-1 P-5+6+7 土層注記

- 1 暗褐色土層 細かな白色軽石を少量含む やや縮まりあり
- 2 棕褐色土層 ロームブロック 縮まりあり 粘性ややあり

J-1 P-1+2+3 土層注記

- 1 暗褐色土層 細かな白色軽石、ローム粒をやや多く含む 縮まり良く硬い 粘性ややあり
- 2 暗褐色土層 細かな白色軽石、ローム粒を少額含む 縮まり良く硬い
- 3 暗褐色土層 As-BP ブロック
- 4 棕褐色土層 細かな白色軽石、ローム粒を僅か含む 縮まりあり 粘性ややあり

J-1 P-4 土層注記

- 1 暗褐色土層 細かな白色軽石、ローム粒を少量、燒土粒と炭化物粒を僅か含む 縮まり良く硬い 粘性ややあり
- 2 棕褐色土層 細かな白色軽石、ローム粒、燒土粒を僅か含む 縮まりあり 粘性ややあり

P-8
114.70m^o

P-9
114.70m^o

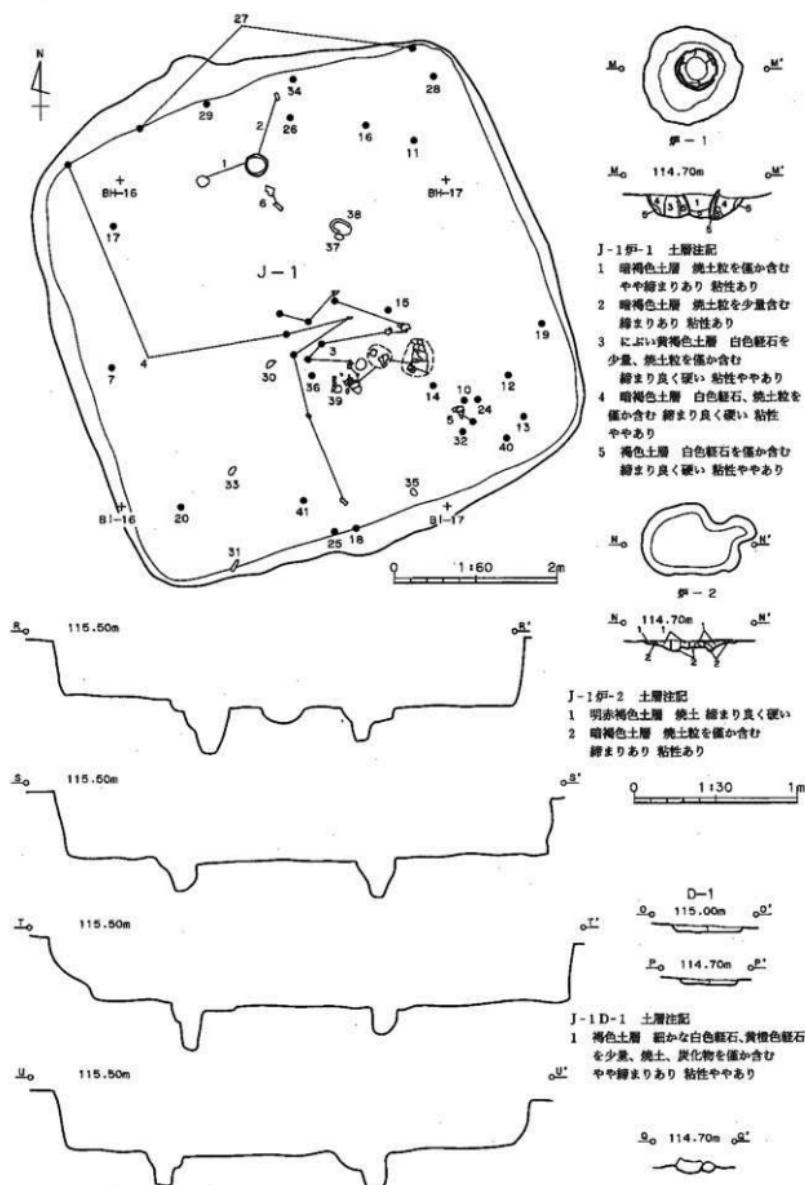
P-10
114.70m^o

P-11
114.70m^o

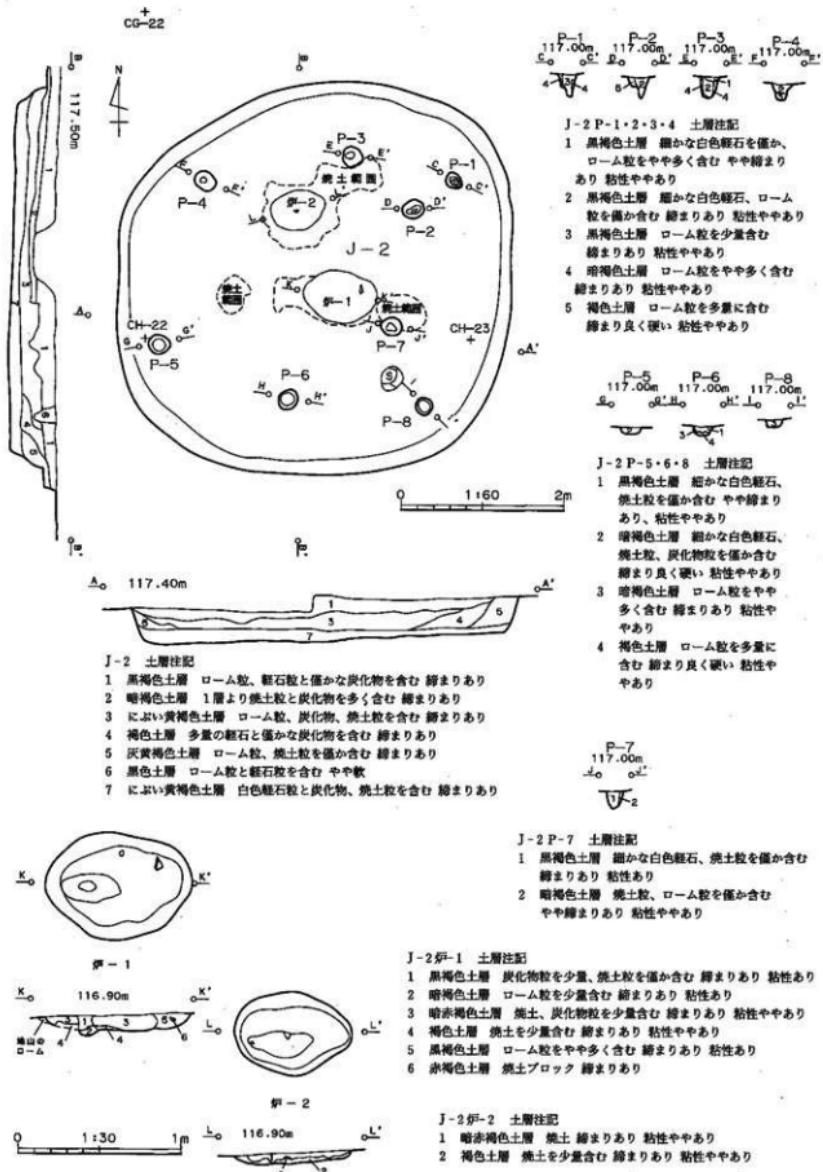
J-1 P-8+9+10+11 土層注記

- 1 暗褐色土層 白色軽石、ローム粒を僅か含む 縮まり良く硬い 粘性ややあり

第7図 J-1号住居跡平面・断面図



第8図 J-1号住居跡遺物分布図・断面図



第9図 J-2号住居跡平面・断面図

遺物 土器は、浮線文の浅鉢(No42・43・46・55・59)、無文の浅鉢(No56)、爪形文土器(No54)等が出土しているが、床面からの出土のものはない。石器は、床面から石鐵(No44)、石皿片(No60)が出土し、埋土中より打製石斧(No63)、磨石(No66)、凹石(No65)等が出土している。

J-3号住居跡 [第11-31図、図版3・9]

位置 CE-23・24、CF-23・24グリッドに位置する。

形状 殴丸長方形を呈する。

規模 推定で東西5.65m、南北で4.05m。壁高は21~25cmを測る。

面積 推定で20.9m²。

方位 主軸方向はN-71°-E。

床面 厚く平坦だが、西側は東側に比して10cm低い。

ピット 3基検出している。P-1は、径25×21cm、深さ12cmの楕円形、P-2は、径30×24cm、深さ8cmの楕円形、P-3は、径24×23cm、深さ14cmの円形を呈する。

炉 検出されなかった。また焼土範囲も確認できなかった。

重複 J-3がJ-4の一部を切り構築されると考える。

遺物 土器は、埋土中より平行線文の繩文土器片(No69・70)を出土。石器は、床面より石鐵(No71・72)、打製石斧(No73)が出土している。

J-4号住居跡 [第12-31・32図、図版3・4・9・10]

位置 CD-23・24、CE-23・24、CF-23・24グリッドに位置する。

形状 殊丸方形を呈する。

規模 東西4.60m、南北4.70m。壁高は60~65cmを測る。

面積 17.0m²。

方位 主軸方向はN-8°-E。

床面 浅い擂鉢状を呈し、19cm高低差が認められる。

ピット 8基検出した。P-1は、径24×18cm、深さ36cmの楕円形、P-2は、径18×16cm、深さ20cmの円形、P-3は、径25×20cm、深さ20cmの楕円形、P-4は、径22×18cm、深さ30cmの楕円形、P-5は、径30×20cm、深さ33cmの楕円形、P-6は、径26×19cm、深さ22cmの楕円形、P-7は、径29×20cm、深さ23cmの楕円形、P-8は、径20×16cm、深さ16cmの円形を呈する。

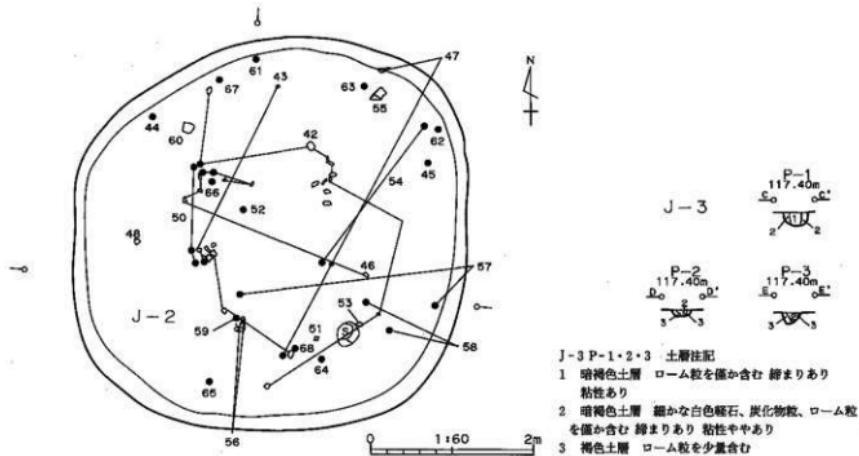
炉 中央より南西方向のところに位置する。規模は、径70×52cm、深さ19cmの擂鉢状を呈し、その中に埋設土器(No79)を設置する。土器内部には焼土粒が認められた。また北1mの位置に、径49×42cm、深さ6cmの楕円形を呈する炉を検出している。

土坑 P-1と地床炉の中間に位置し、径157×103cm、深さ8cmを測る。

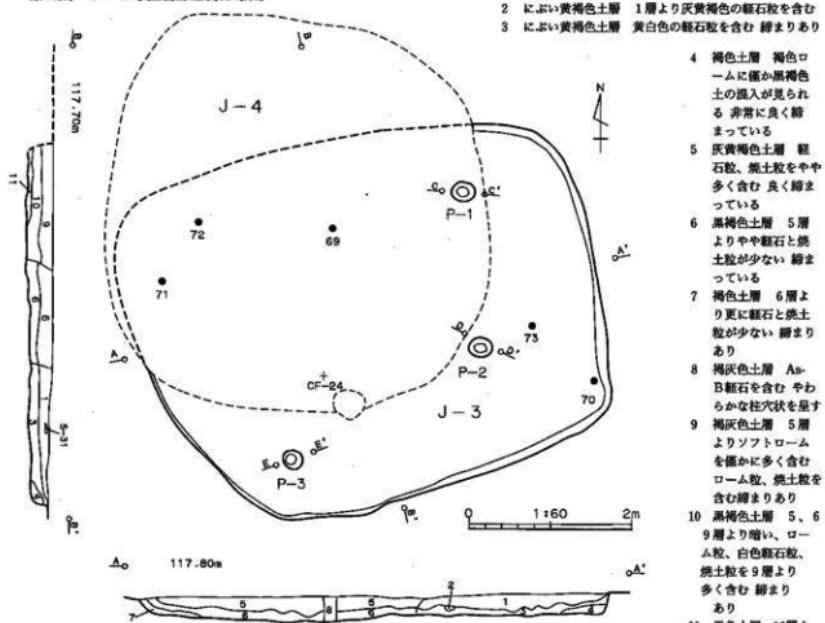
重複 J-3と重複する。J-3が、J-4を切ると考える。

遺物 土器は、埋設土器の他、大型の浅鉢(No74)、浮線文系の土器片等が埋土中より出土している。石器は床面や埋土から石鐵(No85~87)、石皿片(No84)、棒状石器(No88)等が出土している。

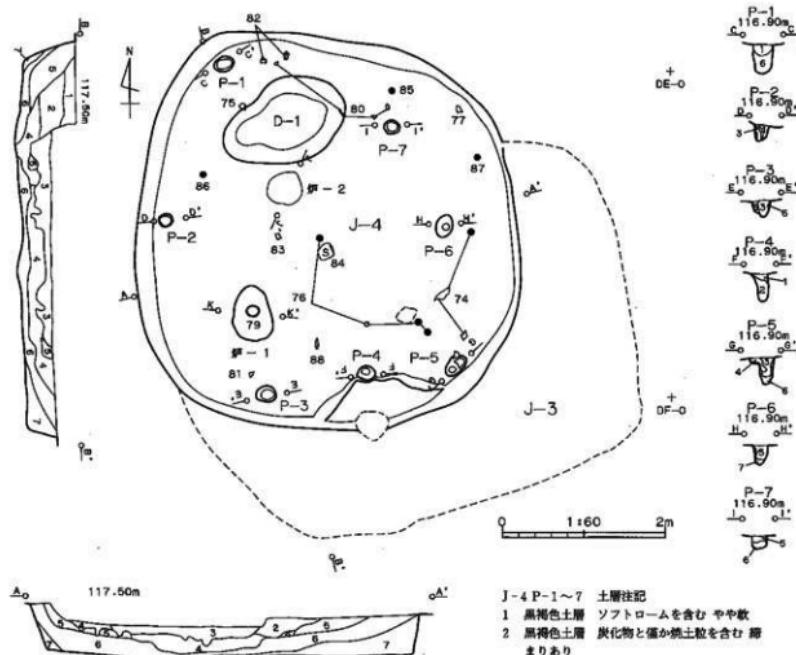
備考 南壁中央付近の床に、段差が認められた。



第10圖 J-2號住居跡遺物分布圖



第11圖 1-3号住居跡平面・断面図



J-4 土層注記

- 1 黒褐色土層 ローム粒を含む やや軟
- 2 黑褐色土層 細石、焼土。僅かに炭化物を含む 非常に硬い
- 3 黑褐色土層 落ちり粒に細石、焼土、炭化物を含む 非常に硬い
- 4 黑褐色土層 3層より明るく炭化物が少ない 硬まりあり
- 5 黑褐色土層 4層よりロームを多く含み明るい細石と焼土粒が見られる 硬まりあり
- 6 にいよ赤褐色土層 細かな焼土を含み赤褐色化する
- 7 にいよ黄褐色土層 黄褐色ローム粒と僅かな炭化物と焼土粒を含む

J-4 P-1~7 土層注記

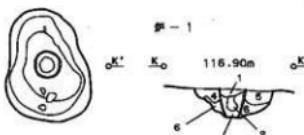
- 1 黒褐色土層 ソフトロームを含む やや軟
- 2 黑褐色土層 炭化物と僅か焼土粒を含む 硬まりあり
- 3 灰黃褐色土層 ローム粒と僅か焼土粒を含む 硬まりあり
- 4 棕褐色土層 炭化物を僅か含む 硬まりあり
- 5 暗褐色土層 ローム粒と僅か焼土粒を含む 硬まりあり
- 6 にいよ灰褐色土層 ソフトロームに黒褐色の混入が僅か見られる やや軟
- 7 棕褐色土層 僅か炭化物を含む やや軟



J-4伊-2 土層注記

- 1 にいよ赤褐色土層 僅かな炭化物と細石を含む 硬まりあり
- 2 赤褐色土層 細石粒を含む 硬まりあり
- 3 にいよ赤褐色土層 1層より焼成で赤く2層より 硬い 硬まりあり
- 4 黑褐色土層 硬まりあり

0 1:30 1m



J-4伊-1 土層注記

- 1 にいよ灰褐色土層 ソフトロームに僅か黒褐色土層が混入する 2、3層よりやや硬まりあり
- 2 棕褐色土層 1層よりソフトロームの混入が多い 軟
- 3 黑褐色土層 僅かなロームの混入が見られる 軟
- 4 暗褐色土層 黑褐色土が熱を受けたもの 硬まりあり
- 5 暗暗褐色土層 黑褐色に焼土粒が混入する 硬まりあり
- 6 棕褐色土層 ハードロームが僅か熱を受けている 硬まりあり

第12図 J-4号住居跡平面・断面図

2. 奈良・平安時代住居跡

H-1号住居跡　〔第13・46図、図版5・6・13・14〕

位置 AW-18・19、AX-18・19グリッドに位置する。

形状 ほぼ隅丸方形を呈する。

規模 東西3.25m、南北2.90m。壁高は45~50センチを測る。

面積 7.5m²。

方位 長軸方向はN-88°-E。

床面 全体的に縒まりがある。中央部は回りに比べて5cm程低い。

ピット 合計9基検出。P-1、4は埋土堆積状況より住居に係わりないものと考える。P-2は径48×30cm、深さ40cmの楕円形、P-3は径40×40cm、深さ36cmの円形を呈する。P-5~9は径が20cm前後で深さは12~20cmと浅い。

カマド 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-85°-Eで、全長75cm、幅85cm、焚口部幅27cmを測る。構築材として白色粘土を使用し、両袖に安山岩を配置している。住居南壁の床面には、長さ40cmの天井石と思われる割れ石を確認した。

貯藏穴 カマドの右袖脇より検出。長径48×短径35cm深さ8cmで楕円形を呈する。

遺物 床面より5cm浮いた状態で2点の土師器壺(No373・374)が出土している。また、カマド脇から墨書のある土師器壺(No367)、カマド燃焼部より、折り重なる状態で5点の土師器壺(No368・369・370・371・372)とツマミ中央部に焼成後穿孔を受けた須恵器蓋(No375)が出土している。

埋土 ニッ岳系の輕石(大きさ3×3×10~7cm)19個(20~155g)出土。深さに係わりなくどの層からも出土している。

H-2号住居跡　〔第14・46図、図版6・14〕

位置 BC-21・22、BD-21・22グリッドに位置する。

形状 長方形を呈するが、南東コーナーは丸味をおびる。

規模 東西4.05m、南北5.10m。壁高は24~35cmを測る。

面積 18.1m²。

方位 長軸方向はN-0°-E。

周溝 西壁の3分の2に周溝をめぐらす。幅13~18cm、深さ2~5cmである。

床面 中央部に南北に細長く硬化面を検出した。またカマド前には焼土・炭化物の範囲が認められた。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-88°-Eで、全長90cm、幅100cm、焚口部幅50cmを測る。両袖に凝灰岩の嵌石の残片を検出した。またカマド前には16×16cm、長さ25cmの方形に加工された凝灰岩を検出している。カマド構築材として白色粘土を使用している。

貯藏穴 カマドの右脇より検出。長径105×短径74×深さ11cmの楕円形を呈する。その埋土に径3cm、長さ20cmの炭化物を検出。

遺物 床面より「上」と刻文のある須恵器壺(No377)、7cm浮いた状態で須恵器壺(No376)、カマド脇より土師器壺の口縁部(No378)が出土している。また埋土から内黒土器の小片等が出ている。

H-3号住居跡　〔第15・16・46図、図版6・7・14〕

位置 BJ-21・22、BK-21・22グリッドに位置する。

形状 方形を呈する。

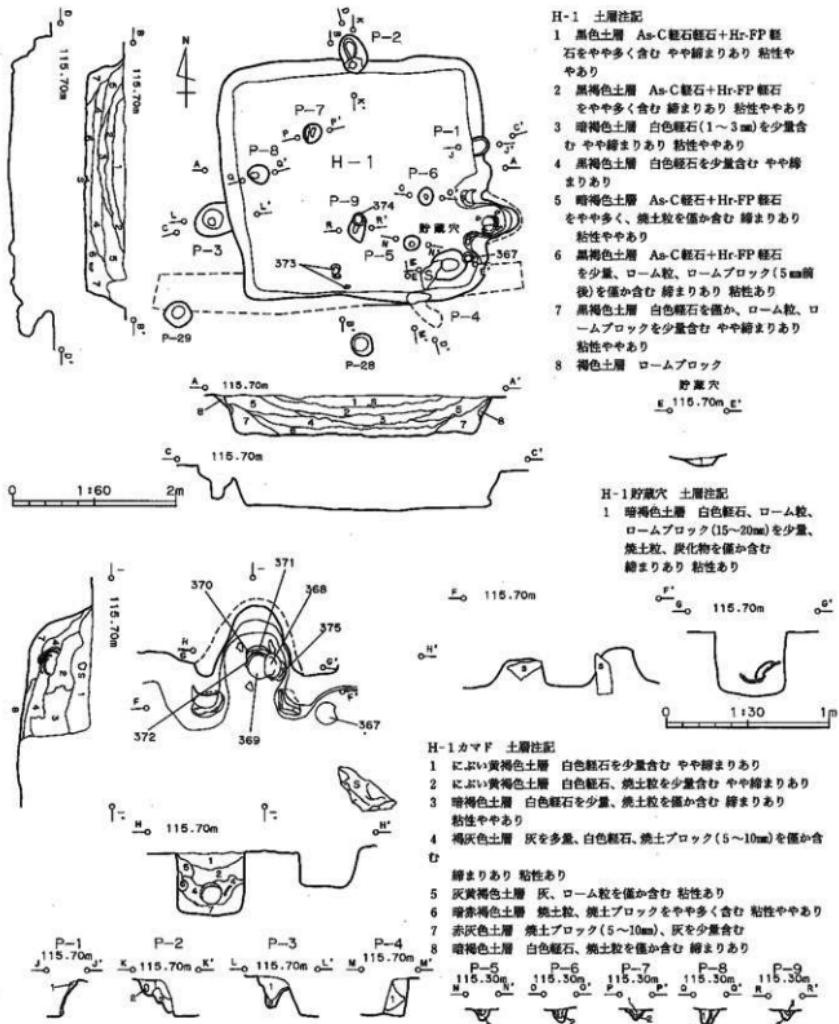
規模 東西2.45m、南北2.15m。壁高は35~40cmを測る。

面積 4.1m²。

方位 長軸方向はN-65°-E。

床面 全体的に縒まりがある。西側は東側より4cm低い。

土坑 中央南西寄りに検出。長径68×短径58×深さ24cmで楕円形を呈する。貯藏穴の可能性もある。



H-1 P-1 土層注記

- 1 増褐色土層 ソフトロームに増褐色土を少量含む

H-1 P-2~3 土層注記

- 1 黑褐色土層 白色軽石、ローム粒を少量含む 締まり、粘性ややあります
- 2 増褐色土層 ローム粒をやや多く含む 締まり、粘性ややあります

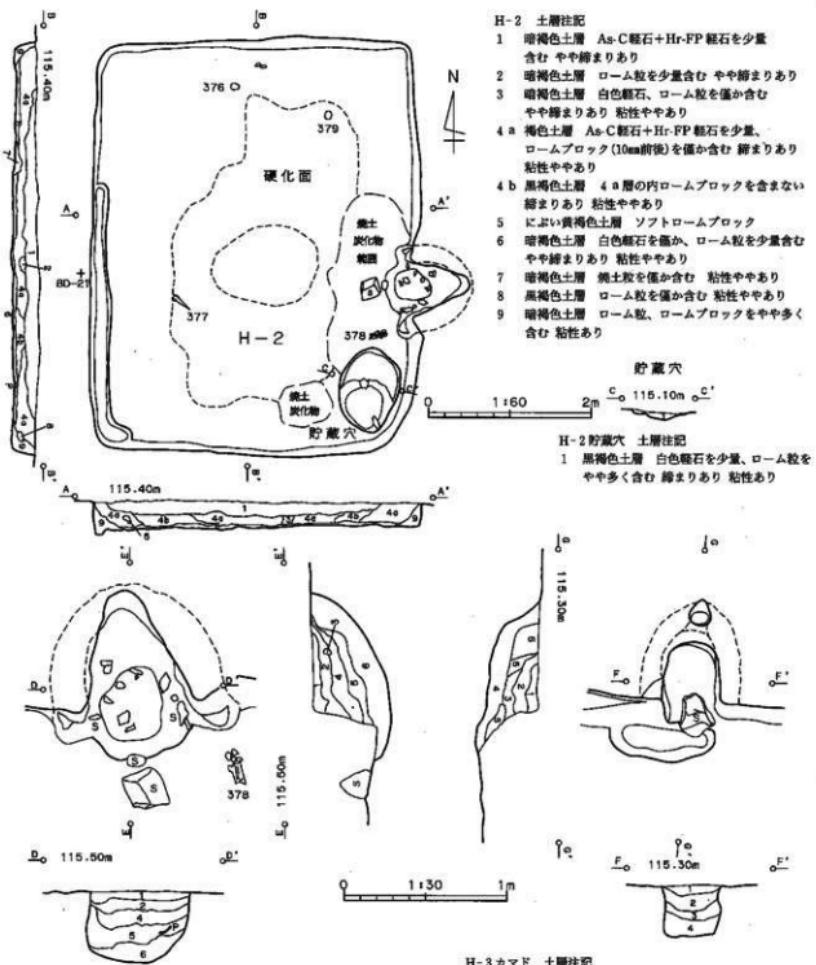
H-1 P-4 土層注記

- 1 増褐色土層 ローム粒を少量含む やや締まりあり 粘性ややあります

H-1 P-5~9 土層注記

- 1 黑褐色土層 白色軽石、ローム粒を少量含む やや締まりあり 粘性ややあります
- 2 増褐色土層 ローム粒をやや多く含む やや締まりあり 粘性ややあります

第13図 H-1号住居跡、カマド平面・断面図



H-2 カマド 土層注記

- 褐色灰色土層 白色軽石(1mm)、白色粘土を少量、焼土粒を僅か含む
やや緑もあり
 - 暗褐色土層 白色軽石を少量、焼土粒を僅か含む やや緑もあり
 - 暗褐色土層 焼土粒を僅か。白色粘土を少し含む やや緑もあり
 - 暗褐色土層 白色軽石、焼土粒を僅か含む やや緑もあり
 - 粘性土やあり
 - 暗赤褐色土層 烧土粒、焼土ブロック(10~40mm)をやや多く含む
やや緑もあり 粘性土やあり
 - 暗赤褐色土層 底、焼土粒、焼土ブロックを多く含む

H-3 カマド 土層注記

- | | |
|----------|---|
| 暗褐色土層 | 白色粘土、焼土粒を僅か含む 緩まりあり |
| 暗褐色土層 | 焼土粒を僅か含む 緩まりあり |
| 暗褐色土層 | 焼土粒を少量含む 緩まりあり |
| 灰褐色土層 | 焼土粒、灰を少量含む 緩まりあり |
| 粘性ややあり | |
| にいば黄褐色土層 | ロームブロック(5~10mm)、焼土粒
(5~10mm)を少量、炭化物を僅か含む 緩まりあり |
| 灰褐色土層 | 焼土粒と灰を少量含む 緩まりあり |
| 耐熱性 | |

第14図 H-2号住居跡、カマド平面・断面図

第15図 H-3号住居跡カマド平面・断面図

カマド 北壁中央やや東寄りに位置する。主軸方向はN-23'-Wで、全長75cm、幅60cm、焚口部幅27cmを測る。焚口部に安山岩製の割り石を検出したが、カマドの構築に使用されたか不明。

遺物 床面より土師器壺、甕(No381・383)を出土。2cm浮いた状態で須恵器蓋(No380)を出土している。また加工痕のある輕石(No382)も発見された。

その他 南東コーナーを、カクランにより崩されている。

3. 挖立柱建物跡

検出された掘立柱建物跡は3棟で、そのうちB-2・B-3は建て替えである。その周辺には、奈良・平安時代の竪穴式住居跡が検出されているが、柱穴内の埋土堆積状況や建物の軸方向が住居跡のものと極めて近いことから同時期と考えられる。

B-1号掘立柱建物跡 [第17図、図版7]

位置 AT-17-18、AU-17-18グリッドに位置する。

形状 2間×2間の建物跡。

規模 東西平均3.65m、南北平均3.50m。

面積 12.78m²。

方位 長軸方向はN-4'-W。

ピット 形状は、円形及び梢円形を呈す。なお、法量はピット一覧表(第10表)に掲載した。柱穴間距離は芯々で、P-1～P-2が1.81m、P-2～P-3が1.68m、P-3～P-4が1.80m、P-4～P-5が1.75m、P-5～P-6が1.80m、P-6～P-7が1.90m、P-7～P-8が1.73m、P-8～P-1が1.80mである。

遺物 出土していない。

B-2号掘立柱建物跡 [第18-46図、図版7]

位置 BA-16-17、BB-16-17、BC-16-17グリッドに位置し、B-3号掘立柱建物跡と重複する。

形状 2間×2間の建物跡。

規模 東西平均4.00m、南北平均3.50m。

面積 14.00m²。

方位 長軸方向はN-5'-W。

ピット 形状は、円形及び梢円形を呈す。なお、法量はピット一覧表(第10表)に掲載した。柱穴間距離は芯々で、P-9～P-10が2.00m、P-10～P-11が1.85m、P-11～P-12が1.55m、P-12～P-13が2.02m、P-13～P-16が1.94m、P-16～P-19が2.20m、P-19～P-20が1.68m、P-20～P-9が2.10mである。

遺物 P-12の埋土から両先端を欠損する鍼と思われる鉄製品(No385)が出土している。

B-3号掘立柱建物跡 [第18-46図、図版7]

位置 BA-16-17、BB-16-17、BC-16-17グリッドに位置し、B-2号掘立柱建物跡と重複する。

形状 3間×2間の建物跡。

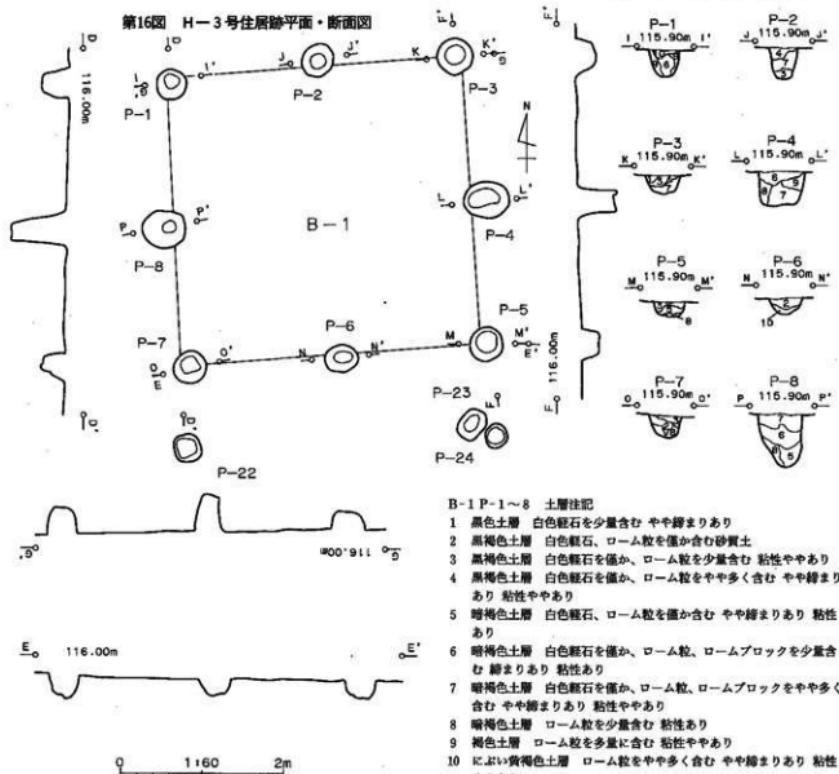
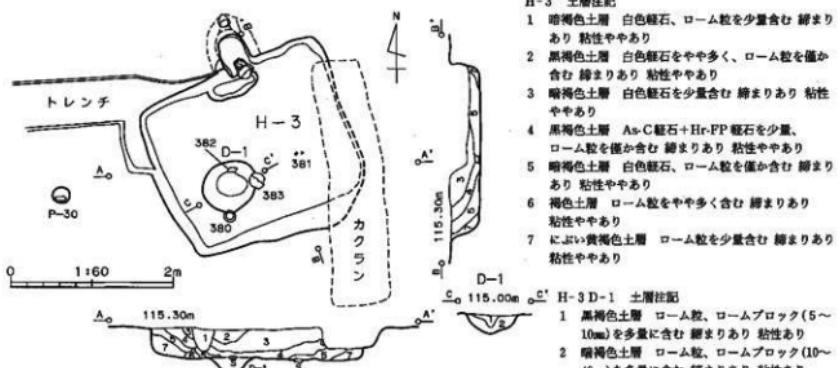
規模 東西平均3.75m、南北平均5.80m。

面積 21.75m²。

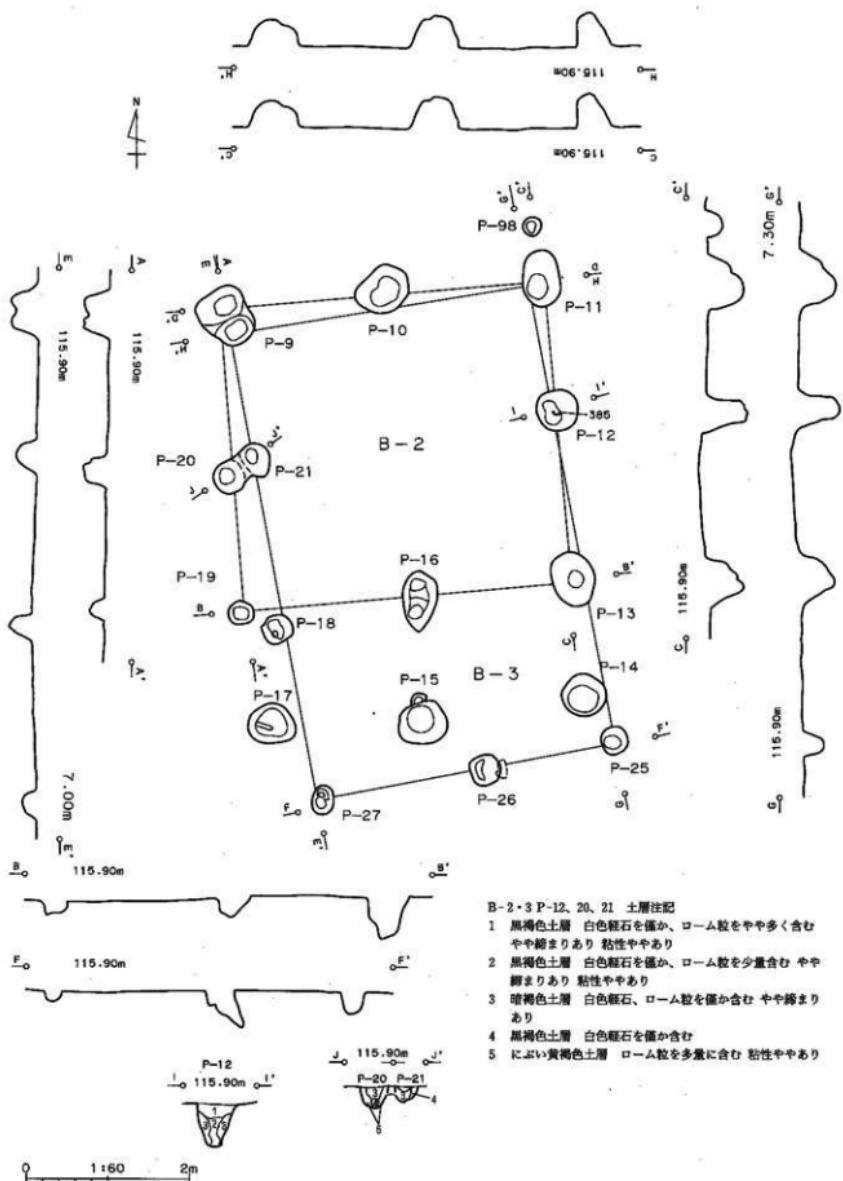
方位 長軸方向はN-11'-W。

ピット 形状は、円形及び梢円形を呈す。なお、法量はピット一覧表(第10表)に掲載した。柱穴間距離は芯々で、P-9～P-10が1.80m、P-10～P-11が1.95m、P-11～P-12が1.50m、P-12～P-13が2.12m、P-13～P-25が2.06m、P-25～P-26が1.58m、P-26～P-27が2.10m、P-27～P-18が2.16m、P-18～P-21が2.16m、P-21～P-9が1.54mである。

遺物 P-12の埋土から両先端を欠損する鍼と思われる鉄製品(No385)が出土している。



第17図 B-1号掘立柱建物跡平面・断面図



第18図 B-2 + 3号掘立柱建物跡平面・断面図

4. 穫穴状遺構

竪穴式住居跡状の形態を持ち、住居ならばカマドを持つ時期のものにもかかわらず、カマドのない遺構が1軒検出されている。これを竪穴状遺構とした。T-1号竪穴状遺構は西側調査区北東端の比較的平坦な場所にあり、周辺には住居跡、掘立柱建物跡、土坑、ピットも検出されている。

T-1号竪穴状遺構 [第19図、図版7]

位置 AV-21グリッドに位置する。

形状 北壁長が、やや短い方形である。

規模 東西3.70m、南北3.94m。壁高は、8~15cmを測る。

面積 12.8m²。

方位 N-5°-W。

検出面 硬化面が見られず、緩い起伏が認められる。

ピット 6基検出されている。P-1は45cm×35cmで深さ25cmの楕円形、P-2は67cm×57cmで深さ34cmのいびつな楕円形、P-3は42cm×29cmで深さ39cmの長方形、P-4は40cm×40cmで深さ13cmの円形で覆土中より炭化物片が出土、P-5は24cm×21cmで深さ23cmの楕円形、P-6は26cm×24cmで深さ36cmの円形である。遺構との関係、性格は不明である。

遺物 土器の小片が数点出土している。

5. 土坑 [第20・21図、第2表、図版5・9]

西側調査区で20基、東側調査区で7基、計27基の土坑が検出された。これらの分布を見ると、西側調査区では、北東部に比較的多い傾向が見えるが、周辺には竪穴式住居跡や掘立柱建物跡等が分布するところでもある。これに対して、東側調査区では中央部に多いと言えよう。

各土坑の時期は、共伴遺物や埋土堆積状況等により決定し得るものと考えられるが、遺物が出土しているものは少ない。またその性格についても、不明と言わざるを得ない。

主な土坑の特徴は以下の通りである。

縄文時代の土器を伴う土坑 D-16・19・21・22

縄文土器包含層下で確認された土坑 D-14・15・16・21・22。

As-B軽石が確認された土坑 D-18・23。

その他は遺物も検出されず、土層的にも時期の決まらない土坑 D-1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・17・20・24・25・26・27。

D-3号土坑 埋土に焼土粒、炭化物を検出しているが観察によれば新しい時期のものである。

D-14号土坑 O-5号風倒木痕を調査中に検出したもので、遺物は出土されなかった。なお、新旧関係は埋土堆積状況からD-14号土坑のほうが古いと考えられる。

D-15号土坑 縄文時代の遺物包含層下より検出されたもので、底面に段差をもつ。遺物は、埋土中より石が2点出土している。

D-16号土坑 縄文時代遺物包含層下より検出されたもので、埋土中より織維土器を出土している。

D-17号土坑 土層の観察が出来なかつたが、遺構確認時、既にカクラン状に検出されている。新しい時期のものであろう。

D-18号土坑 埋土は1層で、As-B軽石・ロームブロックが認められる。

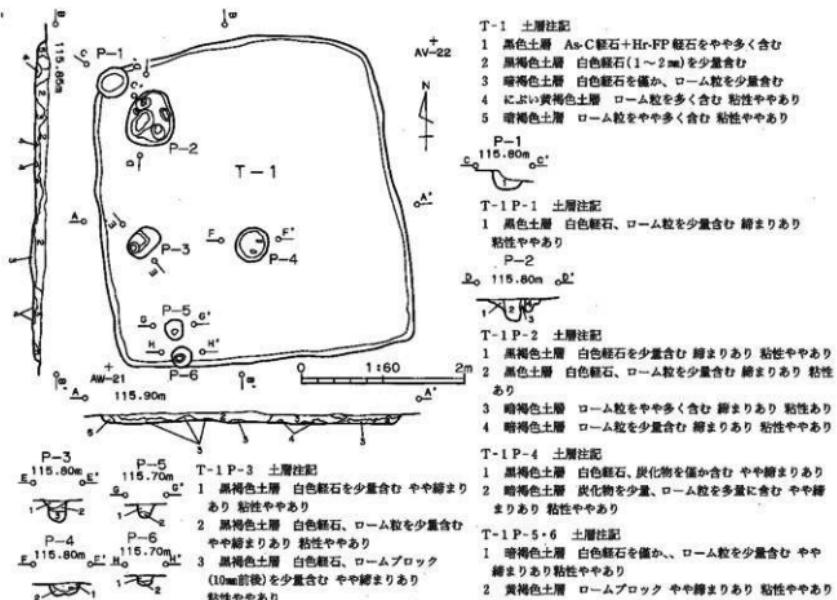
D-19号土坑 埋土中より連続爪型文土器片(Na234)が出土している。

D-20号土坑 埋土中より被熱して割れた安山岩片が1点出土している。

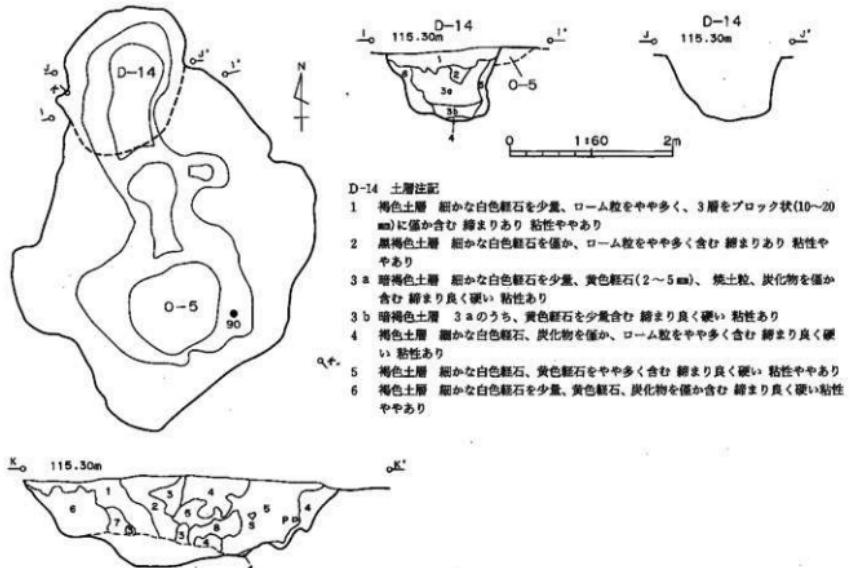
D-21号土坑 縄文時代の遺物包含層下から検出されている。遺物は、浮線文土器片(Na161と接合)が出土しており、周辺の住居跡と同時期と考えられる。

D-22号土坑 縄文時代の遺物包含層下から検出されたもので、断面形は弱い袋状を呈する。遺物は縄文土器片が数点出土している。

D-23号土坑 埋土に焼土、炭化物を含む。



第19図 T-1号豊穴状造掘平面・断面図



第20図 D-14, O-5平面・断面図

第2表 土坑調査表

法量は、長径×短径×深さ(cm)を表す。

遺構名	位置	法量	平面形状	備考	構名	位置	法量	平面形状	備考
D-1	AV-8.9	154×150×72	不整形		D-15	BK.BL-17	252×102×35	長楕円形	縄文時代
D-2	AV-10	65×43×26	楕円形		D-16	BK-16.17	150×110×34	楕円形	縄文時代
D-3	AU-13	96×86×18	円形		D-17	BM-18	138×118×40	楕円形	
D-4	AU-18.19	128×88×15	楕円形		D-18	BD-17	134×106×45	楕円形	
D-5	AT-21	122×110×19	円形		D-19	BD.BE-16	154×125×50	楕円形	
D-6	AT-21	124×122×37	円形		D-20	BE-14	156×94×36	楕円形	
D-7	AT-20	61×59×21	方形状		D-21	CE-21.22	110×86×38	楕円形	縄文時代
D-8	AU-21	104×96×29	円形		D-22	CE-22	98×90×85	円形	縄文時代
D-9	AV-20	78×70×30	円形		D-23	DG-6	188×87×28	楕円形	
D-10	AW-20	126×96×43	楕円形		D-24	CH-24	58×53×11	円形	
D-11	AV-20	72×54×110	楕円形		D-25	CH-4	77×70×16	円形	
D-12	AT-21	58×58×26	円形		D-26	CJ-24	91×67×20	楕円形	
D-13	BA-21	83×73×50	円形		D-27	DJ-0	67×60×29	円形	
D-14	BL.BM-15	196×148×91	楕円形	縄文時代					

6. ピット [第5・6図、第4表]

ピットは、西側調査区で98基調査を行っている(第10表参照)。その性格や時期は、3棟の掘立柱建物跡に關係するもの以外については、出土遺物も無く不明である。

7. 方形溝状造構

X-1号方形溝状造構 [第22図、図版5]

位置 DE-5・6、DF-5・6、DG-6グリッドに位置する。

形 状 北側は長径3.12m×短径0.52m×深さ20cm、西側は長径2.86m×短径0.64m×深さ22cm、南側は西より径0.20m×深さ7cm、長径0.72m×短径0.38m×深さ6cm、長径0.22m×短径0.16m×深さ17cm、を測り、方形の三辺を構成する形状を呈す。

遺 物 底面より15cm浮いた状態で、浮線文のついた縄文土器片1点が北側の溝より出土している。

8. 風倒木痕 [第20・21図、図版9]

今回の調査により、西側調査区で8ヶ所、東側調査区で3ヶ所、計11ヶ所で確認された。いずれもローム層確認面に黒褐色土の落ち込み中にロームマウンドが存在する。このうち、西側調査区では、土坑と重複するものがある。他は全て単独であり、O-1~5、8について調査を行った。O-1は、北部中央や西寄りに位置する。その南2mにもO-2が認められている。O-3は、中央部や北寄りに、O-4は、北東部東壁際に検出されている。O-5は、南東部や東寄りに位置しD-14と重複する。縄文土器片、打製石斧が出土している。D-14は、埋土堆積状況から縄文時代の土坑と考えられる。O-8はO-5に南7mの位置に検出された。

東調査区では、3ヶ所のうちO-10について調査を行った。O-10は中央部や西寄りに位置し、その東4mにはJ-2が検出されている。しかし風倒木痕の時期については確認できる情報がほとんどなく不明である。

9. その他の遺構

西調査区北西部には70cm×80cm位のカクランが多く、又この小さな尾根の中央部では住居跡3軒と掘立柱建物跡が3棟確認調査できた。

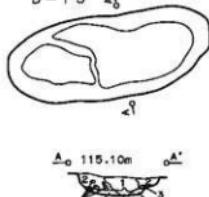
J-1付近 BEラインから北側では柱穴が多く確認されているのに対し、それより南側では黄褐色ローム(ソフトローム)面から褐色ローム(ハードローム)の間に、縄文時代前期を中心とした遺物が、数多く見られるのでBKラインから南側では、4mメッシュに20cm間の土手を残してジョレンによる精査をした。その結果 BM-12・BN-12グリッド付近では、縄文時代中期勝板式土器(No219~228)と思われる土器が集中して検出されたが、遺構としてのプランの確認には至らなかった。

O-5 土層注記

- 褐色土層 青色の細かい石粒(3mm前後)を僅か含む 緩まりあり 粘性あり
- 褐色土層 棕色軽石を僅か含む 緩まりあり 粘性あり
- 黃褐色土層 As-BP 層
- 黃褐色土層 As-SP を含む層
- 黒褐色土層 細かな白色軽石、ローム粒を少量含む 土層、石器出土
- 黒褐色土層 細かな白色軽石、黃色軽石をやや多く含む
- 黒褐色土層 6層をブロック状に含む
- 褐色土層 白色軽石を僅か含む

N
↓

D-15



△o 115.10m o△'

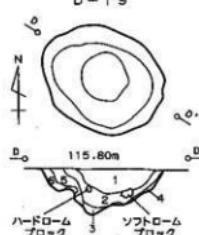
3
4
5
6
7

D-16 土層注記

- 褐色土層 白色軽石、炭化物を僅か含む 緩まりあり 粘性ややあり
- 褐色土層 白色軽石、黃色軽石、炭化物を僅か含む 緩まりあり 粘性ややあり
- 褐色土層 白色軽石を僅か含む 緩まりあり 粘性あり

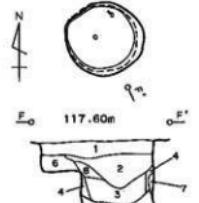
3
4
5
6
7

D-19



△o 115.80m o△'

D-22



△o 117.60m o△'

1
2
3
4
5
6
7
8

D-15 土層注記

- 黒褐色土層 白色軽石を僅か、ローム粒をやや多く含む 緩まり良い硬い 粘性ややあり
- 暗褐色土層 ローム粒をやや多く含む 緩まり良い硬い 粘性ややあり
- 黃褐色土層 ハードロームブロック
- 暗褐色土層 ローム粒を多量に含む やや緩まりあり 粘性あり
- 褐色土層 ソフトローム やや緩まりあり 粘性あり

N
↓

D-16

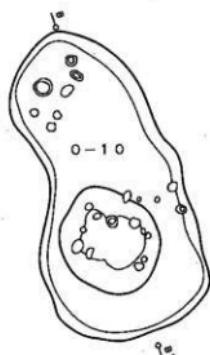


△o 115.80m o△'

D-19 土層注記

- 暗褐色土層 白色軽石をやや多く、ローム粒を僅か含む 緩まりあり
- 暗褐色土層 白色軽石、ローム粒を少量含む 緩まりあり 粘性ややあり
- 暗褐色土層 白色軽石を少々、ローム粒、ロームブロックを僅か含む 緩まりあり 粘性あり
- 褐色土層 ソフトローム やや緩まりあり 粘性ややあり
- にいよ黃褐色土層 白色軽石、ローム粒を少量含む 緩まりあり
- にいよ黃褐色土層 白色軽石を僅か含む 緩まりあり

0-10



q. b.

B

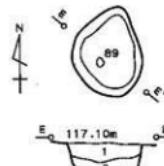
117.20m

2 3 1 2 3 4 5 6 7

D-22 土層注記

- にいよ黃褐色土層 ソフトローム やや軟
- 灰黃褐色土層 軽石粒、ローム粒、燒土粒と僅か炭化物を含む(1mm以下)緩まりあり
- 黒褐色土層 2層に類似するが燒土と炭化物粒を多く含む 2層より更に緩まる
- にいよ黃褐色土層 炭化物の混入が少なく3層より明るい 2層より更に緩まる
- 暗褐色土層 炭化物は少し大きめ(2~3mm) 2層より更に緩まる3層よりやや軟
- 黃褐色土層 自然堆積のハードローム層
- 褐色土層 ハードローム 6層より僅か硬い やや軟
- 褐色土層 燃土粒、ローム粒を僅か含む

D-21



△o 117.10m o△'

D-21 土層注記

- 灰黃褐色土層 布状(1mm以下)の輕石、ローム、燒土、炭化物を含む 緩まりあり
- 褐色土層 炭化物と燒土粒を僅か含む 緩まりあり

第21図 D-15+16+19+21+22、O-10平面・断面図

A 118.30m o'



DF-5

X-1(A-A') 土層注記

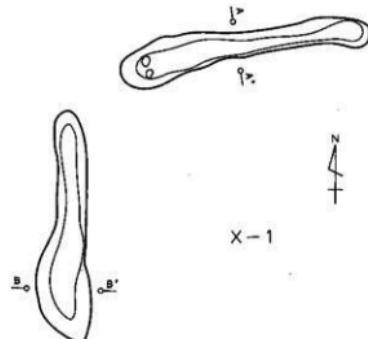
- 1 黒褐色土層 軽石粒とソフトロームを含む やや軟
2 黄褐色土層 ソフトロームに僅か軽石を含む やや軟

B 118.30m o'



X-1(B-B') 土層注記

- 1 黒褐色土層 多量の軽石粒(2~3mm)とソフトローム
の混入 やや軟
2 に比い黄褐色土層 ソフトロームブロック やや軟
3 に比い黄褐色土層 4層より暗く1層よりロームの
混入が多い やや軟
4 黄褐色土層 ソフトロームに僅か軽石を含む やや軟



X-1

N

調査区外

第22図 X-1号方形溝状造構平面・断面図

C 118.20m o'

南 墓



東側調査区東壁深掘・壁 土層注記

11

- 1 黒褐色土層 (耕作土) As-B軽石を少量含む砂質土 締まり良好硬い
- 2 黒褐色土層 As-C軽石+Hr-FP軽石をやや多く含む 締まりあり
- 3 黒褐色土層 As-C軽石軽石を僅か含む 締まりあり 粘性あり
- 4 黑褐色土層 3層より僅か明るい As-C軽石軽石を
僅か含む 締まりあり 粘性あり
- 5 黄褐色土層 ソフトローム 締まりあり 粘性あり
- 6 黄褐色土層 ソフトローム 5層よりやや明るい 締まり
あり 粘性あり
- 7 黄褐色土層 ハードローム 上層に As-YP を僅か下層に
As-SPを剥離状に含む 締まり良好硬い 粘性ややあり

西 墓



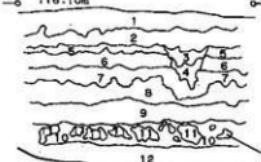
北 墓



- 8 黄褐色土層 所々に As-BP をブロック状に含む 締まり
良好硬い 粘性ややあり
- 9 黄褐色土層 青白色の軽石(φ 1mm)、黄色軽石(φ 2~3
mm)を僅か含む 締まり良好硬い 粘性あり
- 10 黄褐色土層 11層を所々に含む 締まりあり 粘性あり
- 11 黄褐色土層 火山灰と思われるブロック状 締まりあり
粘性あり
- 12 黄褐色土層 広域テフラ AT を上部に含む 締まり良好硬
い 粘性あり
- 13 黄褐色土層 噴色帯 締まり良好硬い 粘性あり

E 116.10m o'

南 墓



西側調査区西壁深掘・壁 土層注記

- 1 黒褐色土層 耕作土 As-B軽石を少量含む砂質土 締まり良好硬い
- 2 黑褐色土層 As-C軽石+Hr-FP軽石をやや多く含む 締まりあり
- 3 黑褐色土層 As-C軽石を少量、ローム粒を僅か含む やや締まりあり 粘性やや
あり
- 4 黄褐色土層 締まりあり 粘性あり
- 5 黑褐色土層 As-C軽石を僅か含む 締まりあり 粘性あり
- 6 黄褐色土層 ソフトローム 締まりあり 粘性あり
- 7 黄褐色土層 ソフトローム 6層より僅か暗い 締まりあり 粘性あり
- 8 黄褐色土層 ハードローム As-YP を僅か含む 締まりあり 粘性あり
- 9 黄褐色土層 ハードローム As-SP を剥離状に含む 締まり良好硬い 粘性あり
- 10 黄褐色土層 As-BP が混じる 締まり良好硬い 粘性ややあり
- 11 明善神社土質砂層 As-BP の純層 ブロック状に含む
- 12 黄褐色土層 広域テフラ AT を上部に含む 噴色帯 締まり良好硬い 粘性あり

西 墓

北 墓

I 115.80m o'

H 116.70m o'

第23図 東西調査区深掘・壁断面図

又、BK-16グリッド付近では織維を伴う尖底土器(№96)が出土し沢山の剥片と石鐵(№249・251)、石匙(№267)、棒状石器(№326)等を検出し、D-15・16が確認された。さらに南側のBN-16・17グリッドからBO-16・17グリッドにかけて暗褐色のシミ状の落込みが確認されたので調査した所、棒状石器(№324)や剥片等が検出されたが遺構としては住居とも土坑とも言えない状態であり北東方向から南西方向に溝状に長い窪みとしか言えない状況であった。

東側調査区では試掘の結果ゆるやかに西に傾斜する西向きの小規模な台地の西側斜面であり調査区中央部に遺構の可能性があるためミニレンチが入っていた。CD-20~24グリッドからCJ-20~24グリッドでは4mメッシュで包含層中の遺物を上げながら遺構の確認作業を行った。

その付近のソフトローム面での包含層中の遺物を上げ多く出土した。CF-20~24グリッドからCJ-20~24グリッドに10mメッシュで20cmの土手を残し精査した所J-2・3・4号とD-24・25・26を確認する事が出来た。掲載遺物(№161)のようなほぼ完形の復元出来る諸種bの土器等も検出された事からもっと多くの遺構の存在した可能性が考えられるが第21図で示したように表土からソフトローム面までが西側は堆積が多く50cmとあったがその他東・南・北のセクションを見ると30cm~40cmと浅く、遺構の残りの悪いのも止むなしと思える。

第20図の方形の溝状遺構は尾根の中央部であるのでやはり残りの悪いのもうなずけるかと思える。

10. グリッド出土遺物

土 器 [第24・33~37図、図版10~12]

包含層の遺物を4m毎にとりあげる、いわゆるグリッド調査を中心として出土した縄文時代の土器は1,389点である。その時期は前期前半から中期にわたるが、量的には本遺跡の主体となる前期後半に属する土器が大半を占めている。これらの出土遺物のうち141点について下記の分類に基づいて掲載した。

I群 前期中葉以前のものを一括する。胎土中に織維を含む。

1類 繩文を有するもの。

2類 不明のもの。

II群 前期後半諸種a、b、c式に該当する。

1類 諸種a式 主として幅の狭い竹管を使用して施文するもので7種に分類した。

a種 助骨文 線の組み合わせにより助骨文構成をとるもの。

b種 木葉文 線の組み合わせにより木葉状構成をとるもの。

c種 格子文 交差させて格子目状の文様を表すもの。

d種 波状文 波状の文様構成をとるもの。

e種 斜行線文 斜行線を交互に施し山形状の文様を構成するもの。

f種 平行線文 単純に横走するもの。

g種 連続爪形文

2類 諸種b式 主として粘土紐による浮線文で施文するもの、幅の広い半截竹管を使用する爪形文と平行線文の3種に分類した。

a種 浮線文 浮線文上に繩文を施すもの、刻目を施すもの、何も施さないものがある。

b種 連続爪形文 連続爪形文間に刻目を施すものと施さないものがある。

c種 平行線文 単純に横走するもの。線を組み合わせ複雑な文様構成をとるものがある。

3類 諸種c式 棒状の貼付文を有するものと平行線文の集合したもの2種に分類した。

a種 棒状の貼付文を有するもの。

b種 平行線文の集合したもの。

4類 胎土中に織維を含まず施文、器形等から前期後半に属すると思われるものを本類とし3種に分類した。

a種 繩文を施文するもの。

b種 無文のもの。

c種 文様が不明のものや底部片等。

III群 前期後半浮島式、興津式、下島式に該当するもの。

1類 浮島・興津式

2類 下島式 結節浮線による渦巻き文。

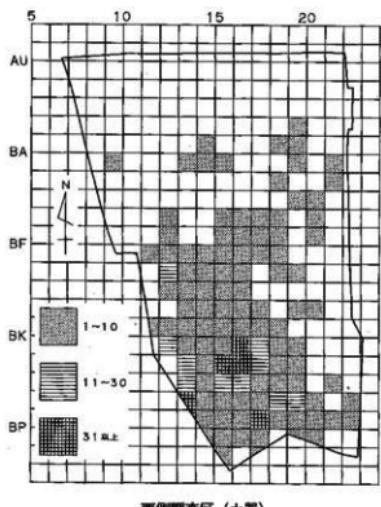
IV群 中期以降の縄文土器を一括する。

1類 勝坂式

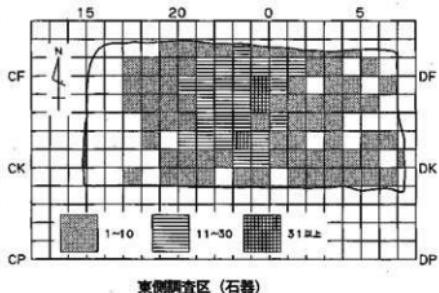
2類 加曾利E式

石 器 [第24-38~45図、図版12]

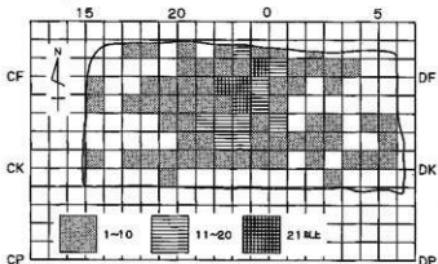
グリッド出土の石器類は、自然段を含め総数1,356点を数える。これらのうち石器と考えられる石鏃23点、石錐5点、石匙6点、打製石斧20点、磨製石斧3点、削器3点、磨石15点、凹石8点、多孔石1点、敲石2点、石皿4点、棒状石器8点、加工痕・使用痕のある刺剣21点、尖頭器4点、その他9点の計132点を掲載した。



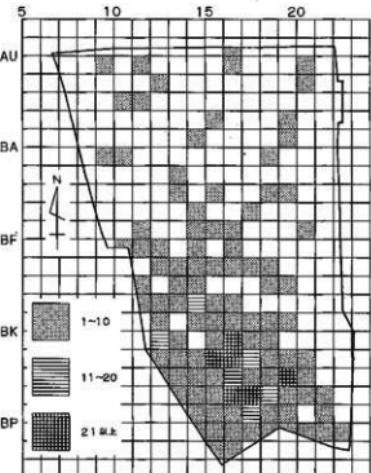
西側調査区（土器）



東側調査区（石器）



東側調査区（土器）



西側調査区（石器）

第24図 グリッド別遺物分布図

VI まとめ

縄文時代の遺構について

本遺跡は、小さな冲積谷を挟んで170m離れた西側調査区(桂萱地区)と東側調査区(荒砥地区)からなり、いずれも低台地の西縁辺部に位置している。調査により縄文時代の住居跡が4軒検出され、調査区単位での内訳は、西側が1軒、東側が3軒となっている。これらの住居跡の所属時期は、諸磯a式期がJ-1・J-4の2軒、諸磯b式期がJ-2・J-3の2軒である。J-3は、J-4と重複している住居跡である。埋土の堆積状況によりJ-4より新しいと判断している。遺物も僅少ではあるが、平行線文・浮線文土器片が出土し、諸磯b式期に比定される住居跡と考える。

住居跡の形態から言うと諸磯a式期のJ-1は、形状は一般的ではあるが大規模な住居跡と言える。4本主柱穴の北側部中央に検出された埋設土器の炉は二重で、他に地床炉も伴っている。伴出遺物のあり方は、埋設土器のほかに、住居跡に伴うと判断できる床面に密着して出土する土器に波状文の深鉢がある。石器では、床面を少し掘り込み据え置いたと考えられる石皿と磨石が並列して検出され、主柱穴・炉・床の硬化面等との関係から住居内の利用状況を示し、興味深い。また、いわゆる東北型と言われる縦型石匙も出土している。J-4は、規模は一般的である。柱穴の配列は、諸磯b式期のJ-2に類似し、円形状を呈する。炉は、J-1と同じく埋設炉と地床炉を検出しているが、位置が著しく異なり、住居跡の西側に偏在している。伴出遺物は、埋設土器のほかには床面からのものはない。諸磯b式期のJ-2は、住居跡の規模は一般的で、形状は円形を呈する。柱穴の配列も円形状である。伴出遺物は、床面からの土器は少ない。

土坑は、5基検出されている。概して遺物の出土は乏しく構築時期の特定は難しいが、埋土堆積状況等の判断から縄文時代に属すると考えられる。調査区単位での内訳は西側で3基、東側で2基である。いずれも縁辺部の縄文住居跡に近いところに位置し、形態は円形に近い形状を呈するものと稍円形を呈するものに大別できる。また、D-22は弱い袋状を呈している。

通常この地域では、縄文時代の遺構は、地山に極めて似た土で埋没している。そのため確認が難しく、ハードロームの上面まで遺構が確認できない場合も多い。今回の調査結果も、決して充分な確認作業とはいえないが、近年の発掘調査等で明らかになりつつある群馬県の縄文時代前期集落の一般的な様相を示していると考える。

奈良・平安時代の遺構について

調査により検出された遺構は、住居跡3軒、掘立柱建物跡3棟、堅穴状遺構等である。これらは、すべて西側調査区から検出されており、低台地中央部に位置している。

H-1・H-2は8世紀後半の住居跡である。主柱穴は認められず、カマドは東壁に位置している。伴出遺物は、多くはないが平行形に近い土器が床面から出土している。H-3は9世紀前半に属する小型の住居跡で、主軸方向が他の2軒と大きく異なる。柱穴ではなくカマドは北壁で、伴出遺物は少ない。個別の遺物としては、H-1カマド内から折重なって出土した土器のうち、ツマミ中央部に焼成後穿孔した須恵器蓋やカマド脇から出土している墨書きのある土器器環、H-2から出土した「上」と刻書のある須恵器環があげられよう。

B-1・B-2・B-3は、2間×2間および3間×2間の掘立柱建物跡である。またT-1は、長袖3.90mの正方形に近い形状をしている。いずれも伴出遺物がほとんどなく所属時期の確定はできないが、主軸方向が住居跡と近似することや埋土堆積状況等により住居跡と同時期と考えられる。

以上、富田下大日II遺跡の発掘調査により確認できた内容について記してみた。今後この報告書がこの地域の歴史解明の一助になれば幸いである。

参考文献

- 柳久保遺跡群 I 1985 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 清水山遺跡 1985 群馬県教育委員会・前橋馬鹿藪埋蔵文化財調査事業団
- 縄文土器大系 I・草創期・早期・前期一 1989 小林達雄編集
- 芳賀太郎地遺跡 1990 清水市埋蔵文化財発掘調査団
- 芳賀東部田地遺跡III・縄文・中近世編一 1990 前橋市教育委員会
- 芳賀東部田地遺跡田一縄文・中近世編一(考察編) 1990 前橋市教育委員会
- 上泉太郎三遺跡 1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 縄文文化的十字路・群馬一土器文様の交流一 1998 群馬県立歴史博物館・前橋馬鹿藪埋蔵文化財調査事業団

第3表 出土遺物観察表

遺物の観察基準および記載方法は以下のとおりである。
 (1)出土は細部(0.9mm以下)中粒(1.0mm~1.9mm)粗粒(2.0mm以上)とした。
 (2)焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
 (3)断面のPは土器、Sは石器を表す。
 (4)出土位置のWは西側調査区、Eは東側調査区を表す。
 (5)大きさと重さの単位はcmとgであり、現存値は()、復元値は〔 〕で示した。

J-1出土遺物

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	分類
1	J-1 №124-148-160-W-735	①中粒②良好③赤褐色④口縁~胴部	埋設土器。口縁が外反きみに開く平底の深鉢で、口縁部の一部と調節焼。文様は、口縁部および胴部に各々2条の連続爪形文を施らせるもの間に平行竹管文による本筋文を施す。周縁はRL横位。	II-1-b
2	J-1 №159-23-46	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	埋設土器。深鉢形部分である。器形にはLR横位が施される。器体は二次焼成を受け難くなっている。	II-1-a
3	J-1 №4-9-11-71-74-83-86-103-107-108-110-116-117-118-119-120-154-155-156-158	①中粒②良好③赤褐色④口縁~胴部	底部から出土した複数の口縁部および底部を欠損する。文様は口縁部に1条、胴部に2条の幅広の横走線文を配し、その中に直線的で振幅が狭く長い波状文を施す。周縁はLR横位。	II-1-d
4	J-1 №5-7-49-76-78-87-94-W-196-534-576-152	①中粒②良好③焼④口縁~胴部	胴部にややふくらみを持ち、口縁部に向かって外反して開く深鉢。平口縁。口縁部と胴部に沿って横走する柳葉文をもつて区画しその間に連続的に斜状を施す表面装飾は5本。円形竹管文を継ぎに施す。周縁はRL横位。	II-1-d
5	J-1 №114-113-15	①中粒②良好③焼④口縁~胴部	口縁に沿って平行線文を施させ、その下に張線文を組み合わせた木葉状文を施す。周縁はRL横位。	II-1-d
6	J-1 №42-43	①中粒②良好③焼④口縁	口縁部は墨文。胴部に墨文。	II-4-a
7	J-1 №60	①中粒②良好③明赤褐色④口縁	口縁部に沿って平行線文を施させ、その下に振り幅が少なくゆるやかな波状文を施す。平口縁。	II-1-d
8	J-1-1-落-W-584-586-BK-12-152	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	「く」の字状に屈曲する部分に列目の入る浮模文を施す。周縁はLR斜位。	II-2-a
9	J-1-1-落-W-244-BL-18グ	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	斜位の平行線文で肋骨構成をとる。斜位の辺線上に円形竹管文を配する。	II-1-a
10	J-1 №115-15	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	数条の平行線文により区画し、上に波状文、下に周縁はRL横位を施す。	II-1-d
11	J-1 №30-BG-15	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	透視感の強い、技術的には平行線を引いた後に爪形文を加えている。文様は爪形文で構成され、あるいは斜線に沿って構成している。円形竹管文を施す。	II-1-e
12	J-1 №145	①中粒②良好③赤褐色④胴部	周縁はRL斜位に施す。	II-4-a
13	J-1 №166	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	周縁はRL斜位に施す。	II-4-a
14	J-1 №1	①中粒②良好③に焼④胴部	周縁はRL斜位に施す。	II-4-a
15	J-1 №3	①中粒②良好③に焼④口縁	透視爪形文、横走、斜走および曲線状に施す。	II-1-g

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備 考
16	J-1 №26	石斧	4.2	1.2	0.6	3.1	黑色頁岩	
17	J-1 №50	石鏡	2.9	1.9	0.6	3.6	黑色頁岩	凹基無茎型
18	J-1 №131	石鏡	2.4	2.2	0.4	1.9	黑色頁岩	有茎鏡
19	J-1 №180	石鏡	2.3	1.2	0.4	1.5	黑色頁岩	平基無茎型
20	J-1 №54	石鏡	1.8	1.3	0.3	0.8	黑色頁岩	凹基無茎型 基部欠損
21	J-1-1-落	石鏡	(2.4)	1.2	0.4	(0.8)	黑色頁岩	凹基無茎型 先端・基部欠損
22	J-1 №1	圓石	1.7	0.7	0.2	0.3	黑色頁岩	
23	J-1-1-落	石圓	1.8	1.2	0.4	0.6	黑色頁岩	
24	J-1 №57	石斧	11.4	3.1	0.9	43.5	粘板岩	瓣型
25	J-1 №128	打製石斧	5.7	6.0	0.8	62.0	黑色頁岩	瓣形 自然面あり
26	J-1 №24	打製石斧	6.0	3.5	2.0	80.8	黑色頁岩	一部欠損 瓶形
27	J-1 №17-169	打製石斧	12.1	6.1	1.2	72.3	黑色頁岩	2点接合 瓶形
28	J-1 №1-11	打製石斧	11.7	5.6	1.7	88.4	黑色頁岩	瓣形
29	J-1 №18	打製石斧	5.7	6.5	1.7	75.5	黑色頁岩	瓣形 基部欠損
30	J-1 №53	削刮器	13.7	5.5	2.1	175.0	黑色頁岩	加工痕 自然面あり
31	J-1 №161	梯状石器	14.8	4.1	2.8	275.0	安山岩	梯状 両端打抜 梯面削痕あり
32	J-1 №137	梯状石器	8.0	3.6	1.9	57.3	黑色頁岩	梯状 3点接合 梯面削痕あり
33	J-1 №9	磨石	11.8	9.3	4.3	748.0	安山岩	背面削痕 打抜あり
34	J-1 №22	凹石	8.7	8.9	4.5	385.0	輝石安山岩	正面に凹
35	J-1 №135	磨石	10.1	7.3	4.5	485.0	安山岩	両端打抜 梯面削痕 凹あり
36	J-1 №101	磨石	9.1	8.2	3.1	305.0	輝石安山岩	磨痕
37	J-1 №39	磨石	10.5	7.6	5.0	593.0	粗粒安山岩	一部欠損 梯面削痕
38	J-1 №40	石皿	26.3	16.0	6.0	3915.0	安山岩	周囲に縫をもつ 面面に凹あり
39	J-1 №102	梯状石器	8.9	3.9	2.5	148.0	安山岩	両端打抜
40	J-1 №141	梯状石器	8.7	3.0	3.0	135.0	黑色安山岩	梯面削痕 断面三角形
41	J-1 №55	打製石斧	7.7	4.5	1.4	53.2	黑色頁岩	基部欠損 瓶形

J-2出土遺物

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	分類
42	J-2 P 1-7-10-49-67-85-90-119-120-121-E-44-343-349-CG-20グ	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	浮模文。横走する浮模文に斜位の列目を矢羽根状に施す。また浮模文間に平行竹管文による前突文を施す。	II-2-a
43	J-2 P 7-16-25-32-51-70-79-84-89-91-E-17-34-36-326-343-DL-17グ-CG-23グ-CF-22グ	①中粒②良好③に焼④胴部	浮模文。横走する浮模文に斜位の列目を矢羽根状に施す。また浮模文間に平行竹管文による前突文を施す。胴部には1条の円形竹管文が横走し、胴部は変形文、裏書き文が文様構成される。	II-1-a
44	J-2 P 2-6-8-9-11-14-15-97-17-28-117-117グ	①中粒②良好③明赤褐色④胴部付近	浮模文。横走する3本の浮模文を1つの単位とする。浮模文上には斜位の列目を矢羽根状に施す。裏面に周縁文し體位。(CG-23グ J-4 P38)	II-2-a
45	J-2 P 81-117-117グ	①中粒②良好③明赤褐色④胴部	波状文と平行線文の組み合わせで構成される。(CG-23グ一括)	II-1-d

番号	出土位置	①油土 ②焼成 ③色刷 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	分類
48	J - 2 P 26	①中軸②良好③赤海螺④脚部	波状文。波長が長く強度は弱い。直線的であり波頂部で一旦止めざみにする山形状。	II - 1 - d
49	J - 2 一括	①中軸②良好③赤海螺④脚部	平行線文。横走する平行線の比率は深く、明瞭である。器面に纏文あるが、はっきりしない。	II - 2 - c
50	J - 2 P 10-20-22	①中軸②良好③において脚④脚～底	網文を RL 横位に施す。(J - 2 P 23-24-39-83-100-125-一括・E - 324)	II - 4 - a
51	J - 2 P 40-一括	①中軸②良好③において脚④脚部	横走する平行線の比率は深く明瞭である。(J - 4 - 一括)	II - 2 - c
52	J - 2 P 74	①中軸②良好③において脚④脚部	平行線文。網が狭く平行線に横走する。	II - 1 - f
53	J - 2 P 45	①中軸②良好③脚④口縁	横走したたは弧状の平行線と三角形状に構成する。波状口縁。	II - 2 - c
54	J - 2 P 114-134*	①中軸②良好③において黄海螺④脚部	道綱文・形文。技法的には平行線を引いた後に爪彫文を加えている。文様は曲線的に施されねじれ彫文を構成する。	II - 2 - b
J - 3 P 29-CF-20	CH-23グ・E - 394			
55	J - 2 P 104	①中軸②良好③明赤海螺④脚部	浮雲文に週目を施すところとそうでないところがある。	II - 2 - a
56	J - 2 P 31-88-一括	①中軸②良好③明海螺④脚～底部	脚の狭い平行線の波状文、正三角形に近く波頂(底)で一旦止める。	II - 4 - b
57	J - 2 P 28-P 102	①中軸②良好③明赤海螺④脚部	平行線文を横走、斜走して文様構成する。	II - 2 - c
58	J - 2 P 46-50	①中軸②良好③赤海螺④脚部	波状文。幅の狭い平行線の波状文、正三角形に近く波頂(底)で一旦止め	II - 1 - e
59	J - 2 P 30-E - 103	①中軸②良好③明赤海螺④脚部	浮雲文。斜位の刻目を施す。器面に纏文 RL 横位を施す。(E - 335-CJ-20 グ)	II - 2 - a

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備考
44	J - 2 S - 105	石盤	1.8	1.5	0.4	0.7	黒色頁岩	四基無茎機
45	J - 2 S - 56	焼成石器	4.7	1.6	0.7	8.7	黒色頁岩	網文あり
60	J - 2 S - 2	石斧	12.3	11.7	11.0	2235.0	安山岩	凹面あり 黒の一部のみ残
61	J - 2 S - 102	刮削	4.5	3.5	0.8	14.1	黒色安山岩	加工痕 自然面あり
62	J - 2 S - 81	刮削	6.8	4.2	0.7	18.8	黒色頁岩	加工痕
63	J - 2 S - 66	打製石斧	7.1	6.7	1.3	83.8	黒色頁岩	一部欠損 繊影
64	J - 2 S - 75	刮削	7.0	5.9	2.0	77.3	黒色安山岩	加工痕 自然面あり 未完成品
65	J - 2 S - 94	凹石	11.4	7.5	6.7	605.0	粗粒安山岩	凹六穴
66	J - 2 S - 36	磨石	12.5	8.7	2.6	445.0	黒色頁岩	凹面、側面とともに丁寧な磨き
67	J - 2 S - 1	石核	6.7	6.3	3.2	155.0	蛇紋岩	自然面あり 未完成品
68	J - 2 S - 13	敲石	9.2	5.9	3.4	245.0	粗粒安山岩	周端敲打面 側面頭部に傷か にいわ書色付着

J - 3 出土遺物

番号	出土位置	①油土 ②焼成 ③色刷 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	分類
69	J - 3 P 2-E - 253	①中軸②良好③赤海螺④脚部	平行線文。横走、斜走および乳線文による文様構成。器面に纏文 LR 横位。	II - 2 - c
70	J - 3 P 17	①中軸②良好③において脚④脚部	波状の平行線文で重複して加えられる。	II - 2 - c

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備考
71	J - 3 S - 6	石盤	(2.7)	1.6	0.5	(1.4)	黒色頁岩	四基無茎機 基部欠損
72	J - 3 S - 5	石盤	2.5	1.8	0.6	3.1	黒曜石	四基無茎機 基部欠損
73	J - 3 S - 18	打製石斧	11.5	4.6	1.1	82.6	黒色頁岩	片面は自然面 短筒形

J - 4 出土遺物

番号	出土位置	①油土 ②焼成 ③色刷 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	分類
74	J - 2 P 129-一括	①中軸②良好③において赤海螺④口縁	大型の浅鉢で肩下部より下を欠損する。通底爪彫文による本渦文、三向文の文様構成を行う。口径34.7cm、肩部径50.4cm	II - 2 - b
J - 4 P 33-49-43-一括	CF-24グ・CI-20グ			
75	J - 4 P 22	①中軸②良好③明赤海螺④口縁	通底爪彫文。横走または倒走して文様構成を行う。爪彫文間に斜位の窓目を施す。技法的には半輪行音の片方を認めむ。比刺している。	II - 2 - c
76	J - 2 P 23-J - 3 P 10+J - 4 P 9-29-32-39	①中軸②良好③において脚④脚部	浮雲文。横走する浮雲文に斜位の刻目を矢羽根状に施す。器面に纏文あるがはっきりしない。(CE-24グ・E - 38グ)	II - 2 - a
77	J - 4 P 41-一括	①中軸②良好③明赤海螺④口縁	横走線文に、斜走線文を組み合わせて三角形状、山形状の文様構成を行いうもの。器面には纏文が施されるが大部分が不明瞭。口唇上に刻目を施す。器面に纏文 LR 横位。	II - 2 - c
78	J - 4 - 一括-CG-22	①中軸②良好③赤海螺④脚部	平行線文。横走する平行線の比率は深く、明瞭である。器面に纏文あるがはっきりしない。	II - 2 - c
79	J - 4 P 44	①中軸②良好③明赤海螺④脚～底部	理段土器。口縁部および底部の一部を欠損する。文様は、横走する平行線文で、肩下部に纏文 RL 横位を施す。器体は二次焼成をうけ塗くなっている。	II - 1 - f
80	J - 4 P 15-16-17-20	①中軸②良好③脚④脚部	浮雲文に斜位の刻目を矢羽根状に施す。器面に纏文あり。(CD-CE-23グ)	II - 2 - a
81	J - 3 P 21-J - 4 P 31-CE-22グ・CH-21グ-E - 20	①中軸②良好③において黄海螺④脚～底部	浮雲文上に斜位の刻目を施す。通底の浮雲文内に満巻き文を配する文構成。口唇上に刻目。	II - 2 - a
82	J - 4 P 19-21-CF-24グ-DL 0グ	①中軸②良好③において黄海螺④脚～底部	浮雲文上に纏文を施す。2本づつ横走する浮雲文を巡らす。器面に纏文があるがはっきりしない。(E - 267)	II - 2 - a
83	J - 4 P 2	①中軸②良好③において脚④口縁	浮雲文上に斜位の刻目を施す。横走および曲線状の浮雲文を施す。文様帯を構成。口唇上に刻目。	II - 2 - a

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備考
84	J - 4 S - 6	石皿	(17.3)	19.0	4.8	(124.0)	粗粒安山岩	一部欠損
85	J - 4 S - 50	石盤	1.8	1.5	0.2	0.5	黒曜石	四基無茎機
86	J - 4 S - 90	石盤	2.4	1.5	0.4	1.1	変成岩	四基無茎機
87	J - 4 S - 77	石盤	2.6	2.0	0.2	1.5	黒色頁岩	四基無茎機
88	J - 4 S - 26	棒状石器	12.4	3.6	0.9	74.4	黒色頁岩	高面と右側面磨き

遺構外土遺物

番号	出土位置	文様要素・文様構成・彫形の特徴	分類
91	W-702-703	①船形 ②焼成 ③色刷 ④焼成 ①中敷②良好③赤青・明黄青・青・黒 ②口縁～胴部	陰帯文が波状口縁部に付され小突起をなす。羽状彫文LR・RL。尖底か。 I-1
92	W-636-637	①中敷②良好③明赤青・黒 ①中敷②良好③青	羽状彫文。 I-1
93	W-638	①中敷②良好③にぼい黒④胴部	羽状彫文。 I-1
94	W-640-610	①中敷②良好③にぼい黒④胴部	羽状彫文。 I-1
95	W-669-BK-17 グ	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
96	W-623-624-625	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。尖底土器。(W-628-649-650-BK-16 グ) I-1
97	W-630-BO-16 グ	①中敷②良好③青④胴部	楕文RL斜位。 I-1
98	W-654	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
99	W-241	①中敷②良好③明赤青④	羽状彫文。 I-1
100	W-187-206	①中敷②良好③赤黄青④胴部	羽状彫文。 I-1
101	W-一括	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
102	W-578-631-646	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。(BN-15-BK-16 グ) I-1
103	W-598-699	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。(BK-16 グ) I-1
104	W-631-651-652	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
105	BK-16 グ	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
106	W-578	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
107	W-626	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
108	W-685-BK-15 グ	①中敷②良好③赤青④胴部	羽状彫文。 I-1
109	BL-15 グ	①中敷②良好③青④胴部	羽状彫文。 I-1
110	BL-19 グ	①中敷②良好③にぼい黄青④口縁	羽状彫文。 I-1
111	W-598-BL-16 グ	①中敷②良好③にぼい黄青④口縁	羽状彫文。平口縁。 I-1
112	W-536	①中敷②良好③にぼい黄青④胴部	多条彫文。 I-1
113	E-461	①中敷②良好③にぼい黄青④胴部	羽状彫文。 I-1
114	W-31-BC-20 グ	①中敷②良好③にぼい黒④底部	底部片。 I-2
115	BN-18 グ	①中敷②良好③青④胴部	連続爪彫文。幅広の爪彫文を横走、斜走し文様構成。爪彫文間に刻目を施す。 II-2-b
116	DH-0 グ	①中敷②良好③にぼい黒④胴部	羽状彫文。 I-1
117	W-209	①中敷②良好③暗赤青④胴部	連続爪彫文。表出される爪彫文は狭い。木葉文を構成し、横に円形竹管文を配す。 II-1-b
118	W-141	①中敷②良好③赤青④胴部	連続爪彫文。横走する爪彫文間に円形竹管文を配す。風紋はRL傾位。 II-1-g
119	BL-16 グ	①中敷②良好③赤青④胴部	平行線文。横走する連続爪彫文で区画し、上に斜位の平行線文、下に調文RL傾位を施す。 II-1-f
120	BK-17 グ	①中敷②良好③にぼい黄青④胴部	連続爪彫文。技術的には、平行線を引いた後に爪彫文を加える。文様は、爪彫文が横走および並行に施される構成となる。連続爪彫文間に刻目を施す。 II-2-b
121	BN-16 グ	①中敷②良好③青④胴部	連続爪彫文。幅広の爪彫文を横走、斜走し文様構成。爪彫文間に刻目を施す。 II-2-b
122	BM-13 グ	①中敷②良好③にぼい黄青④胴部	連続爪彫文。表出される爪彫文は狭い。文様は爪彫文が横走、躍走、斜走し山形文を構成。風紋はLR傾位。 II-1-e
123	W-140	①中敷②良好③にぼい黒④胴部	弧線文の組み合わせにより木葉状構成をとる。木葉状の区画内には2箇1回の円形竹管文を配す。 II-1-b
124	W-286	①中敷②良好③明赤青④胴部	連続爪彫文。横走する連続爪彫文による文様構成。爪彫文間に彫文あり。 II-1-g
125	O-5 NO 3	①中敷②良好③青④胴部	連続爪彫文。横走する爪彫文の上に調文RL傾位を施す。 II-1-g
126	W-401	①中敷②良好③青④胴部	波状文。彫の狭い平行線文により波状に文様構成される。 II-1-d
127	W-一括	①中敷②良好③青④胴部	波状文。脛骨計工工具により波状に文様構成されるもの。脛骨数は4本。 II-1-d
128	E-497	①中敷②良好③にぼい黄青④口縁	連続爪彫文。 II-1-g
129	W-68	①中敷②良好③青④胴部	平行線文。単純に横走するもの。風紋はRL傾位。 II-1-f
130	AY-14 グ	①中敷②良好③青④胴部	平行線文。単純に横走するもの。風紋はRL傾位。 II-1-f
131	BN-18 グ	①中敷②良好③青④口縁	連続爪彫文。技術的には、平行線を引いた後に、爪彫文を加えるもの。 II-1-g
132	CJ-21 グ	①中敷②良好③にぼい赤青④口縁	連続爪彫文。技術的には、平行線を引いた後に爪彫文を施す。横走または弧状に施す。 II-2-b
133	BL-17 グ	①中敷②良好③赤青④口縁	連続爪彫文。口縁に沿って単純に横走する。粘土紐を貼付する縦帯をもつ。 II-1-g
134	W-一括	①中敷②良好③青④口縁	連続爪彫文。横走および並行に施される。 II-1-g
135	W-66-385	①中敷②良好③青④口縁	平行線文。櫛状工具により櫛状構成される。櫛齒数は4本。円形竹管文を配す。破損のためその構造は不明だが脛骨文状のモチーフをとると考えられる。 II-1-c
136	BK-12 グ	①中敷②良好③明赤青④胴部	平行線文。一条の連続爪彫文により区画される。櫛状工具により平行線文を施す。円形竹管文を施す。風紋あるのがはっきりしない。 II-1-e
137	W-1	①中敷②良好③明黄青④口縁	波状文。口縁に沿って一条の平行線を施しその間に波状文を施す。波状の平行線の内1本は划記が深く、もう一方は浅い。終わりに爪彫文に縦に配す。 II-1-d
138	BN-16 グ	①中敷②良好③にぼい黄青④胴部	格子文。平行線を交差させ格子目状の文様をする。画面に調文RL傾位を施す。 II-1-c
139	BL-18 グ	①中敷②良好③にぼい黄青④口縁	脛骨文。縦位の平行線文に斜位もしくは弧線文を組み合わせ脛骨文構成をとる。風紋はRL傾位。 II-1-a
140	E-551	①中敷②良好③青④口縁	格子文。斜位線を交差させ格子目状の文様を表す。画面に風紋あるがはっきりしない。 II-1-c
141	W-447	①中敷②良好③青④口縁	格子文。斜位線を交差させ格子目状の文様を表す。口縁に沿って平行線文を横走す。 II-1-c
142	W-174	①中敷②良好③にぼい黄青④口縁	平行線文。彫状に平行線を配し、その間に風紋を施す。 II-1-f
143	BO-17 グ	①中敷②良好③赤青④胴部	斜行線文により矢羽模状の文様構成を行うもの。 II-1-a
144	E-99-100-334-CI-21 グ	①中敷②良好③にぼい黄青④胴部	浮線文上に斜位の刻目を矢羽模状に施す。画面に風紋あるがはっきりしない。 II-1-a

番号	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・形態の特徴	分類
145	E-613-C1-24 グ	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を矢羽根状に施す。器面に縄文あるがはっきりしない。口唇上に細い輪柱を縦位に施す。	II-2-a
146	W-75-164-188-275-BK-13 グ-BO-17 グ-BL-15 グ	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	浮縫文上に縄文を施す。器面に陶文LR横位。	II-2-a
147	W-556	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を施す。文様構成は済美き文。	II-2-a
148	W-187	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を施す。器面に斜位横文。	II-2-a
149	W-297	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を施す。器面に斜位横文。	II-2-a
150	W-203	①中軟②良好③地④網部	浮縫文上に斜位の刻目を施す。器面に陶文LR横位。	II-2-a
151	W-162	①中軟②良好③地④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を施す。口唇上に浮縫文を施す。状状口縁。	II-2-a
152	W-151	①中軟②良好③明赤褐④網部	浮縫文上に斜位の刻目を施す。器面に陶文LR横位。	II-2-a
153	W-95-96-BM-13 グ	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を施す。文様構成は済美き文。器面に陶文LR横位。	II-2-a
154	BN-18 グ	①中軟②良好③にぼい④底部	浮縫文上に斜位の刻目を施す。器面に陶文LR横位。	II-2-a
155	W-186	①中軟②良好③にぼい④底部	焼走る浮縫文には斜位の刻目を矢羽根状に施すが、焼走および縱走するものには施され見えない。	II-2-a
156	W-192	①中軟②良好③地④底部	浮縫文上に斜位の刻目を施す。器面はLR横位。	II-2-a
157	BL-15 グ	①中軟②良好③地④網部	浮縫文上に斜位の刻目を矢羽根状に施す。	II-2-a
158	W-296	①中軟②良好③地④底部	焼走する浮縫文上に斜位の刻目を施し、その下に斜走または対走する浮縫文を施す。	II-2-a
159	BL-15 グ	①中軟②良好③地④網部	浮縫文上に斜位の刻目を施す。	II-2-a
160	調 NO.1	①中軟②良好③明赤褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を矢羽根状に施す。口唇上に2つの突起を作り出す。	II-2-a
161	E-3-4-10-11-22-27-42-73-355-560-CE-21 グ-CF-20 グ-CL-22 グ	①中軟②良好③赤褐④底部	浮縫文上に斜位の刻目を施すところと陶文を施すところがある。焼走する各段文様で区画し、その中に横書きまたは波形文様の文様構成を行なう。状状口縁。	II-2-a
162	CF-20 グ-E-351-468	①中軟②良好③にぼい赤褐④網部	浮縫文上に斜位の刻目を矢羽根状に施す。口唇上にも浮縫文。済美き文の文様構成をとる。	II-2-a
163	BP-18 グ	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を矢羽根状に施す。口唇上に浮縫文を施し円柱状の突起を作り出す。	II-2-a
164	W-529	①中軟②良好③明赤褐④口縁	浮縫文上に斜位の刻目を施す。口唇上にも浮縫文あり。状状口縁。器面に陶文があるがはっきりしない。	II-2-a
165	W-725	①中軟②良好③赤褐④底部	焼走する浮縫文。浮縫文上に斜位の刻目を矢羽根状に施す。平底。	II-2-a
166	W-521	①中軟②良好③地④底部	焼走する浮縫文。浮縫文上に斜位の刻目を施す。台付の底部。	II-2-a
167	BO-17 グ	①中軟②良好③赤褐④網部	矢羽根状に集合花模様を施し、網状の貼付文を有す。	II-3-a
168	BO-17 グ	①中軟②良好③赤褐④網部	矢羽根状に集合花模様を施し、網状の貼付文を有す。	II-3-a
169	BO-16 グ	①中軟②良好③にぼい赤褐④口縁	耳たぶの形の貼付文を有す。	II-3-a
170	BO-17 グ	①中軟②良好③にぼい赤褐④網部	柄の狭い平行線文が焼走し、その間に半載竹管でえぐって施文された一束の模様あり。	III-1
171	BP-17 グ	①中軟②良好③にぼい④網部	柄の狭い平行線文が焼走し、その間に半載竹管でえぐって施文された一束の文様あり。	III-1
172	W-516	①中軟②良好③にぼい④網部	焼文をLR横位に施す。	II-4-b
173	W-487	①中軟②良好③にぼい黄褐④網部	焼文をLR横位に施す。	II-4-b
174	W-161	①中軟②良好③地④網部	焼文をLR横位に施す。	II-4-b
175	E-345-655	①中軟②良好③にぼい窓口④底	ミニチュア土器「有孔ババ付	II-4-b
176	W-294-BO-19 グ	①中軟②良好③明黄褐④網部	多条縄文。(BN-17 グ)	II-4-a
177	BL-17 グ	①中軟②良好③地④網部	焼文をLR横位に施す。	II-4-a
178	W-713	①中軟②良好③明赤褐④網部	焼文をLR横位に施す。	II-4-a
179	W-69	①中軟②良好③にぼい黄褐④網部	焼文をLR横位に施す。	II-4-a
180	W-142	①中軟②良好③にぼい黄褐④網部	状状貝殻文上に横縄文が施される。	III-1
181	BO-17 グ	①中軟②良好③にぼい④網部	状状貝殻文と焼走線文からなる。	III-1
182	BO-16 グ	①中軟②良好③にぼい④網部	状状貝殻文上に焼走線文を施す。	III-1
183	BJ-13 グ	①中軟②良好③にぼい④網部	焼文をLR横位に施す。	II-4-a
184	E-234	①中軟②良好③にぼい④網部	新規開口。	II-4-a
185	BG-11 グ	①中軟②良好③にぼい黄褐④網部	波状文。垂曲状工具により連続的に波状に施す。繩歛数は3本。	II-1-d
186	W-143	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	焼走るおよび状の平行線文と横走線文を施す。器面に爪形文を施す。	II-2-c
187	CE-24 グ	①中軟②良好③明赤褐④網部	平行線文。横走線文と斜行線文を組み合させて山形状の文様構成を行うもの。	II-1-e
188	CF-23 グ	①中軟②良好③赤褐④網部	焼走する平行線文。器面に陶文RL横位を施す。	II-1-f
189	CG-22 グ	①中軟②良好③にぼい④網部	平行線文。単純に焼走する。	II-1-f
190	CE-24 グ	①中軟②良好③にぼい窓口④網部	平行線文。単純に焼走する。網部に縄文あるがはっきりしない。	II-1-f
191	E-220-CJ-23 グ	①中軟②良好③明赤褐④口縁④網部	柄の狭い平行線文による山形状の文様を構成。	II-1-e
192	CB-24 グ	①中軟②良好③にぼい④網部	平行線文。単純に焼走する。網文はRL横位。	II-1-f
193	E-109	①中軟②良好③にぼい④口縁	焼走線文の間に斜行線文を組み合わせ、山形文に文様構成する。	II-1-e
194	E-340-一括	①中軟②良好③明赤褐④網部	波状文。表面が長く波浪状で一旦止めざみに施文する。	II-1-d
195	CH-22 グ	①中軟②良好③地④網部	波状文。表面が長く波浪状で一旦止めざみに施文する。	II-1-d
196	W-542	①中軟②良好③にぼい黄褐④口縁	横位の平行線文に斜行線文を組み合わせて文様構成をとる。	II-1-f
197	W-170	①中軟②良好③にぼい黄褐④網部	平行線文間に斜行線文を配し、山形状の文様を構成する。	II-1-e
198	BO-16-17 グ	①中軟②良好③明赤褐④網部	波状の平行線文と横走線文を組み合わせ文様構成する。網文はL横位を施す。	II-2-c
199	W-293-BN-18 グ	①中軟②良好③明赤褐④網部	波状の平行線文で文様構成。地面上に陶文が加えられるがはっきりしない。	II-2-c
200	BN-16 グ	①中軟②良好③にぼい黄褐④網部	焼走線文と平行線文を組み合わせて文様構成を行う。	II-2-c
201	BF-16 グ	①中軟②良好③地④網部	波状の平行線文と斜行線文を組み合わせて文様構成を行う。	II-2-c
202	BC-17 グ	①中軟②良好③地④網部	波状の平行線文と横走線文を組み合わせ文様構成する。器面に陶文L横位。	II-2-c
203	BO-17 グ	①中軟②良好③明赤褐④網部	波状の平行線文と横走線文を組み合わせ文様構成する。器面に陶文L横位。	II-2-c

番号	出土位置	①紳士 ②虎威 ③色面 ④西存	文様要素・文様構成・器物の特徴	分類
204 BL-BO-17 グ	①中紋②良好③地④口縁	横走または斜走する平行線文で文様構成する。	II-2-c	
205 BP-17 グ	①中紋②良好③によい雲④口縁	口縁に沿って平行線文を施す。	III-1	
206 E-678	①中紋②良好③によい雲④口縁	横走、斜走または弧状の平行線で飾巻き文を施す。波状口縁。	II-2-c	
207 E-503-504	①中紋②良好③地④口縁	横走または弧状の平行線で文様構成するもの。波状口縁。	II-2-c	
208 CJ-24 グ	①中紋②良好③地④口縁	横走、斜走または弧状の平行線で文様構成を行う。	II-2-c	
209 E-654	①中紋②良好③によい雲④口縁	横走、斜走または弧状の平行線で文様構成する。	II-2-c	
210 CJ-24 グ	①中紋②良好③によい雲④口縁	口縁に沿って平行線を施す。	II-2-c	
211 CJ-24 グ	①中紋②良好③地④口縁	弧状の平行線で飾巻き文を施す。波状口縁。	II-2-c	
212 E-113	①中紋②良好③地④胸部	横走または斜走する平行線文を組み合わせて複雑な文様構成となっている。	II-2-c	
213 CG-23 グ	①中紋②良好③によい雲④胸部	弧状の平行線文で文様構成を行う。波状口縁付近であろう。	II-2-c	
214 DF-4 グ	①中紋②良好③によい雲④口縁	口縁に沿って平行線文を施す。波状口縁であろう。	II-2-c	
215 E-261	①中紋②良好③によい雲④胸部	横走、斜走または弧状の平行線で飾巻き文を施す。	II-2-c	
216 E-58-660	①中紋②良好③によい雲④口縁	弧状の平行線で文様構成をとる。波状口縁。	II-2-c	
217 W-178-179-283	①中紋②良好③明黄地④口縁	結節序譜文、波状口縁。(BL-16-BO-17 グ)	III-2	
218 W-144-BO-17 グ	①中紋②良好③明黄地④胸部	結節序譜文で飾巻き文を施す。	III-2	
219 W-400	①中紋②良好③地④胸部	波旋山形刺文により山形の文様を構成。腰帯の両側に連続爪形文を施す。肩から後内側外腹面。	IV-1	
220 W-588	①中紋②良好③地④胸部	波旋山形刺文により三角形状の文様構成を行い、その中に三叉文を施す。腰帯の両側に連続爪形文を施す。外腹朱漆帯。	IV-1	
221 W-695-715	①中紋②良好③赤明黄地④胸部	波旋山形刺文を施す。腰帯の両側に連続爪形文を施す。三叉文あり。外腹朱漆帯。	IV-1	
222 BM-12 グ	①中紋②良好③地④胸部	波旋山形刺文を施す。腰帯の両側に連続爪形文を施す。外腹朱漆帯。	IV-1	
223 BM-12 グ	①中紋②良好③地④胸・上半腰	波旋山形刺文を施す。腰帯の一方にのみ連続爪形文を施す。外腹朱漆帯。	IV-1	
224 W-73	①中紋②良好③地④胸部	円形の腰帯。腰帯の両側に連続爪形文を施す。外腹朱漆帯。	IV-1	
225 W-721-BM-12 グ	①中紋②良好③赤④胸部	波旋山形刺文を施す。腰帯の両側に連続爪形文を施す。外腹朱漆帯。	IV-1	
226 W-720-BM-12 グ	①中紋②良好③地④胸部	波旋山形刺文を施す。腰帯の両側に連続爪形文を施す。三叉文あり。	IV-1	
227 W-593	①中紋②良好③明赤褐④腰下半腰	平行線で区画した中を連続爪形文、波旋山形刺文を施す。内外腹朱漆帯。	IV-1	
228 W-84	①中紋②良好③によい雲④胸部	円形の腰帯。腰帯上及びまわりに連続爪形文を施す。(NO.219~228)は新道系土器で見られる。	IV-1	
229 W-36	①中紋②良好③によい赤褐心④胸部	透彫文の背面内に充填焼文。	IV-2	
230 BE-12 グ	①中紋②良好③④胸部	透彫文の背面内に充填焼文。	IV-2	
231 W-36	①中紋②良好③によい黄褐心④胸部	透彫爪形文。裏面に焼文焼位を施す。	II-1-g	
232 W-30	①中紋②良好③赤・暗赤褐・黒・によい黄褐心④胸部	透彫爪形文。	II-1-g	
233 BC-18 グ	①中紋②良好③黄・暗赤褐・黒・によい黄褐心④胸部	透彫爪形文。爪形文内に撻文LR焼位を施す。	II-1-g	
234 D-19	①中紋②良好③赤・黒褐・黒・によい黄褐④胸部	透彫爪形文。画面に焼文あり。	II-1-g	

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備 考
89 D-21 S-1	所置	10.0	6.6	2.2	12.0	160.0	安山岩	使用痕 片面は自然面
90 O-5 NO.2	打撲石斧	11.4	6.4	2.1	160.0	50板岩	鋸形	

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備 考
235 BO-17 グ	石鏡	2.0	1.7	0.3	1.1	チャート	基部欠損	
236 W-551	石鏡	2.0	1.7	0.4	1.0	黑色安山岩	凹基無茎鏡	
237 W-570	石鏡	2.3	1.5	0.4	1.3	黒色頁岩	凹基無茎鏡	
238 W-708	石鏡	2.0	1.4	0.4	1.1	チャート	平基無茎鏡	
239 E-672	石鏡	2.3	1.9	0.3	1.5	黒色頁岩	凹基無茎鏡	
240 E-667	石鏡	(2.1)	1.7	0.2	(1.0)	黒色頁岩	凹基無茎鏡 先端部欠損	
241 W-552	石鏡	2.4	1.9	0.3	1.3	チャート	凹基無茎鏡	
242 W-567	石鏡	2.0	1.4	0.2	0.5	墨墨石	凹基無茎鏡	
243 W-572	石鏡	(1.8)	1.3	0.4	(1.3)	チャート	平基無茎鏡 先端～基部欠損	
244 W-553	石鏡	2.3	1.8	0.3	1.4	黒色頁岩	凹基無茎鏡	
245 W-554	石鏡	2.4	1.9	0.4	2.3	黒色頁岩	凹基無茎鏡	
246 W-417	石鏡	(2.6)	1.6	0.4	(1.3)	黒色安山岩	凹基無茎鏡 先端～基部欠損	
247 W-564	石鏡	2.1	1.7	0.2	0.6	墨墨石	凹基無茎鏡	
248 W-550	石鏡	2.0	1.4	0.3	0.9	チャート	凹基無茎鏡	
249 E-601	石鏡	2.0	1.4	0.5	1.6	チャート	平基無茎鏡 完成品	
250 W-728	石鏡	1.8	1.9	0.3	0.8	黒色安山岩	凹基無茎鏡	
251 W-602	石鏡	1.8	1.5	0.25	1.1	チャート	凹基無茎鏡	
252 BE-15 グ	石鏡	1.9	0.8	0.3	0.6	チャート	凹基無茎鏡 基部欠損	
253 W-734	石鏡	1.8	1.6	0.3	1.0	黒色頁岩	凹基無茎鏡 基部欠損	
254 W-601	石鏡	2.9	1.7	0.3	1.5	黒色頁岩	凹基無茎鏡 基部欠損	
255 W-693	石鏡	2.6	1.8	0.5	2.7	チャート	凹基無茎鏡	
256 E-676	石鏡	1.8	1.2	0.25	0.3	墨墨石	凹基無茎鏡	
257 BK-17 グ	石鏡	2.2	1.9	0.6	2.0	チャート	平基無茎鏡 基部欠損	
258 W-561	石鏡	3.1	1.4	0.4	2.0	黒色頁岩		
259 BN-16-17 グ	石鏡	2.9	1.7	0.3	1.7	黒色頁岩		
260 W-563	石鏡	3.8	1.5	0.5	3.4	黒色頁岩	一部欠損	
261 BM-17 グ	石鏡	3.5	1.8	1.0	4.8	チャート		
262 BN-16 グ	石鏡	3.0	1.7	0.4	2.5	黒色頁岩		
263 W-558	石鏡	4.3	5.7	0.7	16.3	黒色頁岩	未完成品 横型	
264 W-571	石鏡	5.6	3.1	1.0	18.5	チャート	未完成品 横型	

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備考
265	W-569	石匙	8.1	5.1	9.0	42.4	黒色頁岩	模型 未完成品(先端部)
266	E-666	石匙	4.1	4.5	0.9	16.7	チャート	縦型
267	W-648	石匙	3.0	4.7	0.3	4.9	黒色頁岩	小型 模型
268	W-11	石匙	5.4	5.6	1.0	22.7	黒色頁岩	横型 加工痕 未完成品
269	BL-16グ	打撲石斧	6.7	7.5	1.7	136.0	黒色頁岩	分銅型 一部欠損
270	W-139	打撲石斧	10.3	4.4	1.5	116.8	黒色安山岩	縦形
271	CJ-22グ	打撲石斧	6.1	4.9	2.0	81.1	黒色頁岩	基部・刃端欠損
272	W-424	打撲石斧	8.2	5.1	1.5	57.3	黒色頁岩	縦形 未完成品 一部欠損
273	E-661	打撲石斧	5.4	5.2	1.4	76.8	黒色頁岩	縦形 使用痕(磨耗痕)刃端剝離 基部欠損
274	W-425	打撲石斧	5.3	4.8	1.3	67.4	黒色頁岩	縦形
275	W-19	打撲石斧	8.8	5.3	1.5	92.1	黒色安山岩	縦形 片面は自然面 未完成品
276	W-574	石匙	5.4	6.0	1.4	120.0	黒色頁岩	研削形 加工痕 片面は自然面
277	E-507	打撲石斧	10.6	6.1	1.6	100.9	黒色安山岩	前面に自然面あり 未完成品
278	W-218	打撲石斧	(6.2)	4.7	1.3	45.5	黒色安山岩	縦形 基部欠損
279	E-187	打撲石斧	(3.9)	(4.6)	(1.7)	(35.1)	黒色頁岩	縦形 一部自然面あり 基部のみ
280	CH-19グ	打撲石斧	(9.0)	(5.8)	(1.8)	(79.5)	黒色頁岩	表面に自然面あり 縦形 一部欠損
281	E-479	打撲石斧	8.4	5.9	1.3	125.0	黒色安山岩	一部欠損
282	E-177	打撲石斧	(5.1)	(4.9)	(1.9)	(62.8)	黒色頁岩	表面に自然面あり 刀部のみ 使用痕
283	W-573	打撲石斧	6.9	4.9	1.2	45.6	黒色頁岩	縦形
284	BN-16-17グN11	石匙	17.0	5.2	1.7	110.7	黒色安山岩	加工痕 未完成品
285	W-532	打撲石斧	(5.7)	(6.4)	(1.7)	(55.7)	黒色頁岩	一部欠損
286	CI-22グ	打撲石斧	(3.4)	(5.3)	(1.4)	(26.5)	黒色頁岩	刃部のみ 使用痕
287	E-151	打撲石斧	(5.3)	(6.9)	(2.1)	(82.6)	黒色安山岩	一部に自然面あり 未完成品 一部欠損
288	W-562	打撲石斧	12.6	5.2	1.2	94.2	黒色頁岩	自然面あり 縦形
289	BB-12グ	打撲石斧	(3.8)	(4.9)	(0.9)	(24.5)	黒色頁岩	使用痕(磨耗痕) 一部欠損
290	E-656	打撲石斧	(5.8)	(5.9)	(1.4)	(59.4)	粘板岩	使用痕あり 基部欠損
291	E-374	磨製石斧	9.3	5.5	2.5	242.0	綠色変岩	基部欠損
292	W-331	石匙	6.0	4.5	1.5	50.8	黒色安山岩	加工痕
293	CH-17グ	削器	10.2	9.3	2.5	220.0	黒色安山岩	片面は自然面
294	W-565	磨製石斧	13.1	6.8	3.1	375.0	綠色変岩	刃部 基底部の一部欠損 №295と一緒に出土
295	W-566	磨製石斧	12.0	6.4	2.4	342.0	綠色変岩	使用痕あり №294と一緒に出土
296	BN-16-17グN13	磨石	10.0	7.5	5.1	522.0	安山岩	両面磨痕
297	DI-0グ	磨石	(0.2)	(7.7)	(4.9)	(450.0)	安山岩	一部欠損
298	W-560	磨石	11.6	7.7	4.6	618.0	粗粒安山岩	両面磨痕
299	W-555	磨石	11.8	6.0	4.5	450.0	安山岩	両端敲打痕 表面磨痕あり
300	W-600	磨石	9.0	5.1	2.8	210.0	安山岩	敲打痕
301	E-669	磨石	(6.4)	(7.1)	(4.1)	(240.0)	安山岩	端部に打痕あり
302	W-15	磨石	11.6	7.6	4.2	505.0	安山岩	熱による剝離 磨痕あり
303	W-582	磨石	10.9	5.1	2.8	240.0	安山岩	僅かな磨痕
304	W-575	磨石	10.3	6.5	4.0	420.0	安山岩	磨痕あり
305	W-41	凹石	9.1	6.6	3.9	193.0	粗粒安山岩	粗粒安山岩
306	E-385	凹石	16.5	11.8	8.4	1840.0	粗粒安山岩	粗粒安山岩
307	E-674	凹石	(7.5)	(7.3)	(5.7)	(370.0)	粗粒安山岩	1/4 斜残
308	E-662	凹石	13.5	13.3	8.1	1990.0	粗粒安山岩	粗粒安山岩
309	DH-3グ	凹石	(5.8)	(8.2)	5.0	(285.0)	粗粒安山岩	1/2 斜残
310	E-166	凹石	5.8	6.5	3.6	250.0	粗粒安山岩	両面に凹あり
311	W-397	凹石	10.7	7.8	4.5	505.0	粗粒安山岩	両面に凹あり
312	W-596	凹石	8.0	7.2	4.0	295.0	粗粒安山岩	両面に凹あり
313	E-571	多孔石	32.7	18.5	7.4	6500.0	安山岩	表裏9ヶ所孔あり
314	W-216	磨・敲石	(10.8)	(7.3)	(5.1)	(630.0)	安山岩	一部欠損 磨痕 端部敲打痕あり
315	BN-19グ	敲石	6.7	6.3	3.1	183.0	粗粒安山岩	被熱 端部敲打痕
316	CI-20グ	敲石	11.4	6.8	4.9	405.0	粗粒安山岩	粗粒安山岩
317	E-172	磨・敲石	17.5	9.3	3.1	795.0	安山岩	磨痕 下端擦痕打痕あり
318	W-661	石皿	(10.2)	(18.8)	(5.6)	(1140.0)	粗粒安山岩	表面に石皿としての使用痕があり 1/4 強残
319	W-137	石皿	(15.7)	(21.4)	(3.8)	(1070.0)	粗粒安山岩	表面に石皿としての使用痕があり 1/4 強残
320	W-38	柳状石器	14.0	5.8	3.0	463.0	安山岩	両面磨痕あり
321	E-673	柳状石器	7.8	3.7	1.0	41.8	頁岩	無而使用痕 基部欠損
322	E-659	柳状石器	10.5	3.2	3.0	116.5	粗粒安山岩	全面研磨
323	BM-18グ	柳状石器	8.8	3.4	2.5	121.0	安山岩	表面磨痕 自然石か
324	BN-16-17グN14	柳状石器	18.0	5.3	2.7	436.0	綠色変岩	両端敲打痕
325	W-568	柳状石器	6.0	2.3	1.0	26.1	練剥片岩	一部欠損 磨製
326	W-627	柳状石器	8.5	2.5	1.3	55.1	綠色変岩	両端敲打痕
327	W-133	柳状石器	13.7	3.5	2.1	142.0	綠色変岩	両端敲打痕
328	W-634	劍片	4.5	6.5	1.8	43.1	黒色頁岩	加工痕か 自然面あり
329	W-617	劍片	6.4	7.0	1.8	43.2	黒色頁岩	加工痕
330	BK-13グ	劍片	5.8	2.6	0.9	13.6	黒色頁岩	加工痕 自然面あり
331	BL-19グ	劍片	5.3	9.3	1.2	56.1	黒色頁岩	加工痕 片面は自然面
332	BL-16グ	劍片	4.4	6.0	1.2	23.9	黒色安山岩	加工痕 自然面あり
333	BN-15グ	劍片	5.9	3.1	1.5	15.6	黒色頁岩	加工痕 自然面あり
334	BM-16グ	劍片	5.8	3.1	1.2	11.2	黒色頁岩	加工痕
335	E-192	劍片	6.4	4.2	1.1	32.7	黒色頁岩	加工痕

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	備考
336	W-9	剝片	6.2	4.4	1.0	17.7	黒色安山岩	加工痕、自然面あり
337	W-10	剝片	3.3	3.6	0.6	7.7	黒色頁岩	加工痕、片面自然面一部欠損か
338	BM-16 グ	剝片	5.2	4.9	0.7	25.4	黒色安山岩	加工痕、片面全面自然面
339	CF-23 グ	剝片	6.4	4.2	1.1	27.7	黒色頁岩	加工痕
340	BN-16-17 グNo.2	石器	4.6	3.8	1.5	25.7	黒色頁岩	製作途中
341	W-522	剝片	6.1	4.2	0.7	14.1	黒色頁岩	加工痕、使用痕
342	CH-23 グ	剝片	4.8	4.0	1.0	14.0	黒色頁岩	加工痕、使用痕、自然面あり
343	W-249	削器	6.9	4.7	1.4	44.1	黒色頁岩	自然面あり一部欠損
344	W-37	剝片	5.8	10.4	1.4	95.0	黒色安山岩	剥離あり、加工痕
345	W-578	剝片	6.3	5.3	1.0	40.5	黒色頁岩	加工痕、上面に自然面あり
346	W-304	剝片	4.1	7.2	0.9	23.4	黒色頁岩	加工痕、自然面あり
347	E-545	剝片	5.8	6.3	1.5	43.9	黒色頁岩	加工痕、自然面あり
348	W-597	剝片	8.2	5.0	1.5	51.4	黒色頁岩	バルブ、自然面あり
349	W-450	剝片	5.1	6.5	1.1	32.6	黒色頁岩	加工痕、自然面あり
350	W-284	剝片	6.9	4.5	0.7	21.5	黒色安山岩	加工痕
351	W-732	削器	7.7	5.6	1.6	68.4	黒色頁岩	表面加工痕、裏面自然面
352	W-730	尖頭器	10.5	2.6	0.8	27.4	頁岩	基部欠損
353	W-17	尖頭器	13.0	3.4	2.2	98.8	黒色頁岩	自然面あり
354	W-12	尖頭器	10.7	4.5	1.9	59.5	黒色頁岩	自然面あり
355	W-15	尖頭器	4.8	1.8	0.9	8.7	黒色頁岩	先端基部欠損
356	W-136	石斧か	16.0	7.2	2.8	575.0	縞状片岩	打痕、未完成品
357	W-736	鍛斧か	8.5	6.0	2.6	163.0	黒色頁岩	片面に自然面あり
358	E-664	磨石	6.7	5.4	3.2	160.0	安山岩	全面良磨きあり
359	E-170	円錐石器	9.0	8.2	4.6	360.0	粗粒安山岩	
360	BN-16-17 グNo.5	磨石	10.0	9.9	4.4	605.0	粗粒安山岩	被熱による剥離あり、保付着一部打痕、両面磨きあり
361	W-14	磨石	7.0	7.5	2.7	298.0	安山岩	表面僅かな瘤みあり、磨痕
362	W-733	石器	(15.2)	(18.6)	(6.1)	(1940.0)	粗粒安山岩	礫か凹あり
363	CH-24 グ	磨石	(5.1)	(9.8)	(6.8)	(360.0)	粗粒安山岩	一部欠損
364	W-599	石皿	25.9	26.6	9.6	6900.0	粗粒安山岩	礫か凹あり
365	W-557	側面石器か	4.1	3.2	1.0	20.6	黒色頁岩	
366	E-670	石器	5.7	3.0	0.5	14.3	黒色頁岩	一部欠損

奈良・平安住居跡 出土遺物

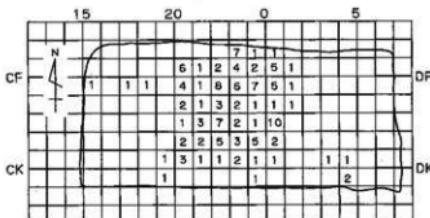
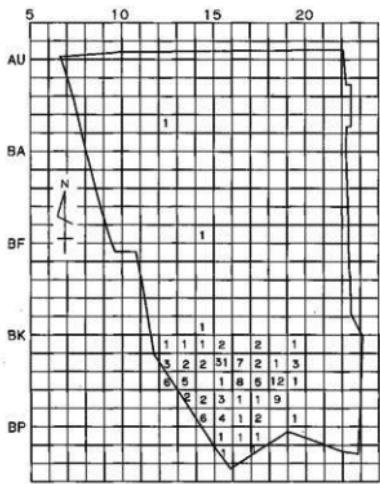
(註) 法量は①口徑②底径③脚部最大径④高さ⑤ツマミ径

番号	出土位置	器形	法量	成・整形方法				
				①	②	③	④	⑤
367	H-1 カマ F No.1	坏 (土師器)	①12.8 ②3.9	①細粒②良好③擦④ほぼ完形	口縫部は短く直立し体部は内湾に立ち上がり底部は丸底。口縫部外側面横ナデ。体～底部へラ削り。口縫部の一部に張出。底部外面に擦痕。			
368	H-1 カマ F No.2	坏 (土師器)	①13.2 ②2.0 ③4.0	①細粒②良好③擦④光形	口縫部は短く直立し、体部は内湾して立ち上がり底部は安定した丸底。口縫部外側面横ナデ。内湾体部もナデ、体～底部へラ削り。口縫部内部に擦痕。			
369	H-1 カマ F No.4	坏 (土師器)	①14.0 ②2.8 ③5.5	①細粒②良好③擦④完形。	口縫部は短く直立し、体部は緩やかに内湾し丸底。口縫部外側面横ナデ。内面口～体部迄ナデ、体～底部へラ削り。口縫部に2ヶ所穿孔。			
370	H-1 カマ F No.6	坏 (土師器)	①13.4 ②5.8 ③3.1	①細粒②良好③擦④完形	口縫部は上端で内湾し、体部は内湾して立ち上がり、底部は平底だみ。二次焼成痕。口縫部外側面横ナデ。内面、体部にラ削り、ヘラナダ。外腹面へ底部ナデ。			
371	H-1 カマ F No.7	坏 (土師器)	①13.0 ②4.0 ③2.9	①細粒②良好③擦④完形	口縫部は短く直立し、体部は内湾して立ち上がり丸底。口縫部外側面横ナデ。内面は体部迄横ナデ。外腹、体～底部へラ削り。口縫部にツール付着あり。			
372	H-1 カマ F No.5	坏 (土師器)	①13.4 ②3.3 ③3.5	①細粒②良好③擦④完形	口縫部は短く直立し、体部は内湾して立ち上がり、丸底。口縫部外側面横ナデ。内面は体部迄横ナデ。体～底部へラ削り。			
373	H-1 No.2 + 3	坏 (土師器)	①13.8 ②4.0 ③3.2	①細粒②良好③擦④ほぼ完形	口縫部は短く直立し、体部は内湾して立ち上がり、底部は平底だみ。口縫部は内側面横ナデ。内面は体部迄横ナデ。外腹、体～底部へラ削り。口縫部にツール付着あり。			
374	H-1 No.1	坏 (土師器)	①14.2 ②4.6 ③3.8	①細粒②良好③擦④完形	口縫部は直立し、体部は内湾して立ち上がり、丸底。口縫部外側面横ナデ。内面は体部迄横ナデ。体～底部へラ削り。口縫部内に1ヶ所穿孔付。			
375	H-1 カマ F No.3	蓋 (須恵器)	①13.0 ②4.2 ③3.0 ④3.4	①細粒②良好③灰白④完形	体部は天井部から腰やかに両曲し、口縫部は短く内屈する。ロクロ整形。天井部外周縁部へラ削り。焼成後、ツマミ中央部に穿孔。			
376	H-2 No.1	坏 (須恵器)	②6.6	①細粒②良好③暗灰④1/4 残	体部は腰やかに両曲し、段を持つ平底。ロクロ整形。底部回転式切り。外周縁部手持ちへラ削り。			
377	H-2 No.5	坏 (須恵器)	②7.4	①細粒②良好③灰白④1/2 残	体部は腰やかに両曲する平底。ロクロ整形。底部へラ削り。口縫部にラ削り。			
378	H-2 カマ F No.8	小型壺 (土師器)	① [14.0]	①細粒②良好③赤褐④口縫	口縫部は外傾する。口縫部横ナデ。ロクロ整形のみ残。			
380	H-3 No.1	蓋 (須恵器)	①15.9 ②4.3 ③5.4 ④7.1	①細粒②良好③灰白④ほぼ完形	体部は天井部から腰やかに両曲し、口縫部内にかえりをもつ。ロクロ整形。天井部外周縁部へラ削り。ツマミ貼付。			
381	H-3 No.3	坏 (土師器)	①13.8 ②6.0 ③0.3 ④3.1	①細粒②良好③擦④1/5 残	口縫部は短く、体部から内湾して立ち上がり、丸底。口縫部外側面横ナデ。体～底部へラ削り。			

番号	出土位置	器 形	法 量	成・形 方 法			
				①胎土②焼成③色④残存	①織紋②良好③赤褐④口縁 ～底部 3/4 狹	不安定な平底。肩部は球形をなして内溝し、口縁部は外輪する。口縁部削り。肩～底部斜位のヘラ削り。外沿焼付着。	
383	H-3 №5	小型甌 (土師器)	① [13.2] ②3.8 ③14.2④15.8				
384	W-32	甌 (須恵器)	④(1.9)⑤2.5	①織紋②良好③灰④ツマミ部	体部は天井部から腰やかに両曲する。クロコ彫形。ツマミ貼付。		

番号	出土位置	器 形	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材		備 考
							安山岩	西面磨痕	
379	H-2 №13	磨 石	8.7	7.9	3.0	325.0			
382	H-3 №4	砾 石	7.2	9.1	4.8	118.0	砾石	加工面あり	

番号	出土位置	器 形	長さ	幅	厚さ	重さ	残 存	備 考		
								不明	鉄製品	
385	B-2 №1	鍔か	(4.0)	(4.6)	(0.3)	(18.2)				



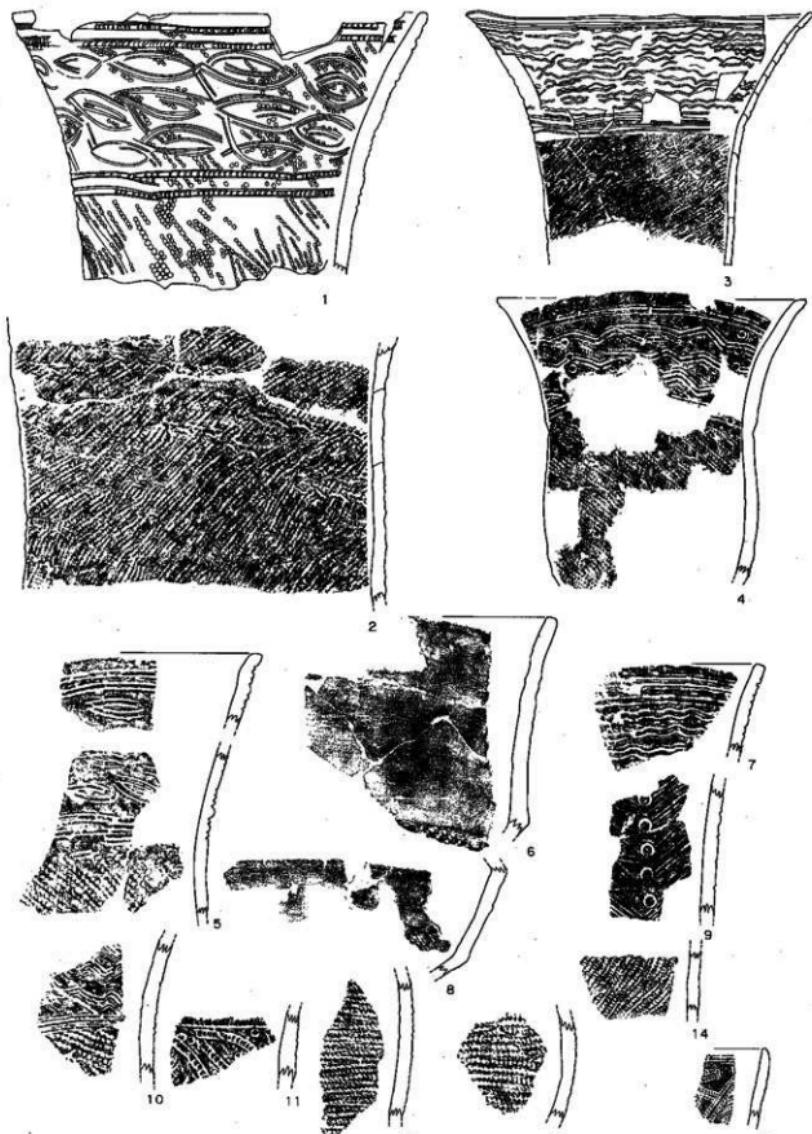
第25図 グリッド別焼石分布図

第4表 ピット計測表

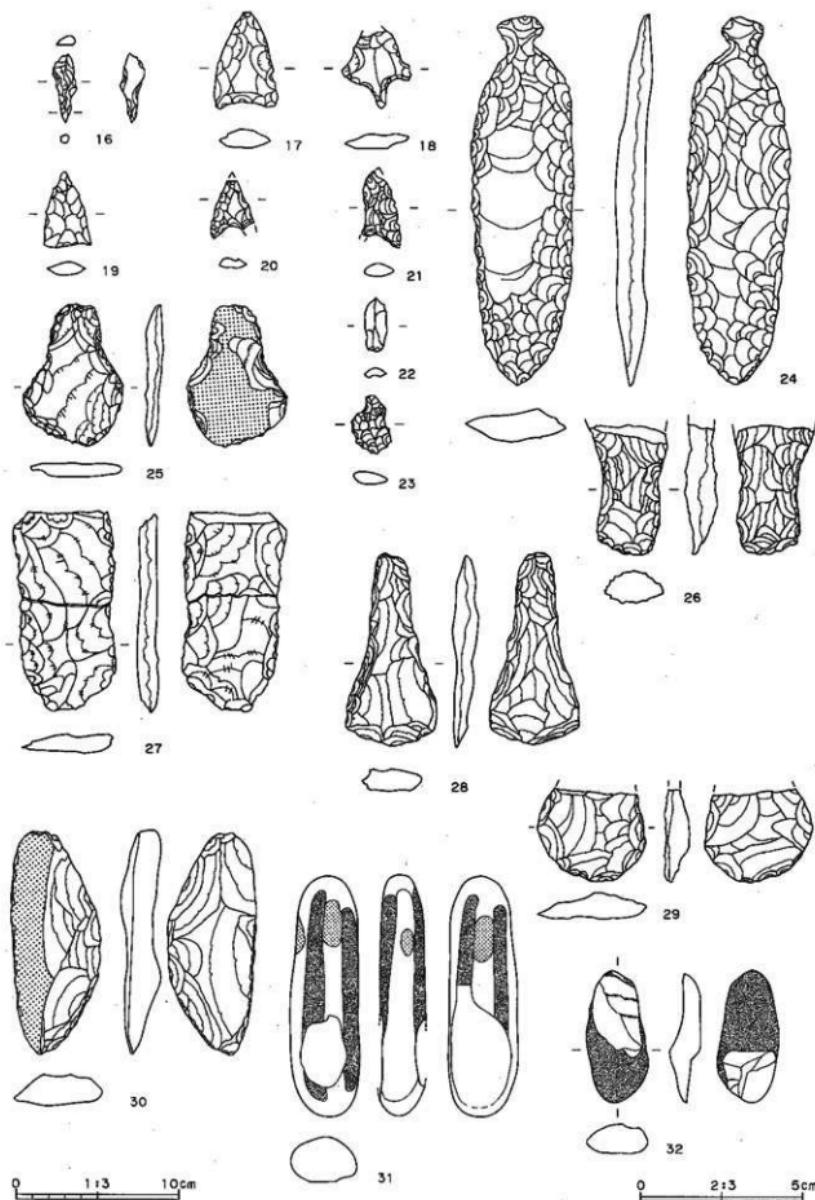
法量は、長径×短径×深さ(cm)を表す。

番号	位置	法量	平面形	備考
1	AT-17グ	36×36×34	円 形	B-1
2	AT-17グ	40×37×45	円 形	B-1
3	AT-18グ	45×45×23	円 形	B-1
4	AU-18グ	57×44×48	楕 円 形	B-1
5	AU-18グ	41×40×21	円 形	B-1
6	AU-17グ	41×34×20	楕 円 形	B-1
7	AU-17グ	40×38×27	円 形	B-1
8	AU-17グ	54×45×67	楕 円 形	B-1
9	BA-BB-16グ	70×60×38	隅丸方形	B-2, 3
10	BA-17グ	60×52×40	円 形	B-2, 3
11	BA-17グ	70×46×42	楕 円 形	B-2, 3
12	BB-17グ	51×48×52	円 形	B-2, 3
13	BB-17グ	68×54×43	円 形	B-2, 3
14	BC-17グ	53×51×43	円 形	
15	BC-17グ	46×40×29	円 形	
16	BB-17グ	73×42×24	楕 円 形	B-2
17	BC-16グ	60×50×33	楕 円 形	
18	BB-16グ	37×34×25	円 形	B-3
19	BB-16グ	32×30×17	円 形	B-2
20	BB-16グ	40×34×29	円 形	B-2
21	BB-16グ	44×29×23	楕 円 形	B-3
22	AU-AV-17グ	34×32×14	円 形	
23	AU-18グ	38×30×53	楕 円 形	
24	AU-18グ	29×28×12	円 形	
25	BC-17グ	34×34×26	円 形	B-3
26	BC-17グ	38×38×45	円 形	B-3
27	BC-17グ	37×26×15	楕 円 形	B-3
28	AX-19グ	28×25×60	円 形	
29	AX-18グ	33×32×39	円 形	
30	BK-20グ	21×20×29	円 形	
31	AU-22グ	28×27×53	円 形	
32	AV-22グ	39×37×43	円 形	
33	AV-22グ	32×30×39	円 形	
34	AV-22グ	34×31×28	円 形	
35	AV-22グ	36×35×64	円 形	
36	AW-21グ	34×34×31	円 形	
37	AW-20グ	36×33×40	円 形	
38	AW-20グ	30×28×51	円 形	
39	AV-20グ	43×36×41	円 形	
40	AU-20グ	45×36×41	楕 円 形	
41	AV-19グ	28×25×25	円 形	
42	AU-19グ	28×25×40	円 形	
43	AU-20グ	33×24×16	楕 円 形	
44	AU-20グ	24×24×12	円 形	
45	AU-21グ	22×20×23	円 形	
46	AU-21グ	30×25×36	楕 円 形	
47	AU-21グ	22×20×17	円 形	
48	AU-21グ	21×20×25	円 形	
49	AT-AU-21グ	20×18×16	円 形	

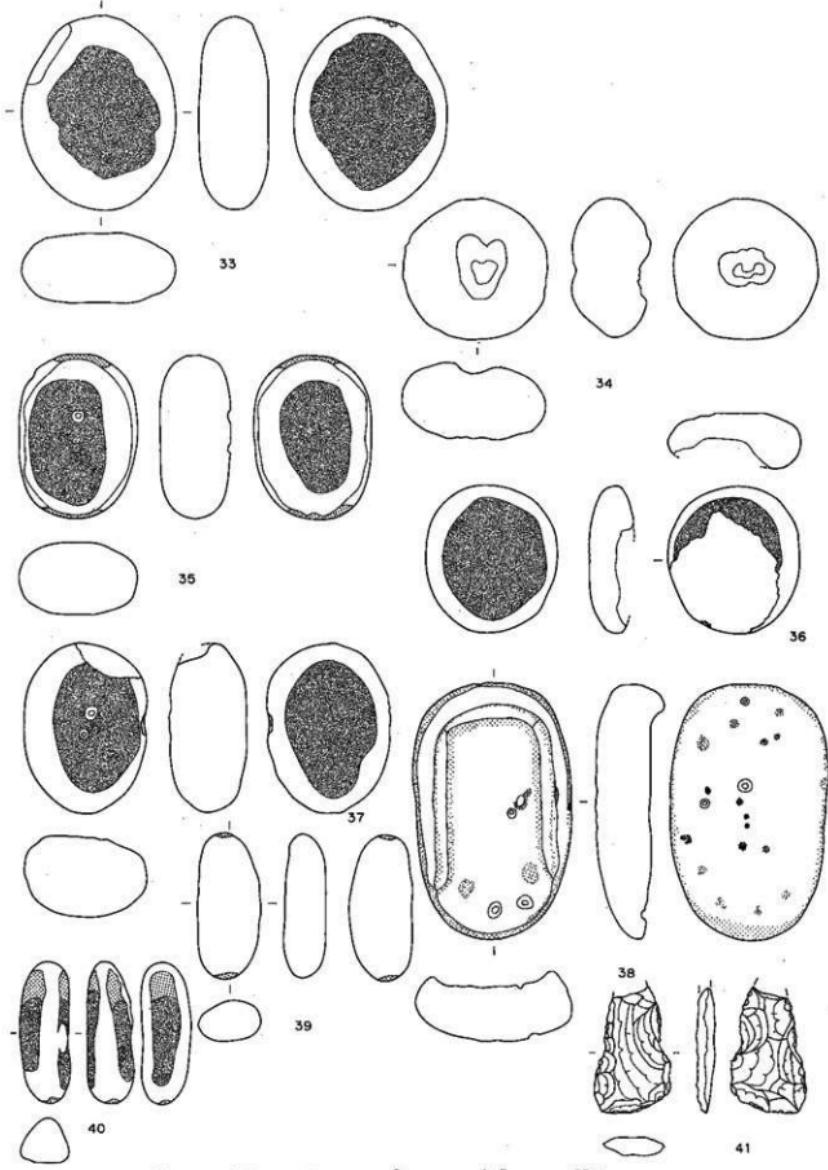
番号	位置	法量	平面形	備考
50	AT-21グ	20×17×16	円 形	
51	AT-21グ	23×20×25	円 形	
52	AU-21グ	31×30×20	円 形	
53	AU-20グ	24×20×19	円 形	
54	AU-20グ	31×22×26	楕 円 形	
55	AU-20グ	29×26×29	円 形	
56	AU-19グ	26×18×21	楕 円 形	
57	AU-19グ	24×21×33	円 形	
58	AU-19グ	19×16×14	円 形	
59	AU-19グ	20×18×20	円 形	
60	AU-18グ	40×34×20	楕 円 形	
61	AU-18グ	24×20×16	楕 円 形	
62	AX-20グ	42×26×36	不 整 形	
63	AY-18グ	39×34×57	円 形	
64	AY-18グ	38×34×20	円 形	
65	AY-18グ	28×24×26	楕 円 形	
66	AY-18グ	64×48×45	楕 円 形	
67	AX-18グ	43×27×15	楕 円 形	
68	AX-19グ	83×75×168	円 形	
69	BA-20グ	44×44×30	円 形	
70	BA-18グ	25×25×25	円 形	
71	BA-18グ	34×31×23	円 形	
72	BB-18グ	50×30×16	楕 円 形	
73	BB-18グ	42×33×15	楕 円 形	
74	BB-18グ	42×33×13	楕 円 形	
75	BC-19グ	38×36×24	円 形	
76	BD-18グ	42×39×20	円 形	
77	BA-18グ	37×26×30	楕 円 形	
78	BA-17グ	22×20×32	円 形	
79	BA-17グ	17×28×15	楕 円 形	
80	BA-18グ	36×40×14	楕 円 形	
81	AW-14グ	32×30×27	円 形	
82	AV-12グ	40×37×62	円 形	
83	AW-11グ	57×42×51	楕 円 形	
84	BA-13グ	43×27×33	楕 円 形	
85	BB-13グ	54×35×28	楕 円 形	
86	BB-15グ	31×21×8	楕 円 形	
87	BD-15グ	36×33×16	円 形	
88	BD-15グ	37×32×14	円 形	
89	BD-15グ	42×40×21	円 形	
90	BC-16グ	35×32×20	円 形	
91	BI-16グ	36×36×16	円 形	
92	BI-17グ	40×37×16	円 形	
93	BO-18グ	30×28×13	円 形	
94	BO-18グ	24×19×26	楕 円 形	
95	BO-18グ	20×16×14	楕 円 形	
96	BO-19グ	20×20×15	円 形	
97	BO-19グ	22×22×14	円 形	
98	BA-17グ	23×22×18	円 形	



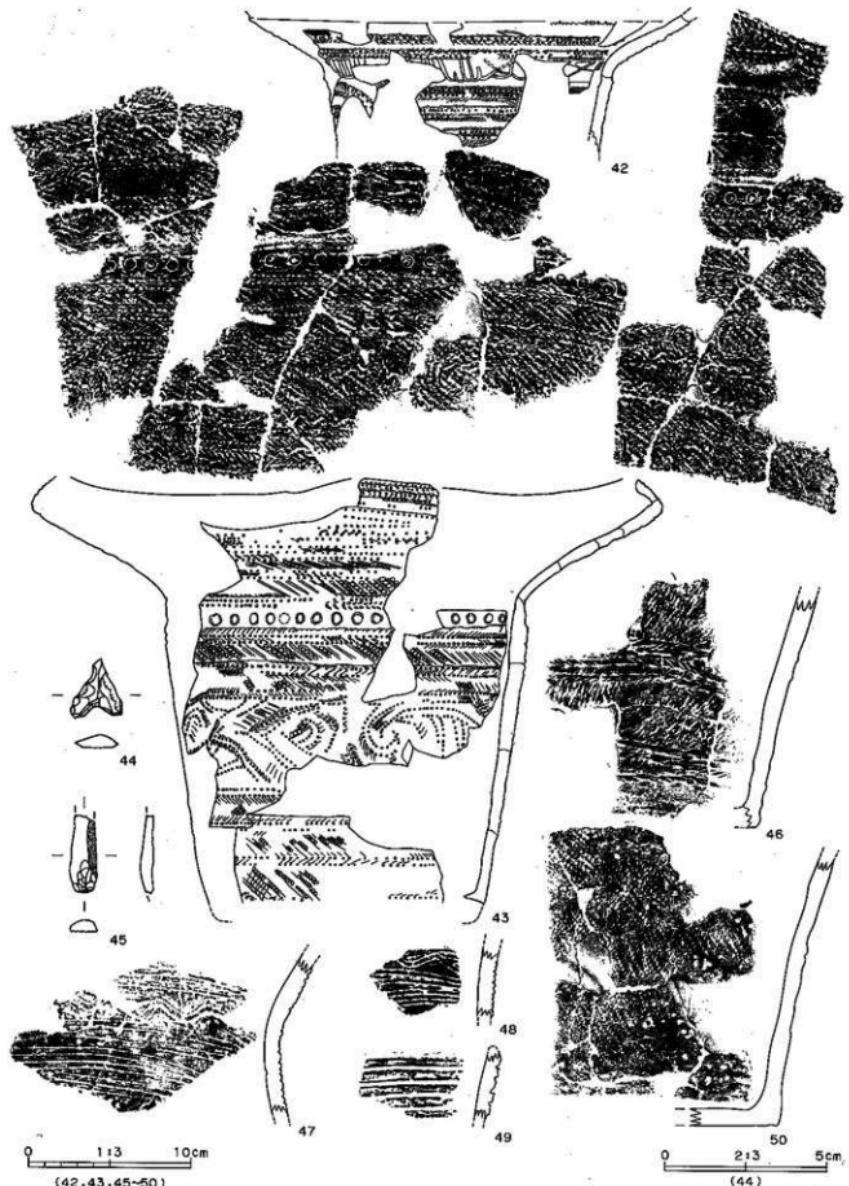
第26図 J-1号住居跡遺物実測図



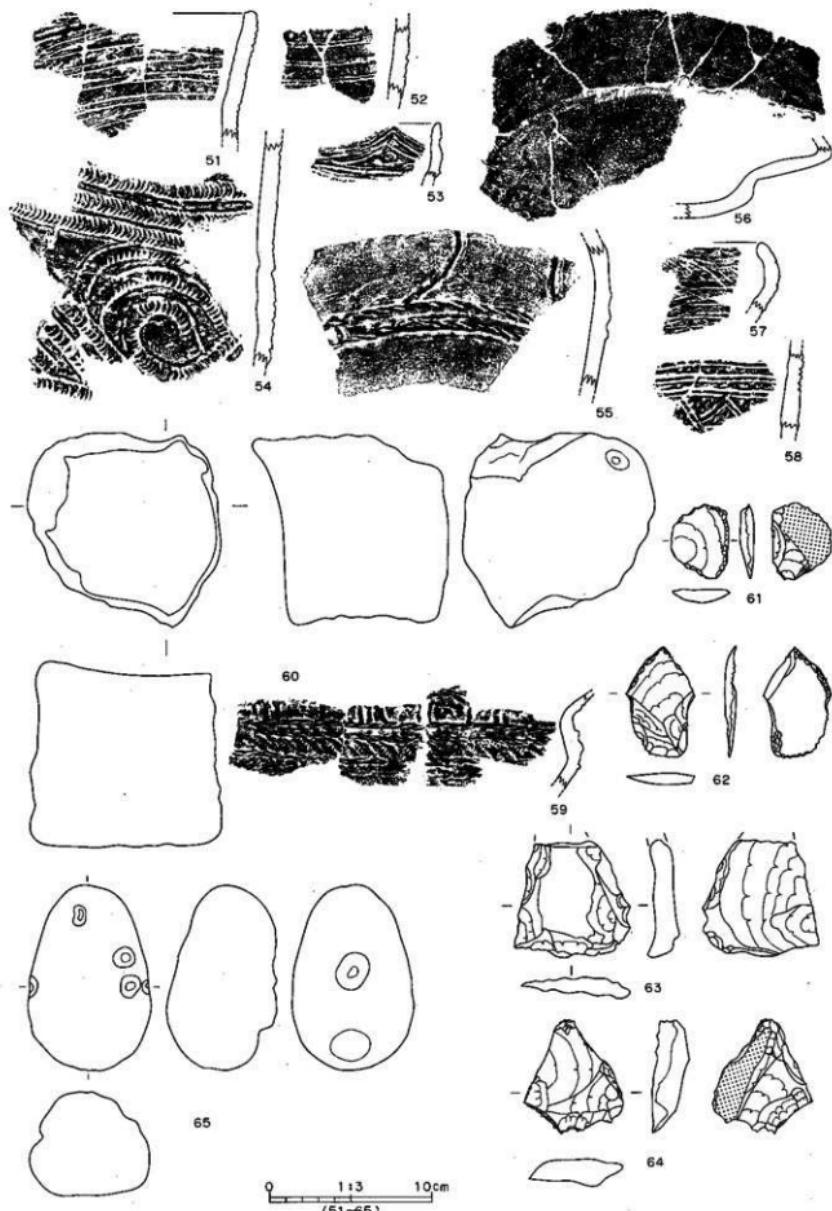
第27圖 J-1號住居跡遺物測量圖



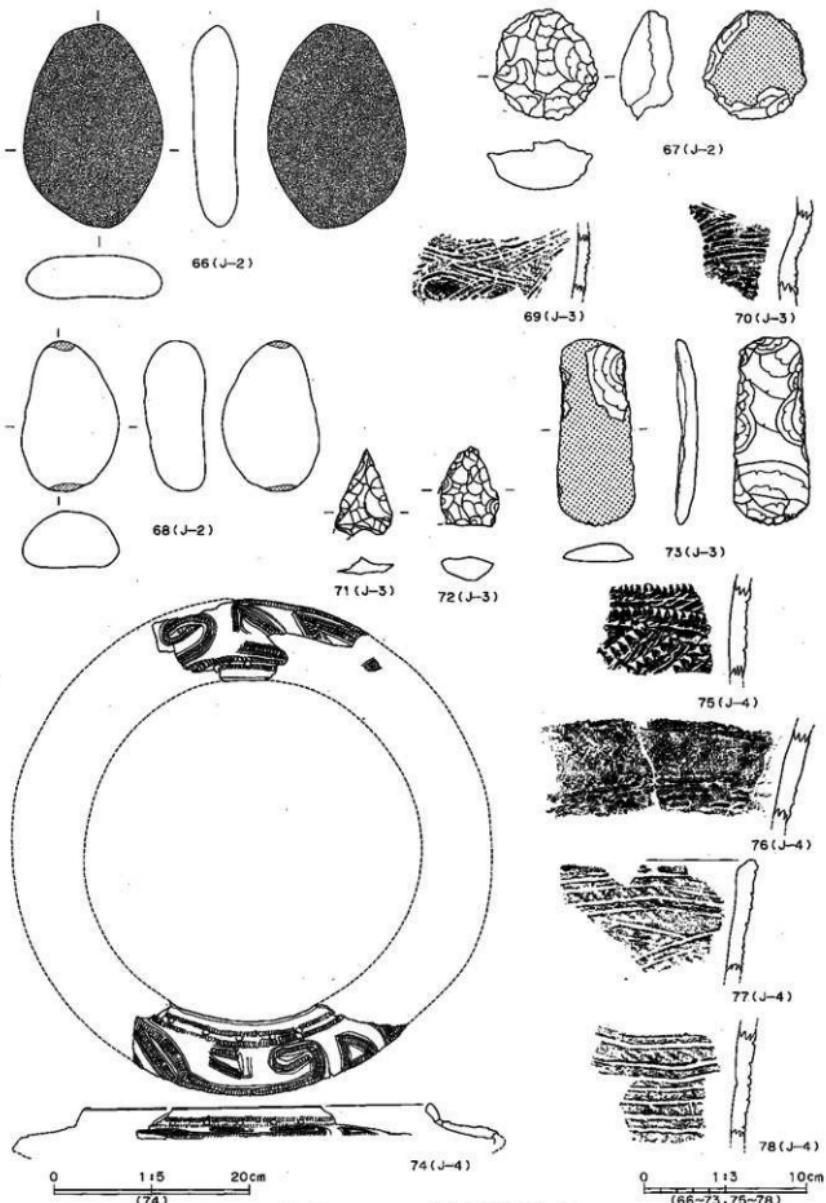
第28圖 J-1号住居跡遺物実測図



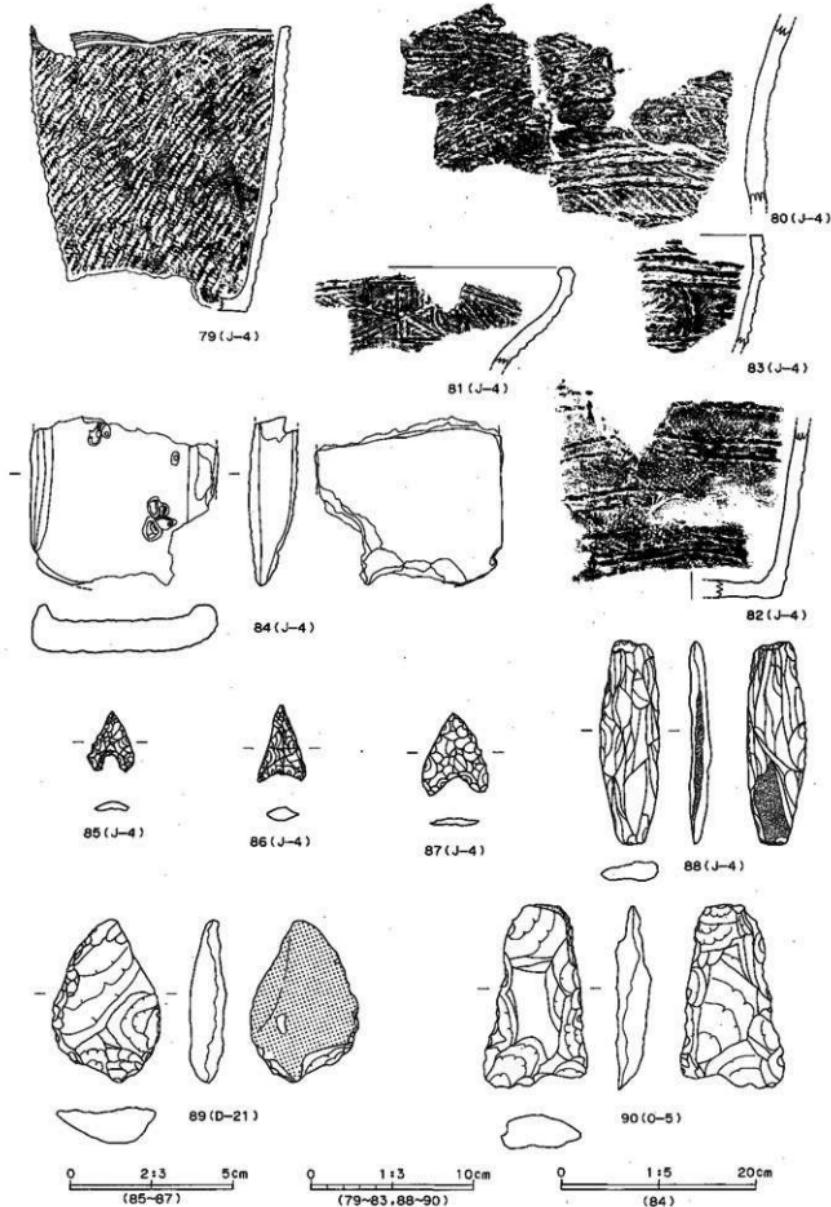
第29图 J-2号住居跡遺物実測図



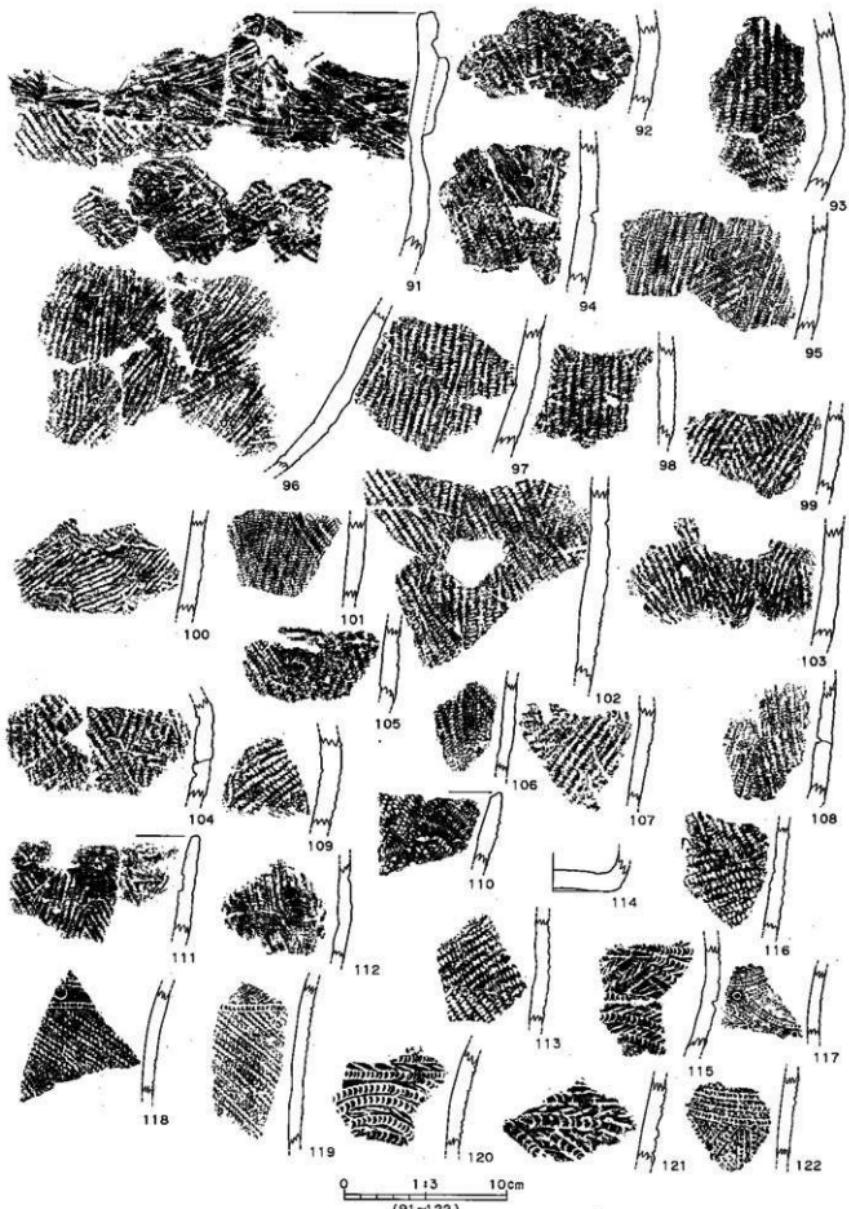
第30圖 J—2號住居跡遺物實測圖



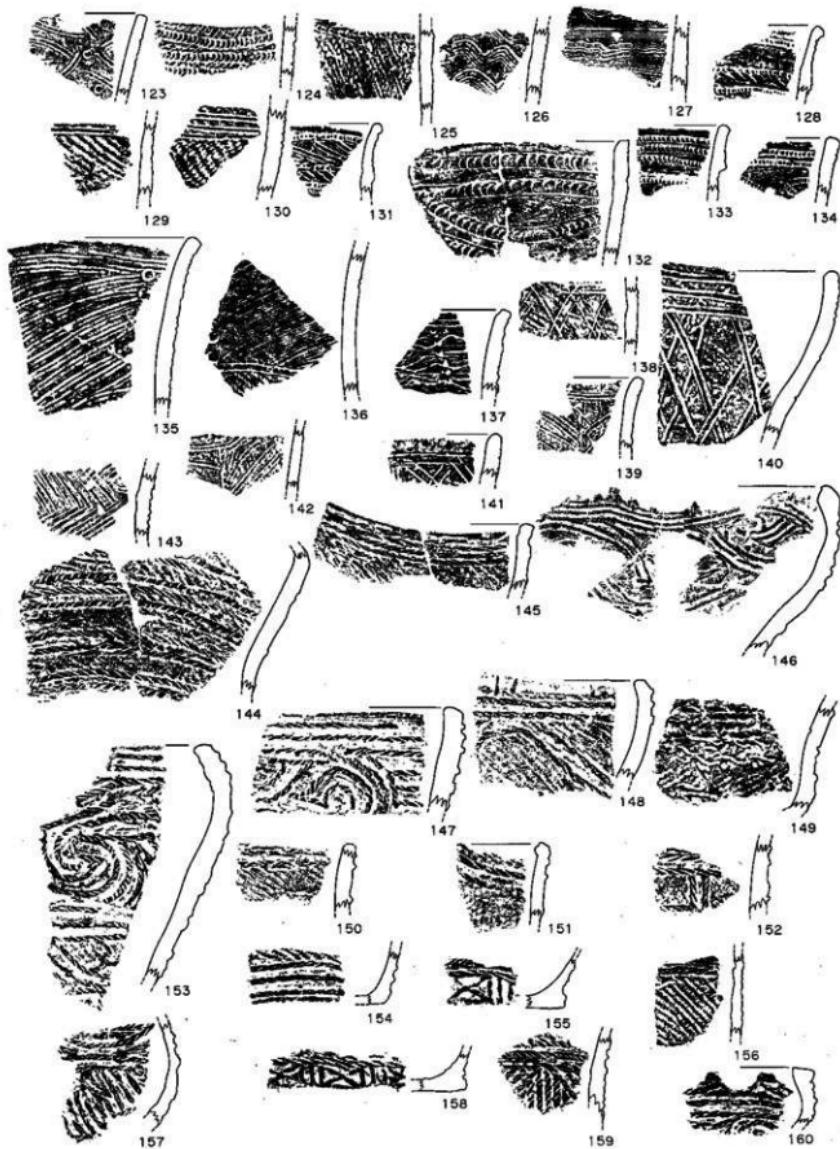
第31図 J-2・3・4号住居跡遺物実測図



第32図 J-4号住居跡、D-21、O-5遺物実測図

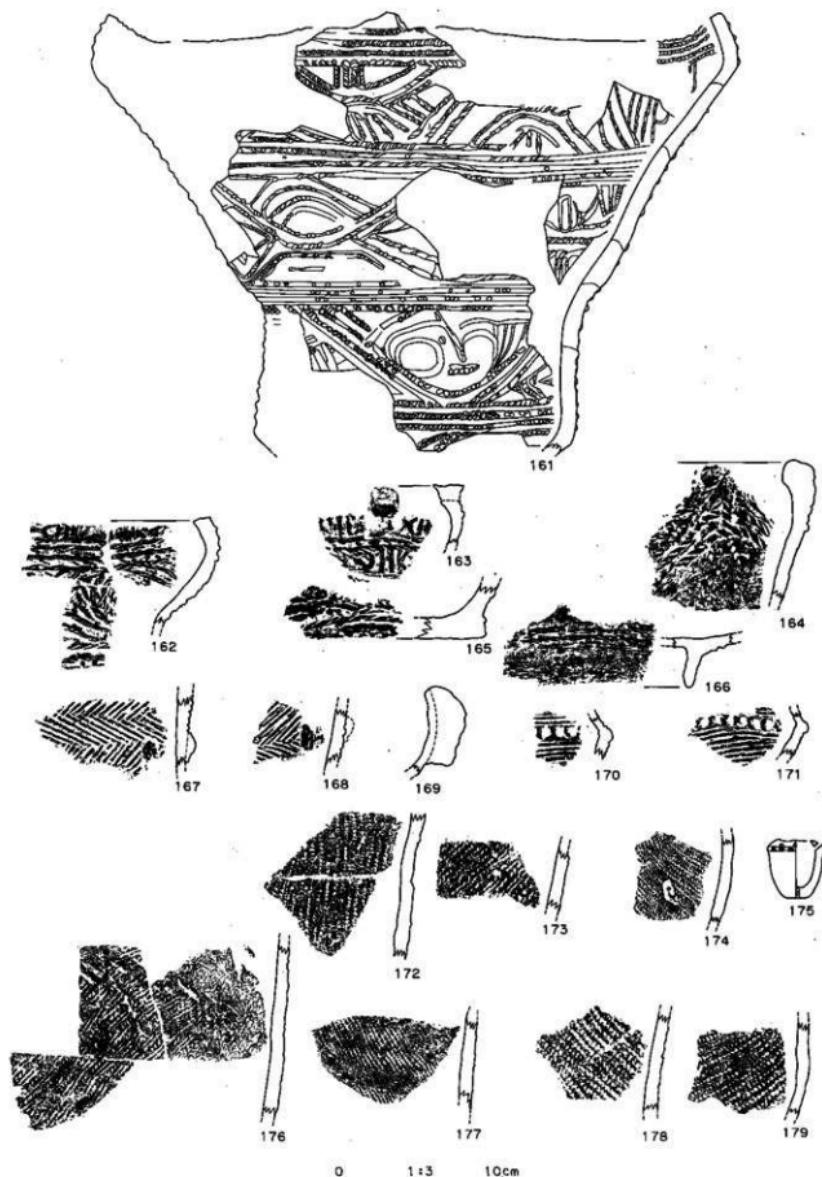


第33図 グリッド出土遺物実測図

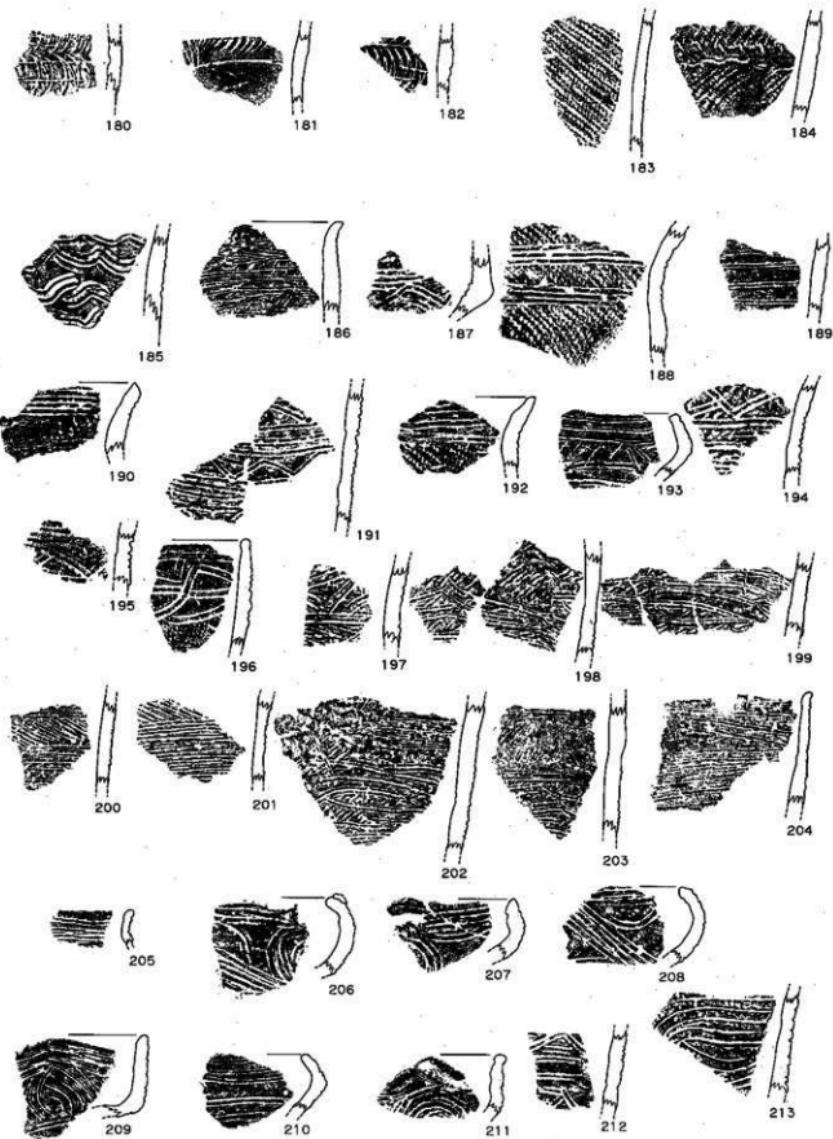


0 1:3 10cm
(123~160)

第34図 グリッド出土遺物実測図

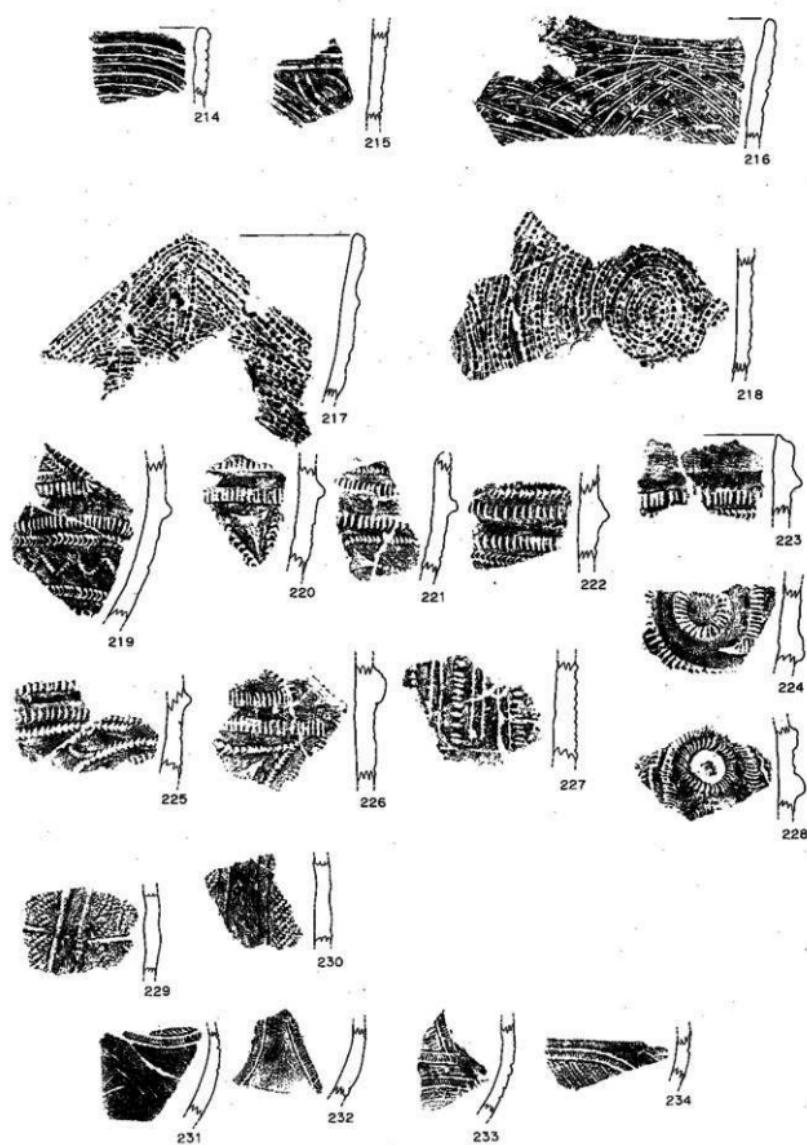


第35図 グリッド出土遺物実測図



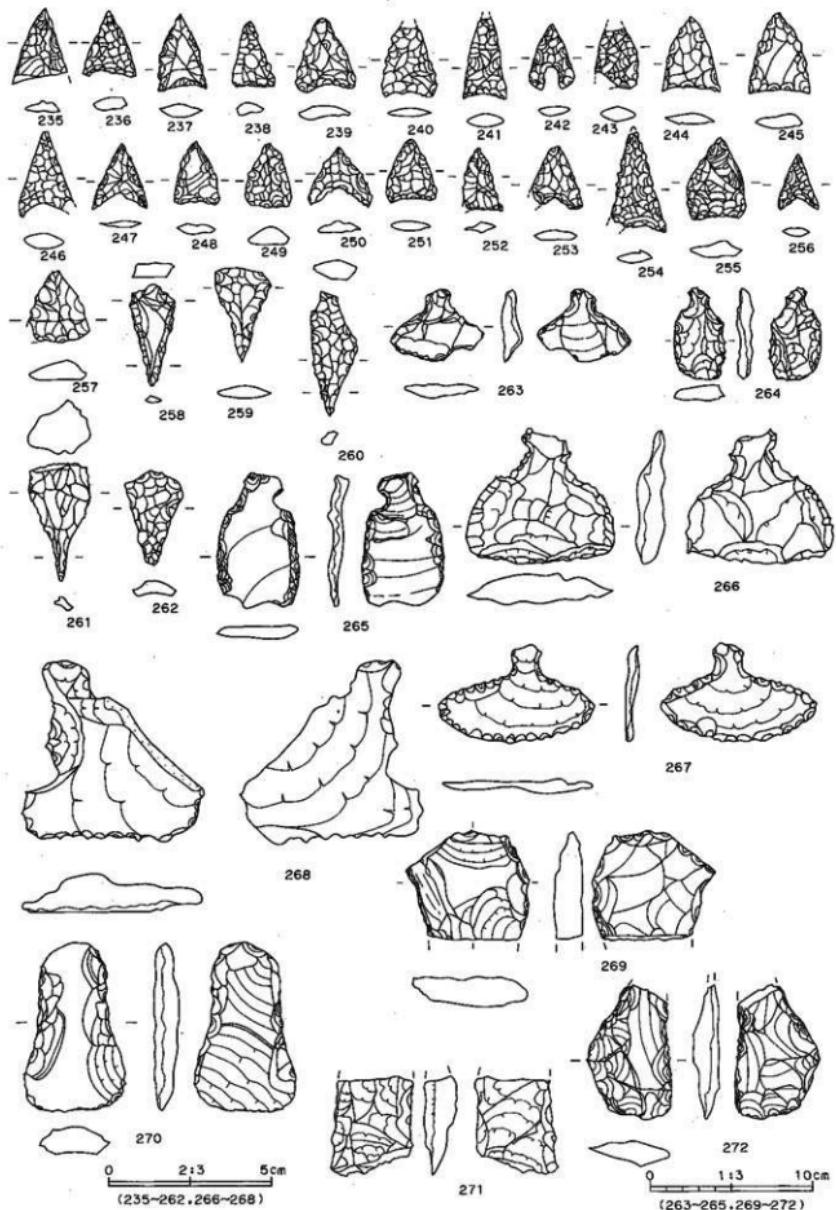
0 1:3 10cm
 (180~213)

第36図 グリッド出土遺物実測図

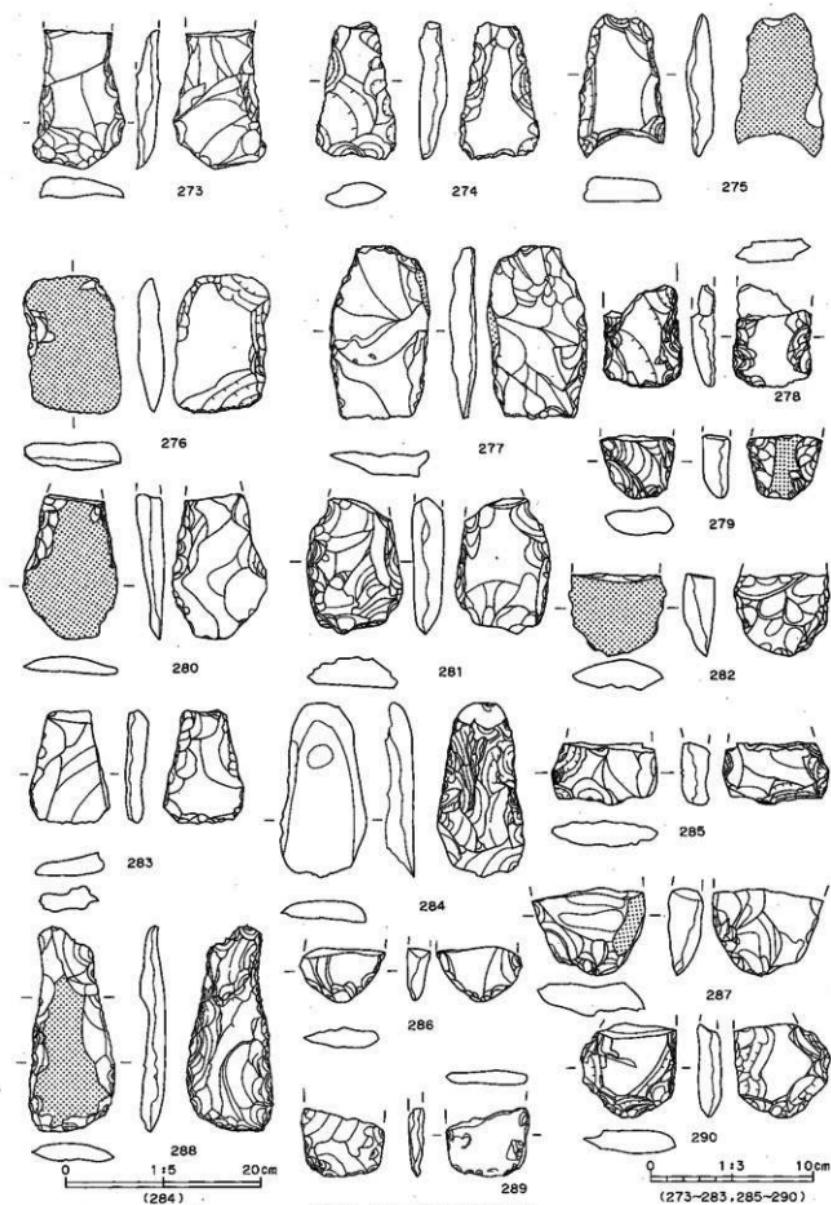


0 1:3 10cm
 (214~234)

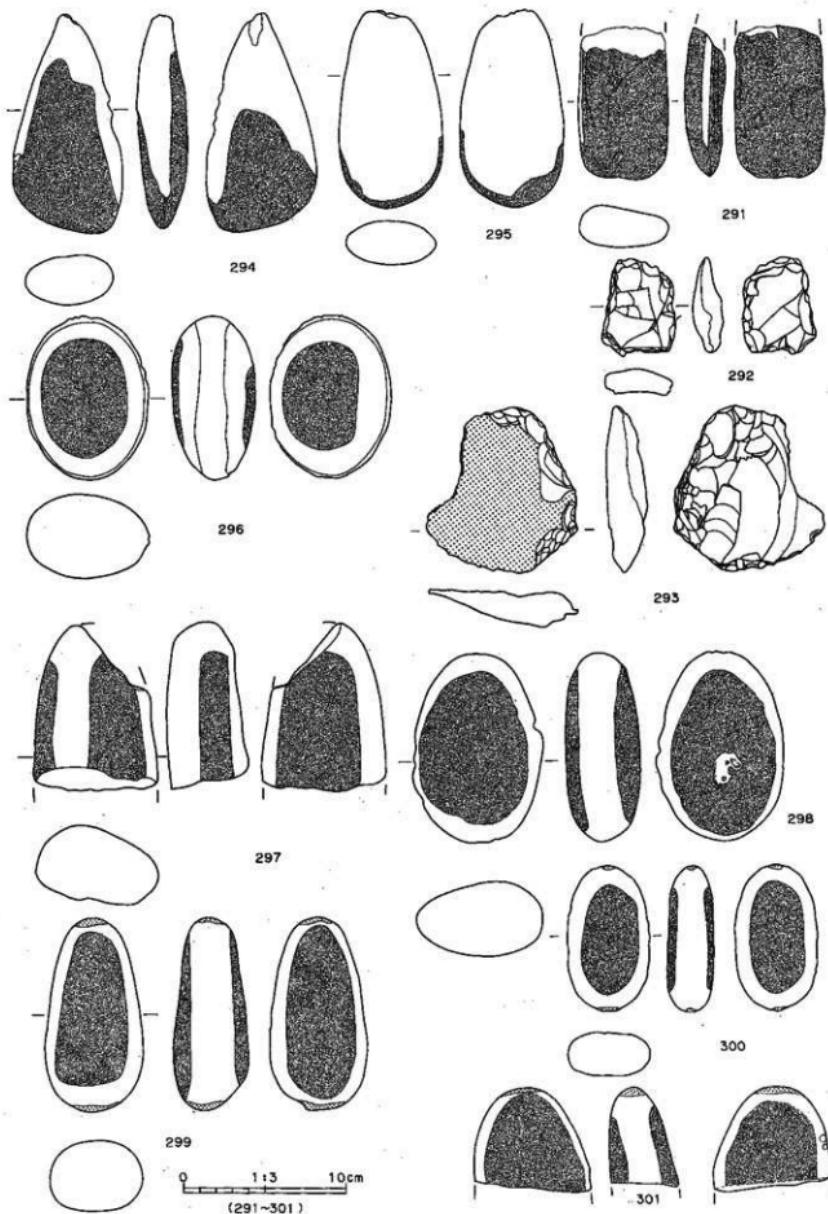
第37図 グリッド出土遺物実測図



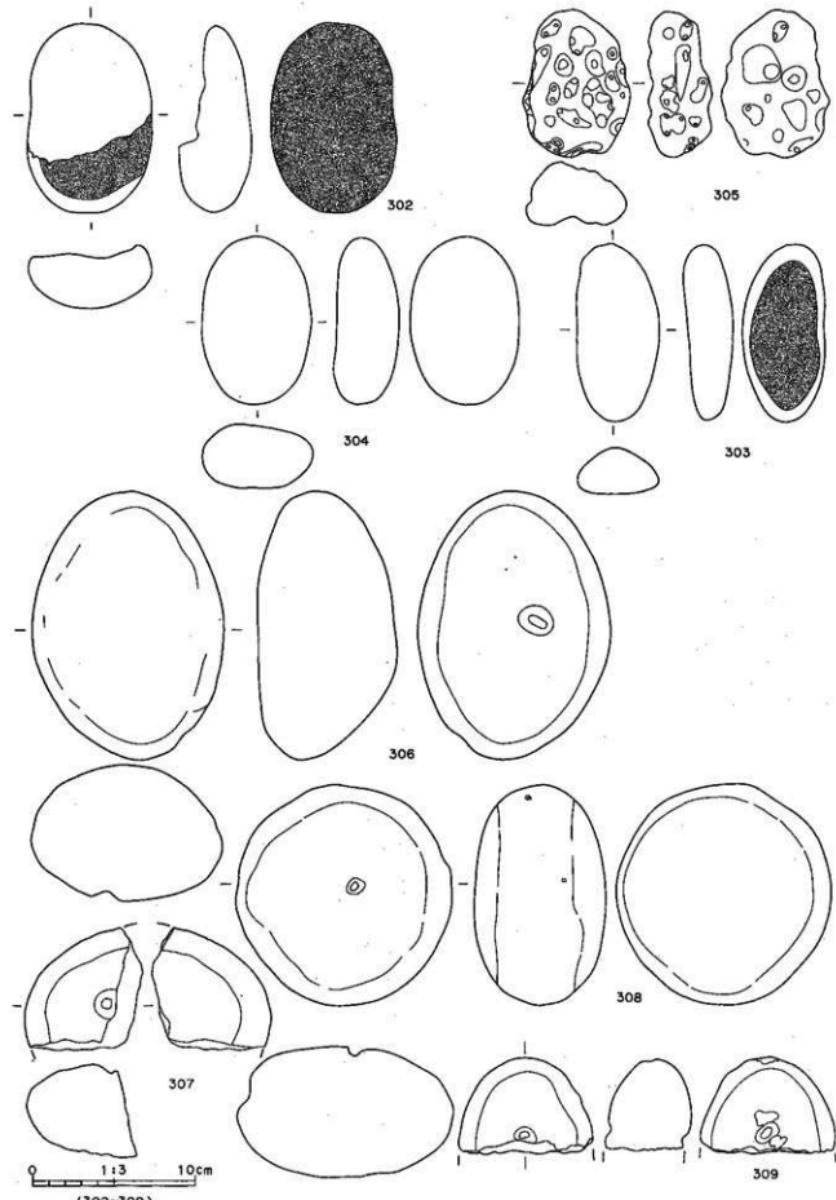
第38図 グリッド出土遺物実測図



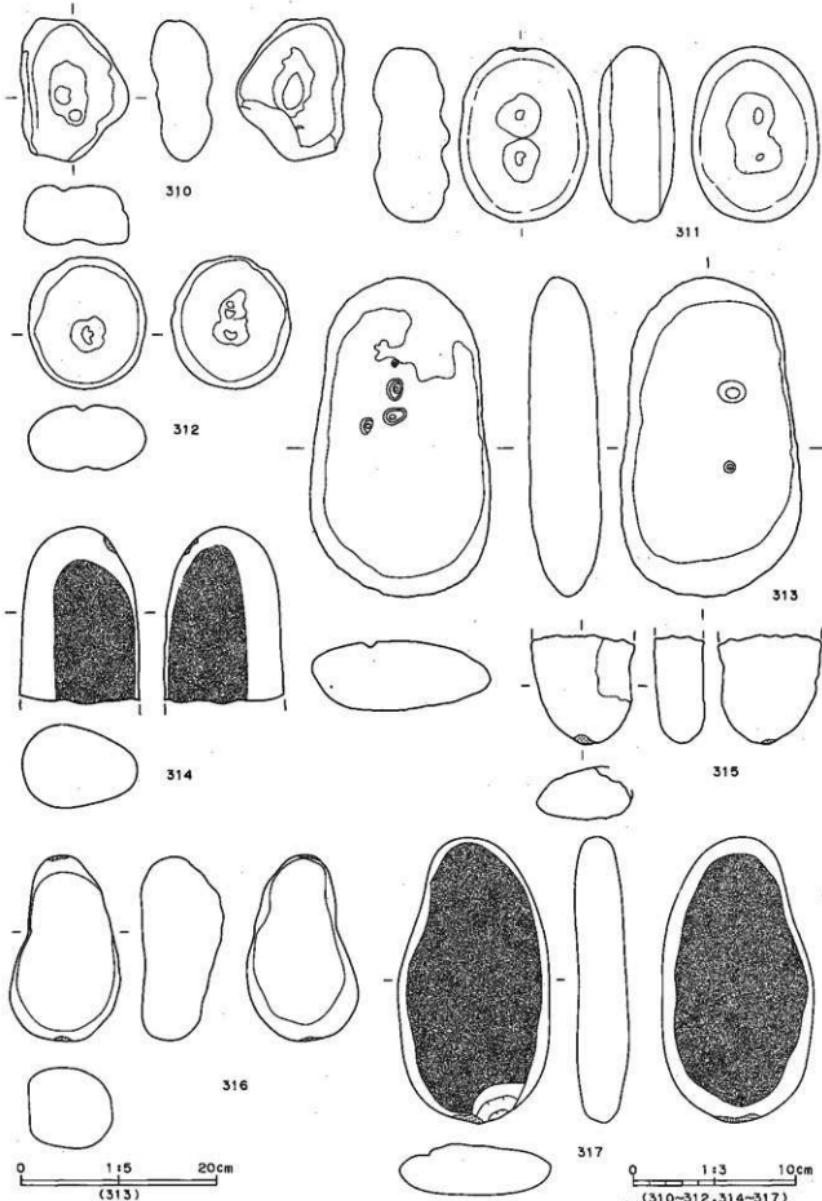
第39図 グリッド出土遺物実測図



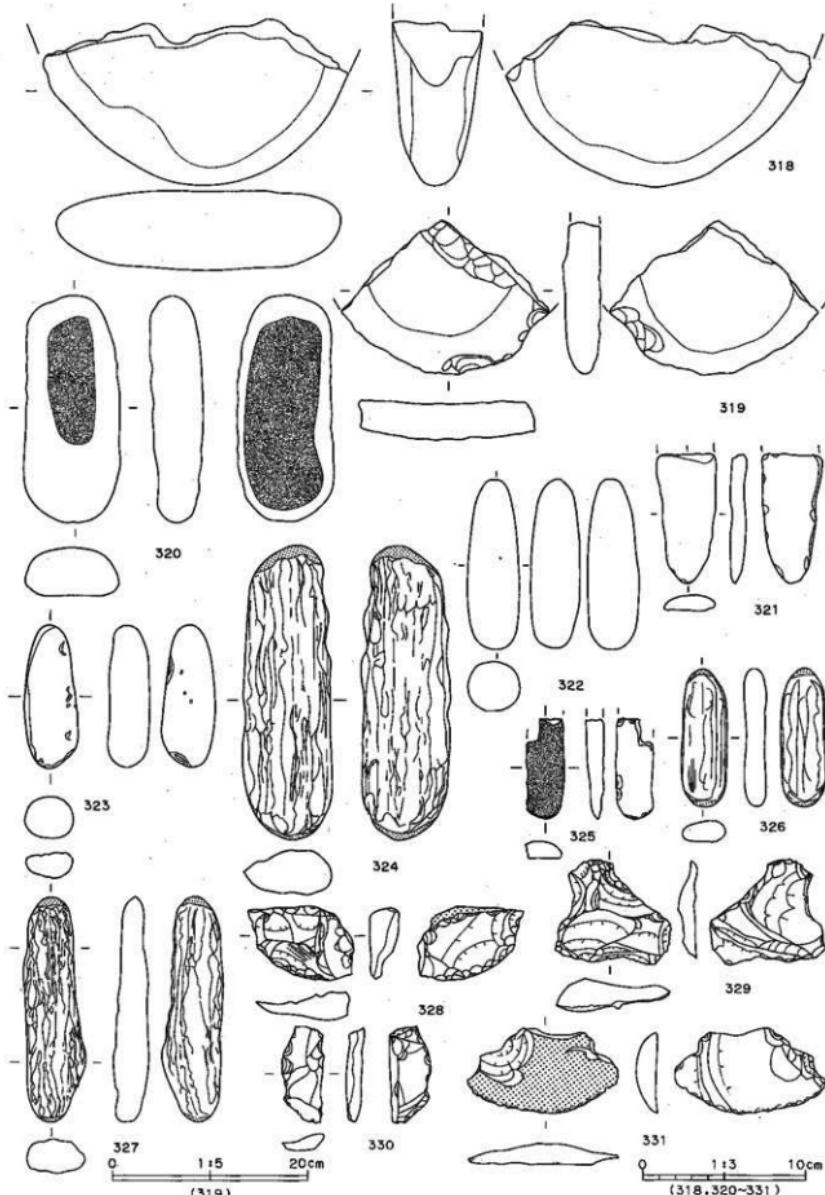
第40図 グリッド出土遺物実測図



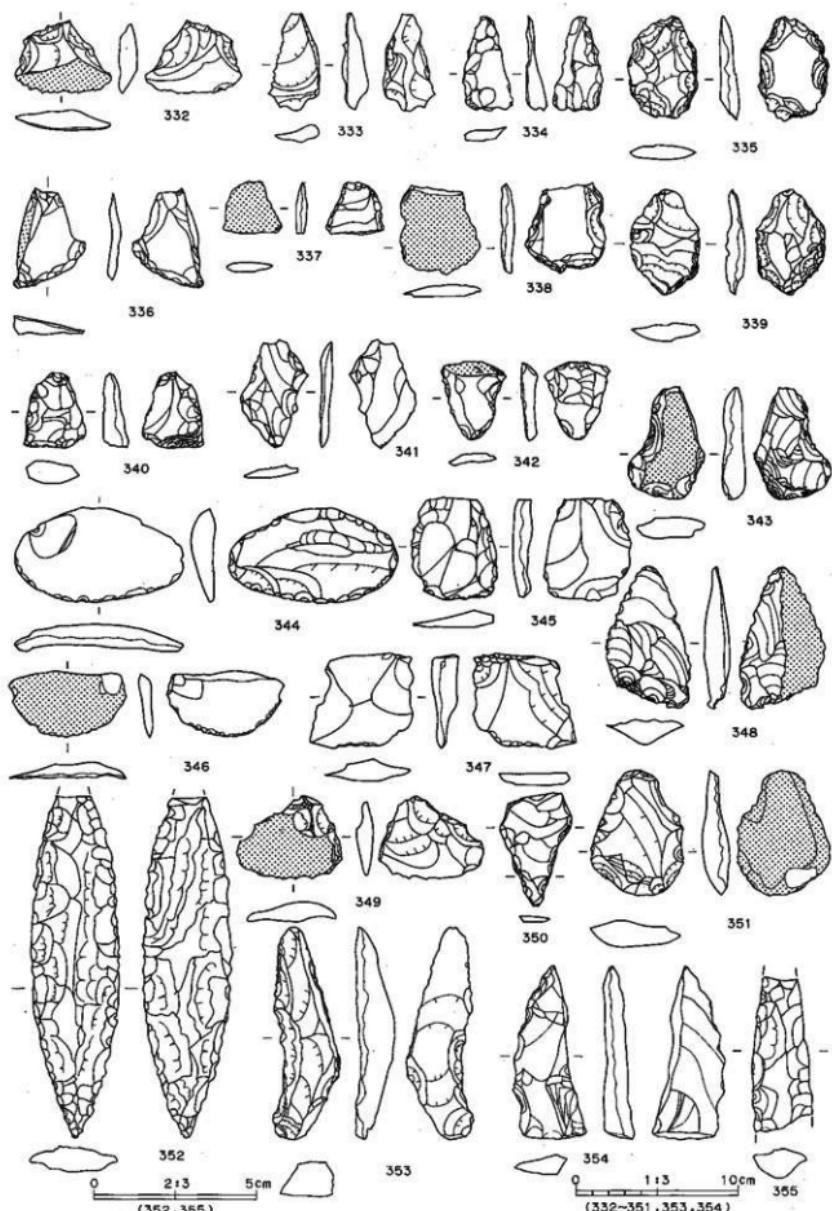
第41図 グリッド出土遺物実測図



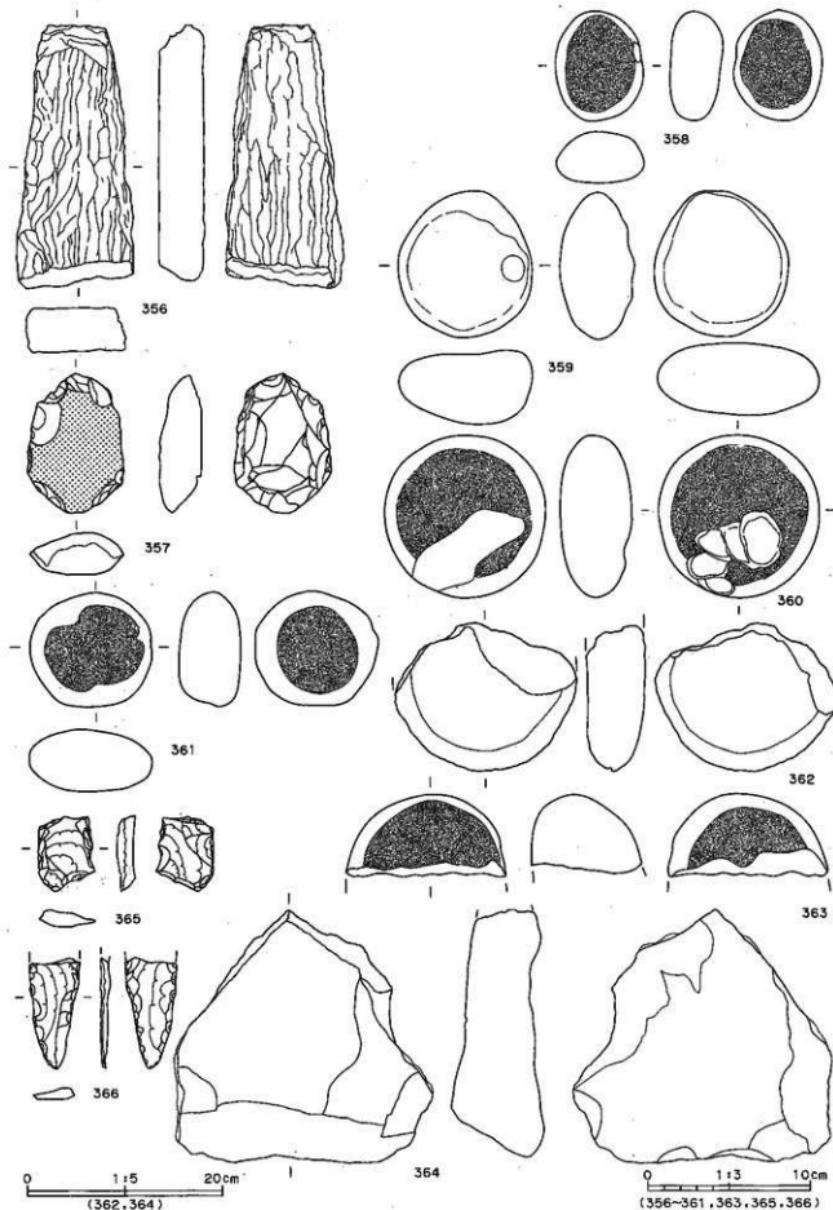
第42図 グリッド出土遺物実測図



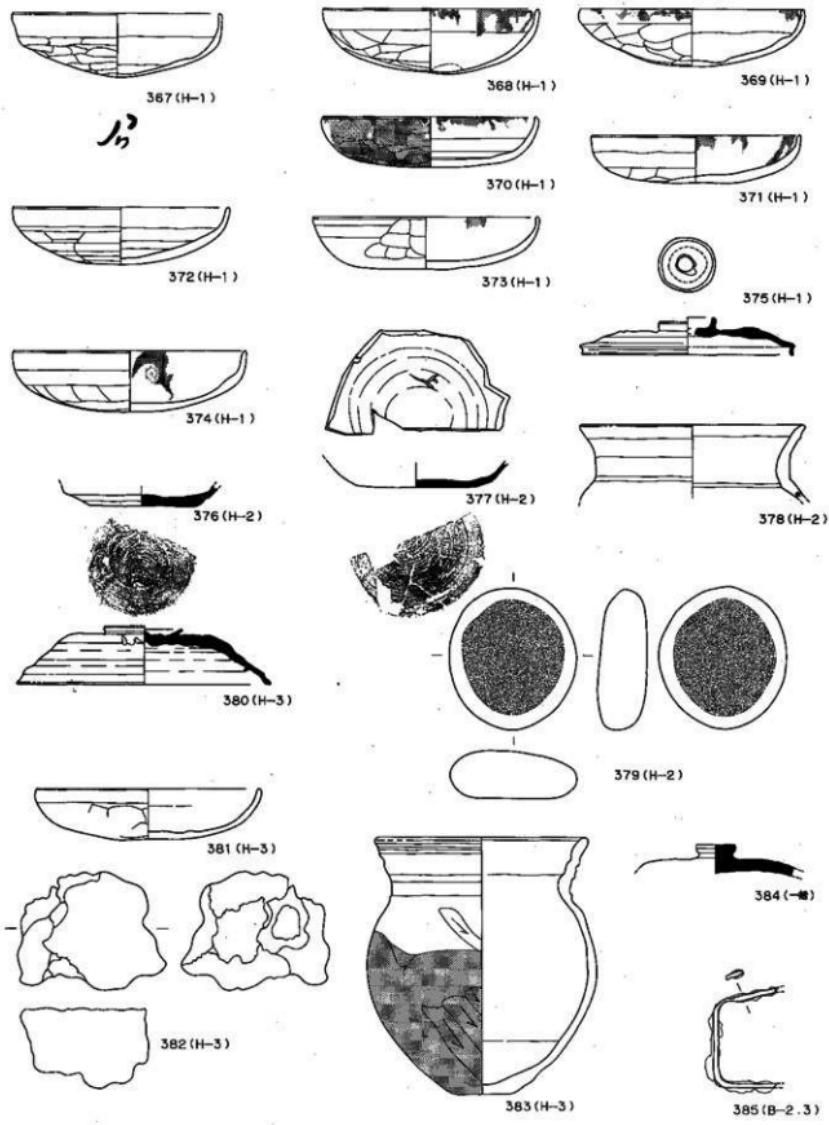
第43図 グリッド出土遺物実測図



第44図 グリッド出土遺物実測図



第45図 グリッド出土遺物実測図



0 1:3 10cm
(367~385)

第46図 H-1~3、B-2~3、グリッド出土遺物実測図



西側調査区 調査前全景



東側調査区 調査前全景



作業風景 包含層マス掘り



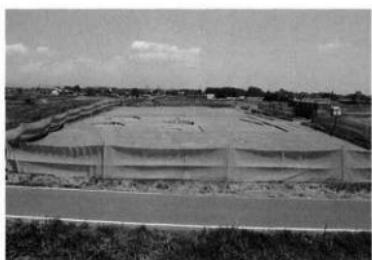
西側調査区全景（南より）



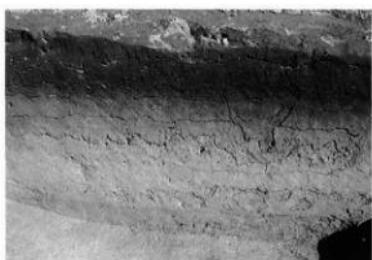
西側調査区全景（北より）



東側調査区全景（東より）



東側調査区全景（西より）

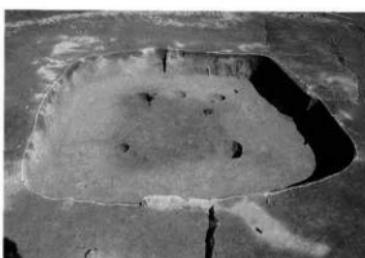


西側調査区東壁深堀セクション

図版 2



東側調査区東堀深堀セクション



J-1 全景



J-1 遺物出土状況



J-1 炉-2 全景



J-1 埋設土器出土状況



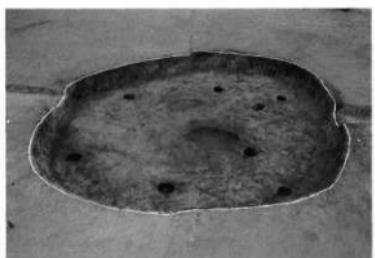
J-1 埋設土器セクション



J-1 遺物出土状況 (No.37・38)



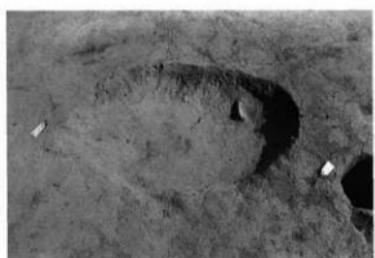
J-1 遺物出土状況 (No.3)



J-2 全景



J-2 遗物出土状况



J-2 炉-1 全景



J-2 炉-2 全景



J-3·4 全景



J-3 遗物出土状况



J-4 遗物出土状况



J-4 遗物出土状况

図版 4



J-4 埋設土器出土状況



J-4 埋設土器セクション



J-4 炉-2 全景



J-4 遺物出土状況



J-4 遺物出土状況



BK-16・17グリッド内遺物出土状況



BK-16・17グリッド内遺物出土状況



BK-16グリッド内遺物出土状況



グリッド遺物出土状況 (No.180)



グリッド遺物出土状況 (No.218)



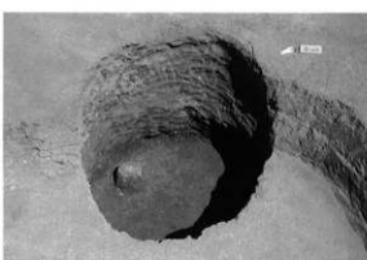
グリッド遺物出土状況 (No.294・295)



D-14全景



D-21全景



D-22全景



溝状遺構全景



H-1全景

図版 6



H-1 カマド全景



H-1 カマド遺物出土状況



H-1 遺物出土状況



H-1 遺物出土状況



H-2 全景



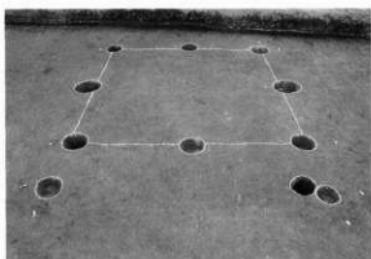
H-2 カマド全景



H-2 遺物出土状況



H-3 全景



图版 8



1 (J-1)



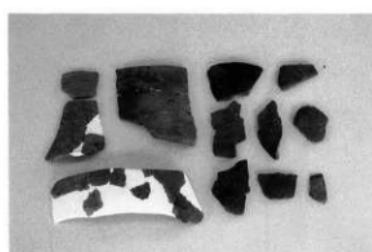
2 (J-1)



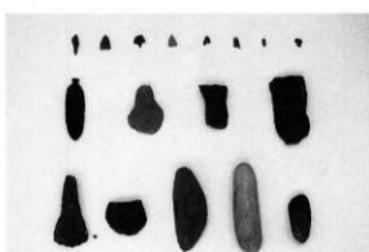
3 (J-1)



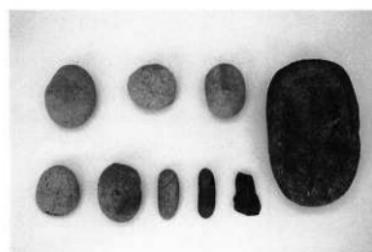
4 (J-1)



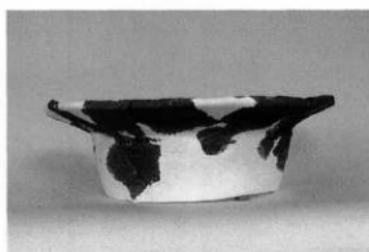
5~15 (J-1)



16~32 (J-1)



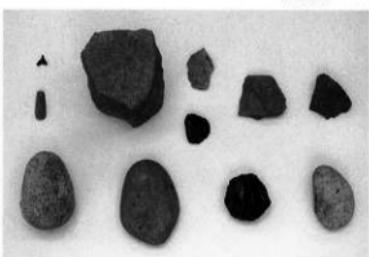
33~41 (J-1)



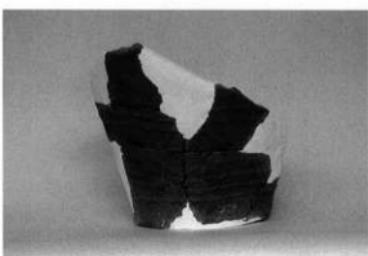
42 (J-2)



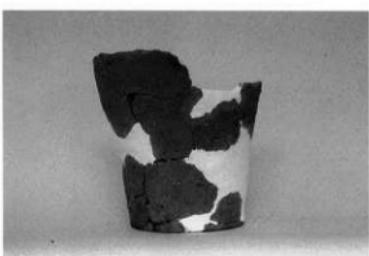
43 (J-2)



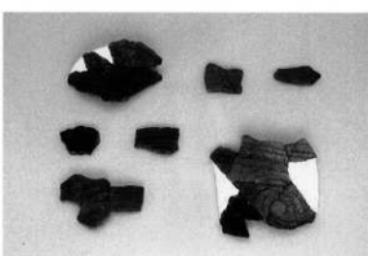
44, 45, 60~68 (J-2)



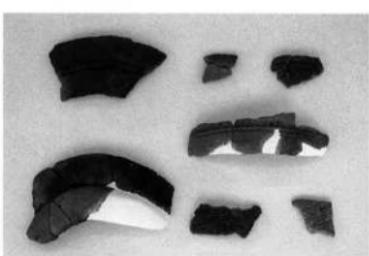
46 (J-2)



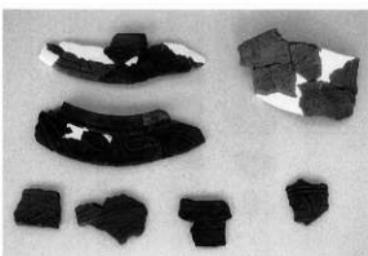
50 (J-2)



47~49, 51~54 (J-2)



55~59 (J-2) 69, 70 (J-3)



74, 75, 77, 78, 80, 83 (J-4)



71~73 (J-3) 84~88 (J-4) 89 (D-2), 90 (O-5)

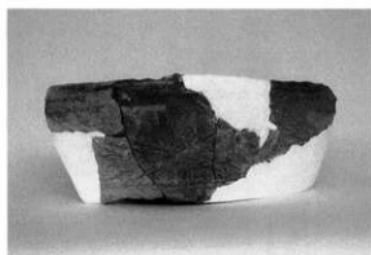
図版 10



76 (J-4)



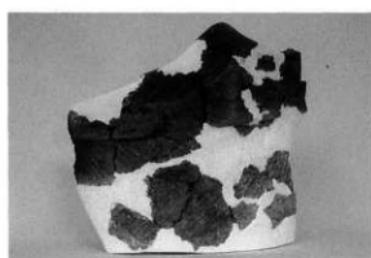
79 (J-4)



81 (J-4)



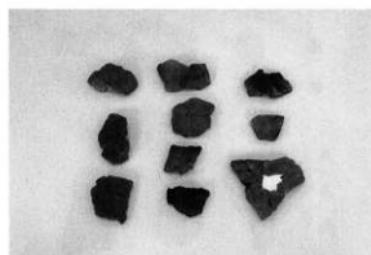
82 (J-4)



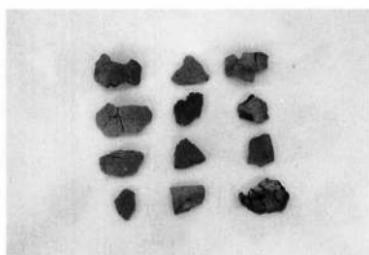
91 (グリッド)



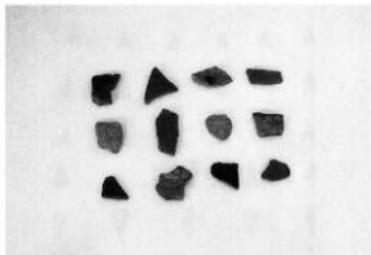
96 (グリッド)



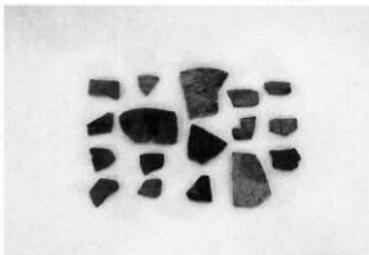
92~95, 97~102 (グリッド)



103~114 (グリッド)



115~126 (グリッド)



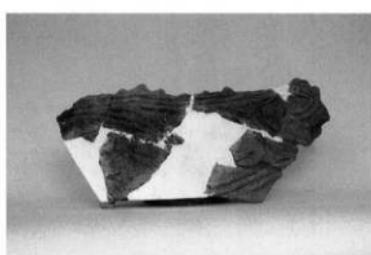
127~143 (グリッド)



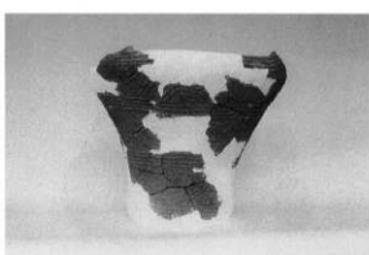
144、145、147~160、162~166 (グリッド)



167~182 (グリッド)



146 (グリッド)



161 (グリッド)



183~199 (グリッド)

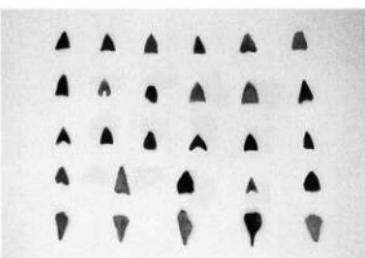


200~216 (グリッド)

図版 12



217~234 (グリッド)



235~262 (グリッド)



263~283 (グリッド)



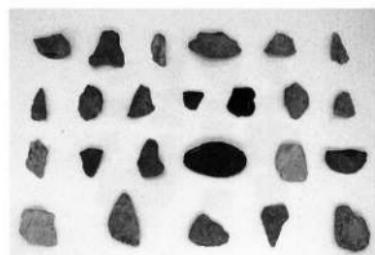
284~301 (グリッド)



302~313 (グリッド)



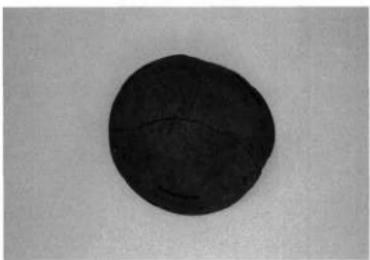
314~327 (グリッド)



328~351 (グリッド)



352~366 (グリッド)



367 (H-1 カマド)



368 (H-1 カマド)



369 (H-1 カマド)



370 (H-1 カマド)



371 (H-1 カマド)



372 (H-1 カマド)



373 (H-1)

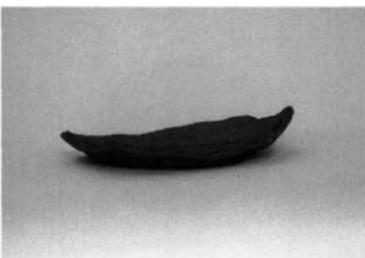


374 (H-1)

図版 14



375 (H-1カマド)



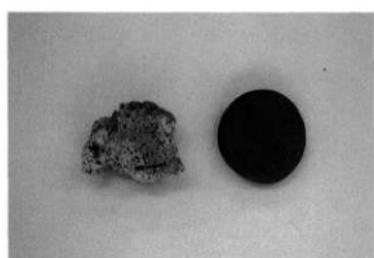
376 (H-2)



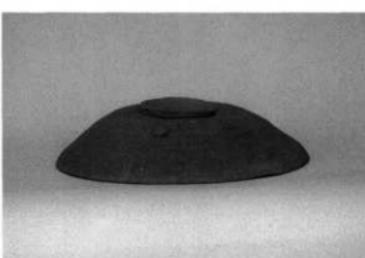
377 (H-2)



378 (H-2カマド)



379 (H-2) 382 (H-3)



380 (H-3)



381 (H-3)



383 (H-3)

抄 錄

フリガナ	トミダシモダイニチニイセキ
書名	ローズタウン遺跡群 富田下大日II遺跡
副書名	12年度ローズタウン住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	平野 岳志(前橋市埋蔵文化財発掘調査団) 板垣 宏(スナガ環境測設株式会社)
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町2丁目10-2
発行年月日	西暦2001年3月23日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
ローズタウン遺跡群 富田下大日II遺跡	前橋市江木町 1821番地外	10201	12E 47	36°23'37"	139°08'26"	20001228 20010323	7972m ²	住宅団地 造成事業

所収遺跡名	種 别	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物
ローズタウン遺跡群	縄文集落跡	縄文時代前期	住居跡 4軒	前期の土器、石器
	土師集落跡	奈良・平安時代	住居跡 3軒	土師器、須恵器、墨書き・刻書き土器
	掘立柱集落跡	奈良・平安時代	3 棟	鉄製品
富田下大日II遺跡	竪穴状遺構	奈良・平安時代	1ヶ所	
	土 坑	縄文・平安時代	27基	
	ビ ッ ト	平安時代、不明	98基	
	風 倒 木 痕	不 明	7ヶ所	

ローズタウン遺跡群 富田下大日II遺跡

2001年3月23日 発 行

発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三保町2丁目10-2

編 集 スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1